

玉名市文化財調査報告 第37集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅹ

— 平成26・27年度の調査 —

平成30年(2018)3月

玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告 第37集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅹ

— 平成26・27年度の調査 —

平成30年（2018）3月

玉名市教育委員会

序 文

玉名市は、熊本県北西部に位置しており、古くから小岱山や菊池川、有明海の恩恵を受け、豊かな自然や温泉、歴史的資源に恵まれた地域です。旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、装飾古墳をはじめ、旧干拓堤防施設など各時代の文化財が多く所在しております。特に菊池川流域における弥生時代から米作りにかかわるストーリーと構成文化財は、今年度「日本遺産」として認定されたところです。

このような中で、玉名市教育委員会では、公共及び民間の様々な開発事業に対応しながら調整を図り、事前調査から発掘調査等を行っております。

また、市内に多く所在する遺跡の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、平成26・27年度に実施した各種開発に伴う試掘確認調査・発掘調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

平成30年3月23日

玉名市教育委員会

教育長 池田 誠一

例言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成26・27年度に国庫補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課田中康雄、中村安宏、末永崇、齧父雅史が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、古森政次、古閑敬士が行い、デジタルトレースを江見恵留が担当した。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は齧父が行った。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記した。座標値は、世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同一年度と同遺跡の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 遺跡名称は、基本的に調査時の名称で統一し、その後名称変更したものについては、本文内で変更後の名称を付している。
9. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
10. トレンチの表記は本文中を除きTと省略している。
11. 出土遺物の整理作業及び実測は、古森、古閑が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
12. 本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報文をもとに齧父が行い、年の神遺跡出土の自然遺物については菊池直樹が行った。編集は、齧父、江見が行った。

本文目次

序文

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

表目次

I. 調査の概要

1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	1
4 活用	2

II. 平成26年度の調査

1 北牟田遺跡	8
2 高瀬本町通遺跡	9
3 松尾遺跡	10
4 幸長寺遺跡 (A地点)	12
5 南大門遺跡群	15
6 山下木佐貫遺跡	18
7 鳥井原遺跡 (A地点)	19
8 高瀬御蔵跡	21
9 立願寺廃寺	25
10 扇崎野中遺跡	29
11 高瀬藩邸跡 (A地点)	30
12 東南大門遺跡 (A地点)	34
13 東南大門遺跡 (B地点)	36
14 高岡原遺跡	39

III. 平成27年度の調査

1 鳥井原遺跡 (B地点)	42
2 高瀬藩邸跡 (B地点)	44
3 古閑遺跡	46
4 九番開堤防	47
5 内添遺跡	48
6 山田神社門前遺跡群	49
7 今見堂遺跡	52
8 吉丸前遺跡	54
9 前畑遺跡	55
10 岩崎原遺跡	57

11	玉名平野遺跡群 (A 地点)	58
12	年の神遺跡 (A 地点)	63
13	玉名平野遺跡群 (B 地点)	65
14	年の神遺跡 (B 地点)	66
15	中尾川原遺跡	67
16	玉名高校校庭遺跡 (A 地点)	68
17	庄山中ノ尾遺跡	69
18	旧菊池川堤防	70
19	東中土遺跡	71
20	幸長寺遺跡 (B 地点)	72
21	玉名高校校庭遺跡 (B 地点)	73
22	伊倉年の神遺跡	74
23	高瀬藩邸跡 (C 地点)	75
24	後田古墳	79
IV. 発掘調査		
1	山下木佐貫遺跡	84
2	年の神遺跡	100

観察表

報告書抄録

奥付

挿図目次

I. 調査の概要		
第 1 図	平成 26 年度調査地位位置図	3
第 2 図	平成 27 年度調査地位位置図	4
II. 平成 26 年度の調査		
第 3 図	北牟田遺跡調査地位位置図	8
第 4 図	北牟田遺跡トレンチ配置図	8
第 5 図	北牟田遺跡トレンチ土層柱状図	8
第 6 図	高瀬木町通遺跡調査地位位置図	9
第 7 図	高瀬木町通遺跡トレンチ配置図	9
第 8 図	高瀬木町通遺跡トレンチ土層柱状図	9
第 9 図	松尾遺跡調査地位位置図	10
第 10 図	松尾遺跡トレンチ配置図	10
第 11 図	松尾遺跡トレンチ実測図	11
第 12 図	幸長寺遺跡調査地位位置図	12
第 13 図	幸長寺遺跡トレンチ配置図	12
第 14 図	幸長寺遺跡出土遺物実測図	12
第 15 図	幸長寺遺跡 1T ~ 8T 実測図	13
第 16 図	南大門遺跡群調査地位位置図	15
第 17 図	南大門遺跡群トレンチ配置図	15
第 18 図	南大門遺跡群土層柱状図	15
第 19 図	南大門遺跡群 S01 実測図	16
第 20 図	山下木佐貫遺跡調査地位位置図	18
第 21 図	山下木佐貫遺跡トレンチ配置図	18
第 22 図	山下木佐貫遺跡 8 トレンチ実測図	18
第 23 図	鳥井原遺跡調査地位位置図	19
第 24 図	鳥井原遺跡トレンチ配置図	19
第 25 図	鳥井原遺跡トレンチ実測図	20
第 26 図	鳥井原遺跡出土遺物実測図	20
第 27 図	高瀬御蔵跡調査地位位置図	21
第 28 図	高瀬御蔵跡トレンチ配置図	21
第 29 図	高瀬御蔵跡調査地測量図	23
第 30 図	高瀬御蔵跡トレンチ及び礎石実測図	24
第 31 図	立願寺廃寺調査地位位置図	25
第 32 図	立願寺廃寺トレンチ配置図	25
第 33 図	立願寺廃寺トレンチ実測図 1	27
第 34 図	立願寺廃寺トレンチ実測図 2	28
第 35 図	扇崎野中遺跡調査地位位置図	29
第 36 図	扇崎野中遺跡トレンチ配置図	29
第 37 図	扇崎野中遺跡トレンチ実測図	29
第 38 図	高瀬藩邸跡調査地位位置図	30
第 39 図	高瀬藩邸跡トレンチ配置図	30
第 40 図	扇崎野中遺跡トレンチ実測図	30

第41図	高瀬藩邸跡井戸実測図	31	第89図	年の神道跡A地点トレンチ配置図	63
第42図	高瀬藩邸絵図	32	第90図	年の神道跡A地点トレンチ土層断面図	64
第43図	高瀬藩邸跡現況図と井戸跡の調査地点	32	第91図	玉名平野遺跡群B地点調査地位置図	65
第44図	東南大門遺跡A地点調査地位置図	34	第92図	玉名平野遺跡群B地点トレンチ配置図	65
第45図	東南大門遺跡トレンチ配置図	34	第93図	玉名平野遺跡群B地点トレンチ柱状図	65
第46図	東南大門トレンチ実測図および柱状図	35	第94図	年の神道跡B地点調査地位置図	66
第47図	東南大門遺跡B地点調査地位置図	36	第95図	年の神道跡B地点トレンチ配置図	66
第48図	東南大門遺跡B地点トレンチ配置図	36	第96図	中尾川原遺跡調査地位置図	67
第49図	東南大門遺跡B地点トレンチ配置図	37	第97図	中尾川原遺跡トレンチ配置図	67
第50図	高岡原遺跡調査地位置図	39	第98図	中尾川原遺跡トレンチ柱状図	67
第51図	高岡原遺跡トレンチ配置図	39	第99図	玉名高校校庭遺跡A地点調査地位置図	68
第52図	高岡原遺跡トレンチ実測図	40	第100図	玉名高校校庭遺跡A地点トレンチ配置図	68
Ⅲ. 平成27年度の調査					
第53図	鳥井原遺跡調査地位置図	42	第101図	玉名高校校庭遺跡A地点トレンチ土層断面図	68
第54図	鳥井原遺跡トレンチ配置図	42	第102図	庄山中ノ尾遺跡調査地位置図	69
第55図	鳥井原遺跡トレンチ土層柱状図	43	第103図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ配置図	69
第56図	高瀬藩邸跡B地点調査地位置図	44	第104図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ土層柱状図	69
第57図	高瀬藩邸跡B地点トレンチ配置図	44	第105図	旧菊池川堤防調査地位置図	70
第58図	高瀬藩邸跡B地点トレンチ実測図	45	第106図	旧菊池川堤防トレンチ配置図	70
第59図	古閑遺跡調査地位置図	46	第107図	旧菊池川堤防トレンチ土層柱状図	70
第60図	古閑遺跡トレンチ配置図	46	第108図	東中土遺跡調査地位置図	71
第61図	古閑遺跡トレンチ実測図	46	第109図	東中土遺跡トレンチ配置図	71
第62図	九番間堤防調査地位置図	47	第110図	東中土遺跡トレンチ土層柱状図	71
第63図	九番間堤防トレンチ配置図	47	第111図	幸長寺遺跡調査地位置図	72
第64図	九番間堤防トレンチ土層柱状図	47	第112図	幸長寺遺跡トレンチ配置図	72
第65図	内添遺跡調査地位置図	48	第113図	幸長寺遺跡トレンチ実測図	72
第66図	内添遺跡トレンチ配置図	48	第114図	玉名高校校庭遺跡B地点調査地位置図	73
第67図	内添遺跡トレンチ土層柱状図	48	第115図	玉名高校校庭遺跡B地点トレンチ配置図	73
第68図	山田神社門前遺跡調査地位置図	49	第116図	玉名高校校庭遺跡B地点トレンチ断面図	73
第69図	山田神社門前遺跡トレンチ配置図	49	第117図	伊倉年の神道跡調査地位置図	74
第70図	山田神社門前遺跡トレンチ実測図	50	第118図	伊倉年の神道跡トレンチ配置図	74
第71図	山田白山宮十二坊塔碑位置図	51	第119図	伊倉年の神道跡トレンチ土層柱状図	74
第72図	今見堂遺跡調査地位置図	52	第120図	高瀬藩邸跡C地点調査地位置図	75
第73図	今見堂遺跡トレンチ配置図	52	第121図	高瀬藩邸跡C地点トレンチ配置図	75
第74図	今見堂遺跡トレンチ実測図	52	第122図	高瀬藩邸跡B地点遺構配置図	76
第75図	吉丸前遺跡調査地位置図	54	第123図	高瀬藩邸跡B地点トレンチ実測図1	76
第76図	吉丸前遺跡トレンチ配置図	54	第124図	高瀬藩邸跡B地点トレンチ実測図2	77
第77図	吉丸前遺跡トレンチ実測図	54	第125図	高瀬藩邸跡B地点井戸実測図	77
第78図	前畑遺跡調査地位置図	55	第126図	後田古墳位置図および周辺地形測量図	80
第79図	前畑遺跡トレンチ配置図	55	第127図	後田古墳付近の横断面	81
第80図	前畑遺跡トレンチ実測図	55	第128図	後田古墳石棺および出土遺物実測図	81
第81図	岩崎原遺跡調査地位置図	57	Ⅳ. 発掘調査		
第82図	岩崎原遺跡トレンチ配置図	57	第129図	山下水佐貫遺跡調査地位置図および発掘遺跡分布図	84
第83図	岩崎原遺跡トレンチ土層柱状図	57	第130図	山下水佐貫遺跡遺構全体図	85
第84図	玉名平野遺跡群A地点調査地位置図	58	第131図	S06実測図	86
第85図	玉名平野遺跡群A地点トレンチ配置図	58	第132図	S04実測図	87
第86図	玉名平野遺跡群A地点トレンチ実測図および柱状図1	60	第133図	S08実測図	88
第87図	玉名平野遺跡群A地点トレンチ柱状図2	61	第134図	S10実測図	89
第88図	年の神道跡A地点調査地位置図	63	第135図	S13実測図	90
			第136図	S14実測図	91

第137図	S15実測図	92
第138図	S01実測図	93
第139図	山下木佐貫遺跡遺物実測図1	94
第140図	山下木佐貫遺跡遺物実測図2	95
第141図	山下木佐貫遺跡出土遺物実測図3	96
第142図	年の神道跡B地点確認調査はばり部分布図100	
第143図	年の神道跡遺構全体図	101
第144図	年の神道跡土層断面図A-B-C-D	102

第145図	年の神道跡S02.05.07.08実測図	103
第146図	年の神道跡S11.17.18.19実測図	104
第147図	年の神道跡遺物実測図1	106
第148図	年の神道跡出土遺物実測図2	107
第149図	年の神道跡出土遺物実測図3	108

写真目次

I. 調査の概要

写真1	トレンチ掘削状況	2
写真2	確認調査状況	2
写真3	発掘速報展示状況	2
II. 平成26年度の調査		
写真4	北牟田遺跡調査地遠景(南から)	8
写真5	高瀬本町通遺跡調査地状況(西から)	9
写真6	大塚古墳上から調査地を望む(南から)	10
写真7	松尾遺跡調査状況	11
写真8	幸長寺遺跡調査状況	14
写真9	南大門遺跡群調査状況	16
写真10	南大門遺跡群調査状況	17
写真11	山下木佐貫遺跡確認調査状況	18
写真12	鳥井原遺跡調査状況(北・南から)	19
写真13	高瀬御蔵跡調査地点(北東から)	22
写真14	高瀬御蔵跡調査状況	24
写真15	立願寺庵寺調査状況	26
写真16	立願寺庵寺調査状況	28
写真17	扇崎野中遺跡調査状況(南東から)	29
写真18	高瀬藩邸跡調査状況1	31
写真19	高瀬藩邸跡調査状況2	33
写真20	東南大門遺跡A地点遺跡調査地点(北から)	34
写真21	東南大門遺跡A地点遺跡調査状況	35
写真22	東南大門遺跡B地点調査前状況(南から)	36
写真23	東南大門遺跡B地点遺跡調査状況	38
写真24	高岡原遺跡調査状況	40
III. 平成27年度の調査		
写真25	鳥井原遺跡調査状況	43
写真26	高瀬藩邸跡B地点確認調査状況(西から)	44
写真27	高瀬藩邸跡調査状況	45
写真28	古閑遺跡確認調査状況(南から)	46

写真29	九番開渠防確認調査状況(西から)	47
写真30	内添遺跡確認調査状況(南東から)	48
写真31	山田神社門前遺跡確認調査状況(南から)	49
写真32	山田神社門前遺跡確認調査状況	50
写真33	今見堂遺跡調査状況	53
写真34	吉丸前遺跡確認調査状況(北から)	54
写真35	前畑遺跡調査状況	56
写真36	岩崎原遺跡調査状況	57
写真37	玉名平野遺跡群A地点調査状況	59
写真38	玉名平野遺跡群A地点調査状況	62
写真39	年の神道跡A地点調査状況(南から)	63
写真40	年の神道跡A地点調査状況	64
写真41	玉名平野遺跡群B地点確認調査状況(南西から)	65
写真42	年の神道跡B地点確認調査状況(西から)	66
写真43	中尾川原遺跡調査状況	67
写真44	庄山中ノ尾遺跡確認調査状況(南から)	69
写真45	旧菊池川堤防調査地点(東から)	70
写真46	東中土遺跡確認調査状況(西から)	71
写真47	玉名高校校舎遺跡B地点調査状況(南東から)	73
写真48	伊倉年の神道跡調査地点(北から)	74
写真49	高瀬藩邸跡C地点調査地点(西から)	75
写真50	高瀬藩邸跡B地点調査地点調査状況	78
写真51	後田古墳調査状況	79
写真52	後田古墳調査状況	82
IV. 発掘調査		
写真53	山下木佐貫遺跡調査状況1	97
写真54	山下木佐貫遺跡調査状況2	98
写真55	山下木佐貫遺跡調査状況3	99
写真56	年の神道跡調査状況1	109
写真57	年の神道跡調査状況2	110

表目次

第1表	平成26・27年度試掘確認調査一覧	6
第2表	平成26・27年度出土遺物観察表(土器類)	111

第3表	平成26・27年度出土遺物観察表(石器類、金属器類)	114
-----	----------------------------	-----

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成 26 年度

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 池田誠一
 調査総括 教育部長 伊子裕幸
 文化課長 中山富雄
 課長補佐 竹田宏司
 文化財係長 小山 博
 庶務担当 参事 西島涼子
 調査担当 参事 田中康雄
 主査 末永 崇
 主任 中村安宏
 主任 藪父雅史

発掘作業員 塚本廣二、松村利男

平成 27 年度

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 池田誠一
 調査総括 教育部長 伊子裕幸
 文化課長 中山富雄
 課長補佐兼文化財係長 竹田宏司
 課長補佐兼文化係長 荒木 勇
 庶務担当 参事 西島涼子
 調査担当 主査 末永 崇
 主任 藪父雅史

発掘作業員 古城明憲、松村利男
 整理調査員 江見恵留、大倉千寿、古閑敬士
 整理作業員 尾崎延枝、古賀武子、五野富美子、
 高津千尋、福田まき

平成 29 年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 池田誠一
 調査総括 教育部長 戸寄孝司
 文化課長 竹田宏司
 文化財係長 田中康雄
 庶務担当 主査 藪父雅史
 報告書担当 主査 藪父雅史

整理調査員 古森政次、江見恵留、古閑敬士、
 整理作業員 尾崎延枝、五野富美子、坂崎郷子、
 藤井めい子

2 調査の方法

試掘確認調査については、0.13～0.28㎡のバックホーを使用して、幅 0.7～1 m 程度のトレンチを掘削しており、包含層や遺構の一部については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準を定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20 スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。

写真は、一眼レフデジタルカメラを用いており、重要な遺構などが確認された場合は、フィルムによる撮影を行っている。

3 調査総括

玉名市では、平成 11 年度から、国・県の補助を受け、開発行為等に伴い各種調査を実施している。

平成 26 年度の届出件数等の統計は、文化財保護法第 93 条による届出 76 件、94 条による通知 8 件がなされ、うち試掘確認調査 14 件、保存目的の確認調査 1 件を実施した。その中で発掘調査となったものが 1 件あった。

平成 27 年度は、第 93 条による届出 68 件、94 条による通知 7 件がなされ、うち試掘確認調査 23 件、保存目的のための確認調査 1 件、踏査 1 件を実施した。その中で発掘調査となったものが 1 件あった。

本調査となった 2 件については、本報告書の最終章に掲載している。

工事立会については、大半が専用住宅の合併浄化槽設置等に伴う小規模なものであり、それらを除き、大規模なものを 3 件実施した。

全体的に規模の大小を問わず、調査件数の 8 割が民間事業に起因するものであった。特に平成 27 年度は例年と比較して調査件数が増加した。

2年分の調査成果を事業別、地域別等にまとめることとする。

公共事業としては学校施設関連が主で、玉名町小、築山小・玉陵小学校建設予定地、市民会館建設予定地、公園施設の5ヶ所で確認調査を行った。うち、学校施設では一部において遺構が検出されたが、設計変更されたことによって、発掘調査には至っていない。

民間開発関係では、共同住宅・福祉施設・宅地造成・店舗などの事業が多かった。うち2件（共同住宅及び福祉施設）は確認調査によって埋蔵文化財が確認され、駐車場部分の切土や基礎掘削部分など工事に影響がある範囲については協議の結果、発掘調査を実施することとなった。

山下木佐貫遺跡は、弥生時代中期から古墳時代初期の集落跡と考えられ、喪棺墓1基、住居跡7基が確認された。うち1基から古墳時代初期の土師器が多量に出土している。ほか石包丁も2点出土した。

年の神遺跡は、弥生時代中期の集落跡及び墓域と考えられ、今回は建物基礎部分のみのトレンチ状の調査であったが、多数の土坑、ピットと喪棺墓が1基確認された。中でも貝殻等が多量に含んだ鹿糞土坑が2基検出され、その後の整理中に獣骨、種子などの自然遺物が採取できた。玉名地域における弥生時代中期の食生活がわかる好例となった。

高瀬御蔵跡の調査では、西南戦争時の焼土層や炭化米が検出され、残存している礎石との層位関係などから原位置を留めていることが確認された。このため工事原因者との協議の結果、現状保存されることとなった。高瀬藩邸跡の調査2件では、いずれも武家屋敷に伴う井戸が確認され、その規模や構造がわかった。

保存目的の確認調査は、高瀬官軍墓地で実施しているが、別途報告書を刊行する計画である。

4 活用

玉名市では、開発行為に伴う試掘確認調査等の結果を年度ごとに報告書として刊行しているが、その成果は市の博物館において展示公開も2年の1回の割合で発掘速報展を中心に行っている。

平成26年度に行った展示は、9月6日～9月28日までと短期間であったが、テーマを「大原遺跡とその時代」とした展示を行った。

展示内容は、市道建設に伴い大規模発掘を行ったため、その成果を公開する目的もあったが、同時に玉名の弥生時代に視点を置き、過去の調査例も含めた展示構成とした。博物館では9月6日に勾玉の日にちなんだイベントも実施しており、展示室で現物を探すクイズや勾玉づくり体験も行っている。



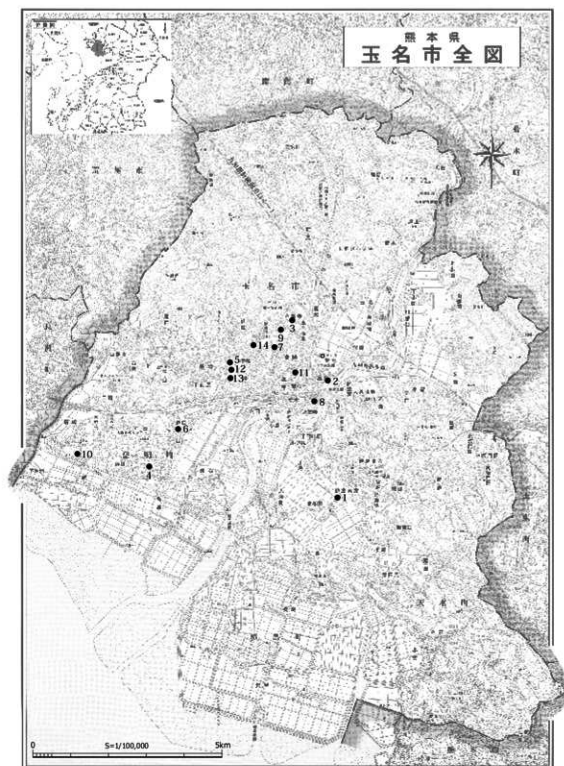
写真1 トレンチ掘削状況



写真2 確認調査状況

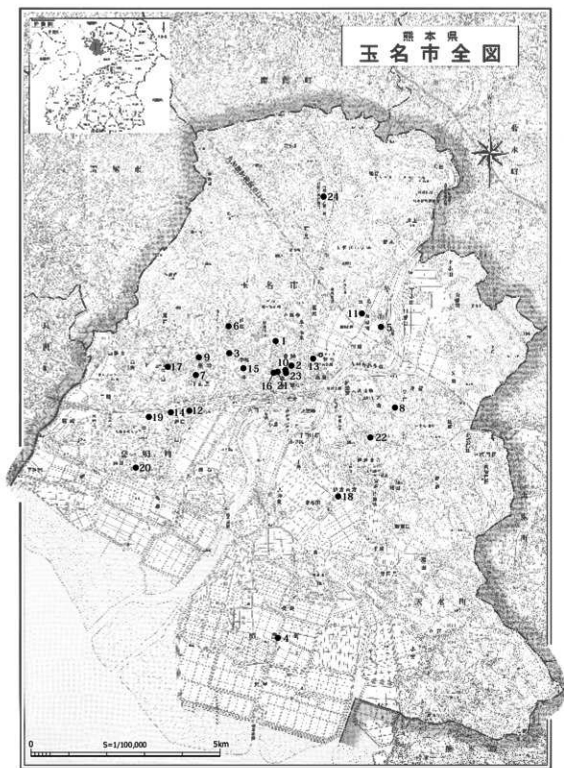


写真3 発掘速報展展示状況



- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1 北牟田遺跡 | 6 山下木佐賀遺跡 | 11 高瀬藩邸跡 A 地点 |
| 2 高瀬本町通遺跡 | 7 烏井原遺跡 A 地点 | 12 東南大門遺跡 A 地点 |
| 3 松尾遺跡 | 8 高瀬御蔵跡 | 13 東南大門遺跡 B 地点 |
| 4 幸長寺遺跡 A 地点 | 9 立願寺廃寺 | 14 高岡原遺跡群 |
| 5 南大門遺跡群 | 10 扇崎野中遺跡 | |

第1図 平成26年度調査地位位置図



- | | | | |
|-------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 1 鳥井原遺跡 B地点 | 9 前畑遺跡 | 14 年の神遺跡
B地点 | 20 幸長寺遺跡 B地点 |
| 2 高瀬藩邸跡 B地点 | 10 岩崎原遺跡 | 15 中尾川原遺跡 | 21 玉名高校校庭遺跡
B地点 |
| 3 古閑遺跡 | 11 玉名平野遺跡群
A地点 | 16 玉名高校校庭遺跡
A地点 | 22 伊倉年の神遺跡 |
| 4 九番開堤防 | 12 年の神遺跡
A地点 | 17 庄中ノ尾遺跡 | 23 高瀬藩邸跡 |
| 5 内添遺跡 | 13 玉名平野遺跡群
B地点 | 18 旧菊池川堤防 | 24 後田古墳 |
| 6 山田神社門前遺跡群 | | 19 東中土遺跡 | |
| 7 今見堂遺跡 | | | |
| 8 吉丸前遺跡 | | | |

第2図 平成27年度調査地点位置図

第1表 平成26・27年度試掘確認調査一覧

平成26年度

No.	遺跡名	調査地	敷地面積 (㎡)	種別	調査原因	調査期日	担当者	措置
1	北平田遺跡	北平田字田尻地区(13.1.13.2.13.3)	6,073	確認調査	鳥害施設	平成26年5月8日	木永 崇	慎重工事
2	高瀬子島岡遺跡	高瀬子島岡町160-1,161-1,162-1	584.05	確認調査	福祉施設	平成26年5月16日	木永 崇	慎重工事
3	松尾遺跡	宮内字松尾978-1	310.75	確認調査	取組住宅	平成26年6月23日～6月24日	藤久保史	工事立会
4	赤土寺遺跡 (A地点)	赤土寺町2番地	833	確認調査	福祉施設	平成26年7月24日～7月25日	藤久保史	—
5	赤土寺遺跡 (B地点)	赤土寺町2番地	2.34	確認調査	宅地造成	平成26年8月28日～9月18日	田中 幸史	慎重工事
6	山下木匠遺跡	赤土寺町4番地	1,439.67	確認調査	共同住宅	平成26年10月1日～10月3日,11月6日	藤久保史	発掘調査
7	鳥井原遺跡 (A地点)	鳥井原町下431-1,432-2	2,117.00	調査依頼	宅地造成	平成26年10月28日～10月30日	—	—
8	鳥井原遺跡 (B地点)	立瀬寺字野井原257-1	654.00	調査依頼	共同住宅	平成26年11月20日～11月27日	木永 崇	—
9	鳥井原遺跡 (C地点)	永徳寺町1,413	1,097.97	確認調査	共同住宅	平成26年12月15日～12月24日	木永 崇	工事立会
10	島崎宮内遺跡	島崎町島崎2番1	380.25	確認調査	取組住宅	平成27年1月27日	藤久保史	慎重工事
11	島崎宮内遺跡 (A地点)	島崎字島田1,299-2	801.62	確認調査	老人ホーム	平成27年2月20日～2月24日	藤久保史	工事立会
12	取南大門遺跡 (A地点)	取南大門3-3	11,166.1	確認調査	宅地造成	平成27年2月18日,3月4日	藤久保史	慎重工事
13	取南大門遺跡 (B地点)	取南大門3-3	204.395	確認調査	宅地造成	平成27年3月5日,3月6日	藤久保史	慎重工事
14	高岡原遺跡群	山田字高岡原1,944-1の一部	17,822.08	確認調査	共同住宅	平成27年3月17日	藤久保史	慎重工事

平成27年度

No.	遺跡名	調査地	敷地面積 (㎡)	種別	調査原因	調査期日	担当者	措置
1	鳥井原遺跡 (B地点)	立瀬寺343-1	251.41	確認調査	取組住宅	平成27年5月28日	藤久保史	—
2	高瀬子島岡遺跡 (B地点)	岩崎1120 (玉名町小坂池内)	17,881	調査依頼	学校施設	平成27年6月12日	藤久保史	—
3	古田遺跡	取南1880 (取南小坂池内)	23,101	調査依頼	学校施設	平成27年6月25日	藤久保史	—
4	古田遺跡	横田町(横田)919-3	311.42	確認調査	取組住宅	平成27年7月6日	藤久保史	慎重工事
5	内添遺跡	玉名字内添1044-1	593	確認調査	共同住宅	平成27年7月23日	藤久保史	慎重工事
6	山田神井戸前遺跡群	山田上島原181	637.74	調査依頼	取組住宅	平成27年8月19日	藤久保史	—
7	今足空遺跡	赤土寺町下前221-築地329	4,360	調査依頼	宅地造成	平成27年8月27日～28日	藤久保史	—
8	古丸前遺跡	寺田字丸前1340-1,1342-1,1364-1	1,475	調査依頼	共同住宅	平成27年9月3日～4日	藤久保史	—
9	新田遺跡	築地字新田1169-1	1,043	確認調査	宅地造成	平成27年9月11日	藤久保史	慎重工事
10	岩崎宮内遺跡	岩崎高岩原1265-1	584	調査依頼	宅地造成	平成27年9月15日	藤久保史	—
11	玉名平野遺跡群 (A地点)	玉名字上越876番外,15番	16,929	調査依頼	学校施設	平成27年10月28日,11月12日	藤久保史	—
12	玉名平野遺跡群 (B地点)	岩崎1120 (玉名町小坂池内)	168	確認調査	宅地造成	平成27年10月21日,11月20日	藤久保史	工事立会
13	玉名平野遺跡群 (B地点)	岩崎885	3,740	調査依頼	市民会館	平成27年12月8日	藤久保史	—
14	玉名平野遺跡群 (B地点)	赤土寺町1,2465	204.395	確認調査	福祉施設	平成27年12月7日	藤久保史	発掘調査
15	中尾山原遺跡 (B地点)	赤土寺町1,257,1,258-2	502	確認調査	共同住宅	平成27年12月24日	木永 崇	慎重工事
16	玉名高校校庭遺跡 (A地点)	中尾管内1905-1,1905-6	17,822.08	確認調査	店舗	平成28年1月7日	藤久保史	慎重工事
17	玉名高校校庭遺跡 (B地点)	中尾管内1905-1,1905-6	4,704	調査依頼	店舗	平成28年1月19日	藤久保史	—
18	山田中ノ尾遺跡	山田中ノ尾334-1	2,982	確認調査	公衆浴場	平成28年1月20日	藤久保史	慎重工事
19	長崎山原遺跡	赤土寺町玉名本1171	431	確認調査	公衆浴場	平成28年1月22日	藤久保史	慎重工事
20	奈良寺遺跡 (B地点)	赤土寺町島原85	574.00	確認調査	取組住宅	平成28年2月9日	木永 崇	慎重工事
21	玉名高校校庭遺跡 (B地点)	中1906-1,岩崎1210-2	2,169.69	調査依頼	体育館	平成28年3月1日	藤久保史	—
22	伊香北方の神遺跡	伊香北方の神1691-1	1,380	調査依頼	共同住宅	平成28年3月10日	藤久保史	—
23	高瀬子島岡遺跡 (C地点)	岩崎1158	1,049.40	調査依頼	宅地造成	平成28年3月10日～3月16日	藤久保史	—
24	後田古墳	石貫2946地先	—	発掘調査	—	平成28年3月25日	藤久保史	—

※この他「高瀬子島岡遺跡」の保存を目的とした発掘調査を両年度で行っているが、別途報告書を発行している。

Ⅱ . 平成 26 年度の調査

1 北牟田遺跡

所在地：北牟田字居屋敷 13-1.13-2.13-3

調査原因：農業施設

対象面積：6.073㎡

調査期間：平成26年5月8日

担当者：末永 崇

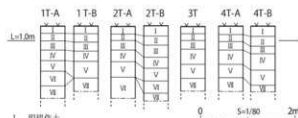
当該地は、菊池川左岸の低湿地に位置する、標高約1mの地点である。中世以前の菊池川流路と想定されている付近であるが、近現代の農地造成などで旧来の地形は残っていないものと考えられる。

確認調査では、敷地内の4か所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

土層は各トレンチでⅠ～Ⅶ層までを確認した。Ⅰ～Ⅳ層までは耕作に伴う層で、酸化鉄と二酸化マンガンの粒を含む。

V・Ⅵ層は暗灰色のグライ化した粘粘性土層、Ⅶ層は灰色砂質土であった。遺構、遺物は検出されず、全体的に低湿地の堆積状況であった。Ⅶ層の砂層面が緩やかに北東側（旧流路側）へ降る傾向がみられたが、それ以外で堤防及び河川流路等の痕跡は確認されなかった。

工事の内容は、ミニトマト選果場の新築工事である。確認調査の状況から、慎重工事となった。



- Ⅰ. 現耕作土
- Ⅱ. 灰質褐色土 (10YR4/2)
ややしまり、粘性有す。赤田床土。酸化鉄粒・マンガング粒含む。
- Ⅲ. 灰質褐色土 (10YR4/2)
あまりしまらず、粘性有す。酸化鉄粒・マンガング粒含む。Ⅱ層よりやや硬い。
- Ⅳ. 暗灰色土 (10YR4/1)
あまりしまらず、粘性有す。酸化鉄粒・マンガング粒少量含む。
- Ⅴ. 灰色土 (5Y4/1)
しまりなく、強い粘性有す。混入物無く、非常に硬い粘土層。
- Ⅵ. 暗灰土 (5Y4/1)
しまりなく、強い粘性有す。Ⅴ層より更に硬い粘土層。4Tでは細かい砂粒混入する。
- Ⅶ. 灰 (N4)
しまりなく、粘性なし。砂質土。丸礫少量含む。

第5図 北牟田遺跡トレンチ土層柱状図



第3図 北牟田遺跡調査位置図



第4図 北牟田遺跡トレンチ配置図



写真4 北牟田遺跡調査地遠景（南から）

2 高瀬本町通遺跡

所在地：高瀬字魚屋町 160-1,161-1,162-1

調査原因：店舗

対象面積：584.05㎡

調査期間：平成 26 年 5 月 16 日

担当者：末永 崇

当該地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置する、標高 8 m 程の地点である。旧高瀬町の中心部であり、間口が狭く細長い敷地が連なっている。周辺の確認調査では、近現代の造成・整地等による堆積が 50cm ~ 1 m の厚さで確認されている。

東側に隣接する道路内の下水道工事では、道路面の 3m 下から中世の土器片が検出されている。

確認調査では、既存建物の解体前に隣接する地点の 2ヶ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

層位は I ~ VI 層までを確認した。I ~ II 層までは現代の遺物を含む造成層、III 層以下は暗オリーブ色を呈する砂質土であり、凝灰岩製の建築材が多く検出された。おそらく近世以降の旧建物が解体された後に整地されたものと考えられる。その他の遺構は確認されなかった。

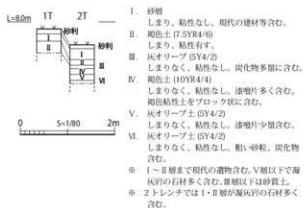
工事の内容は、既存建物を解体後に店舗を建設するもので埋蔵文化財に対して影響を与えないため慎重工事となった。



第 6 図 高瀬本町通遺跡調査地位置図



第 7 図 高瀬本町通遺跡トレンチ配置図



第 8 図 高瀬本町通遺跡トレンチ土層柱状図



写真 5 高瀬本町通遺跡調査地状況 (西から)

3 松尾遺跡

所在地：富尾字焼古閑 978-1

調査原因：専用住宅

対象面積：310.75㎡

調査期間：平成26年6月23日～6月24日

担当者：釐父雅史

調査地は小岱山から南に延びる低丘陵上に位置し、標高は約42mの地点である。南側には、立願寺大塚古墳、小塚古墳が所在しており、県文化課が平成5年度に玉名バイパス建設工事に伴い、立願寺大塚遺跡として調査を行った地点（Ⅱ区）の北側にあたる。

平成22・23年における近隣調査地では、古代の土坑が検出され須恵器、鬼面瓦などが出土している。敷地内に4本のトレンチを設定して確認調査を行った。Ⅰ層が表土（斜面のみ張芝）、Ⅱ層が現代の耕作土、Ⅲ層が旧耕作土で遺物から時期は近世～近代と考えられる。Ⅳ層は黒褐色土層だが、遺物は確認されず、その下位がⅤ層の無遺物層である。

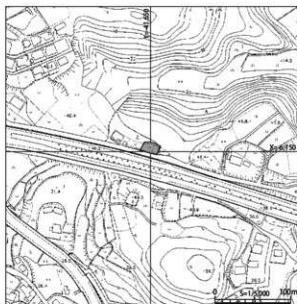
1～3トレンチで小穴を数基確認したが、竹や杉の根が多く、明瞭でないことから根穴と判断した。

4トレンチでは北側にかけて旧地形が谷に向かって傾斜していく状況が確認できた。

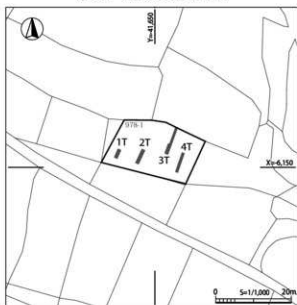
県の調査区では、立願寺大塚古墳の北側付近に円形周溝状遺構が確認されており、別の古墳があった可能性も指摘されているが、Ⅱ区一帯は以前より、削平を受けていることから、埋蔵文化財の残存率が低いものと考えられる。特に北西側で遺構は確認されていない。

工事の内容は、個人住宅であるが、道路面より約2m高いため、1.8mの切土が行われる計画であった。明確な埋蔵文化財は確認されなかったが、トレンチ部分以外から遺構が確認される可能性もあるため工事立会となった。

その後、掘削時に立会を行った結果、埋蔵文化財は確認されなかった。



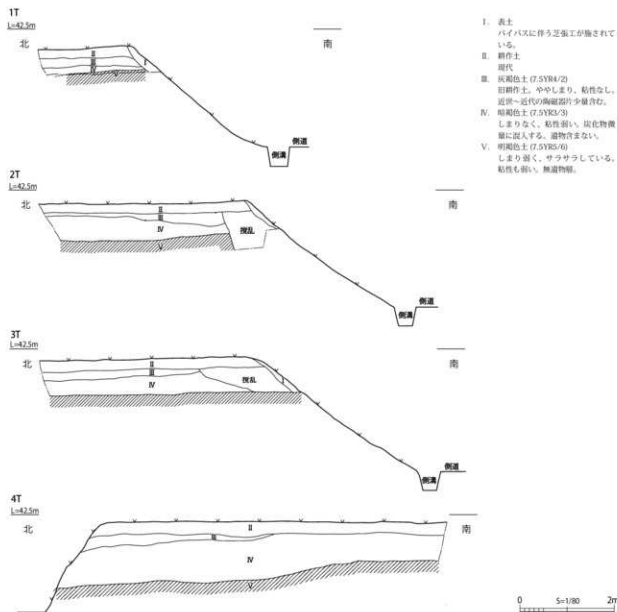
第9図 松尾遺跡調査地位置図



第10図 松尾遺跡トレンチ配置図



写真6 大塚古墳上から調査地を望む（南から）



第 11 図 松尾遺跡トレンチ実測図

写真 7 松尾遺跡調査状況



1・2トレンチ調査状況 (西から)



調査地から大塚古墳を望む (北から)

4 幸長寺遺跡 (A地点)

所在地：岱明町高道字幸長寺 1138-4

調査原因：調査依頼

対象面積：833㎡

調査期間：平成26年7月24日・25日

担当者：蟹父雅史

届出地は、境川の右岸に位置する標高約12mの地点である。調査依頼が提出されたため、敷地内に計8か所のトレンチを設定して確認調査を行った。

基本土層は、I層が現代の耕作土、II層が黒褐色粘性土で、南側のみI層下位にA・B層がある。III層は褐色粘性土の無遺物層であり、その上面で遺構を確認した。

Iトレンチでは地表面の約70cm下から、北側の4・5・7・8トレンチでは地表面の約20～30cm下から遺構を検出した。

主な遺構は、北側の5・7・8トレンチで検出された溝状遺構である。東西方向に延び、8トレンチ部分で北側にかけてL字状に折れるものと考えられる。溝の幅は約2mで、深さは底まで検出できなかったが80cm以上あり、断面系はV字型の可能性がある。覆土中から常滑焼とみられる中世の陶器を検出した。その他、土師皿が混入していた。

最下層の遺物を確認していないため、この溝の時期特定は難しいが、敷地の北側は中世の幸長寺跡として推定されており、字界も遺構と並行するように、L字に折れ曲がる部分があることなどから、この寺院跡に伴う遺構の可能性も考えられる。

この他、ビットを数基と1トレンチで土坑1基を検出した。この土坑からは、須恵器の坏蓋と青磁片等が混在して検出されたことから中世期の廃棄土坑とみられる。

幸長寺は、『國郡一統志』に「弘長寺禪」、『肥後國誌』に「幸長寺跡、失山号禪ノ古跡ト云九尺四面ノ神堂ニ薬師佛ヲ安ス」と記載がある。

現在、薬師堂の後方付近に、石塔類の残片が多数あり、『岱明町史』によれば、近くの防火用水を掘ったときに出てきたとのことである。水輪2基(梵字あり)、火輪4基と宝塔の九輪1個があり、これら



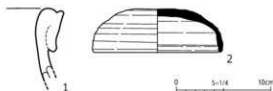
第12図 幸長寺遺跡調査地位位置図



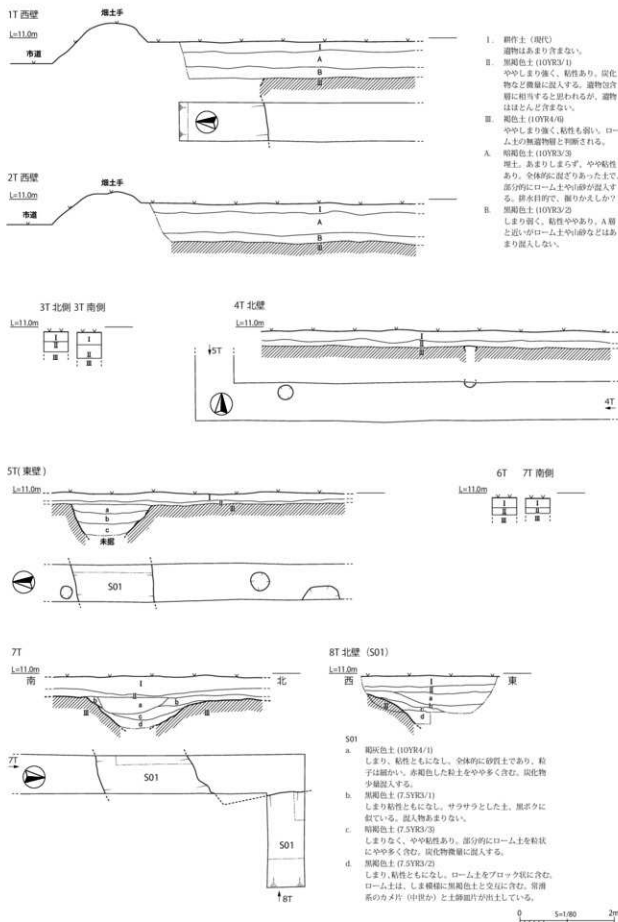
第13図 幸長寺遺跡トレンチ配置図

の五輪塔は幸長寺の時期を示す可能性がある。

工事内容は、6区画分の分譲宅地計画であり、住宅部分には約20～30cmの盛土が行われるため遺構検出面まで影響はないが、進入路部分については掘削が生じ、両側に側溝が入ることから、工事立会となった。



第14図 幸長寺遺跡出土遺物実測図



第15図 幸長寺遺跡 1T～8T 実測図

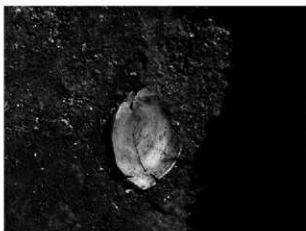
写真8 幸長寺遺跡調査状況



調査前状況（南から）



1トレンチ調査状況（北から）



1トレンチ遺物出土状況（須恵器坏蓋）



5トレンチ全景（南から）



5トレンチ溝検出状況（西から）



8トレンチ溝検出状況（南西から）

5 南大門遺跡群

所在地：築地字南大門 2068-1.2068-2 他 3 筆
 調査原因：宅地造成
 対象面積：2,339㎡
 調査期間：平成 26 年 8 月 28 日～9 月 18 日
 担当者：田中康雄・末永 崇

当該地は、境川右岸の氾濫原に面した台地東端部に位置している。周辺における近年の調査例では、平成 20 年度に実施した蓮華院誕生寺の南大門再建に伴う発掘調査があり、弥生時代後期の住居跡が 18 基検出されている。遺構内からは家型土器や銅鐸型土製品など特殊な遺物も出土している。

調査地は、地目から旧耕作地であったと判断されるが、耕作が放棄された状態となっており、竹林と化していた。現況は 3 段の面により構成されており、最も高い段で標高 15.7 m である。

今回の工事は、専用住宅の造成であるが、施工予定地の多くで切土がなされるため、トレンチを 6 か所設定し確認調査を実施した。調査の結果、現表土（Ⅰ層：旧耕作土及び竹根等による攪乱層）直下に地山（Ⅱ層：岱明層）が確認され、遺物包含層は残存していなかった。

このことから、当地においては耕作地化の際にかなり削平を受けていると判断した。遺構についても、削平の影響により消失しているものと考えられるが、3 トレンチの南端部のⅡ層上面で遺構ではないかと想定されるもの 1 基（S01）を確認した。しかし、トレンチのみではその時期や性格が判断できなかったため、これについては遺構であるかの判断も含めて、時期や性格を明確にするため継続して調査を実施した。

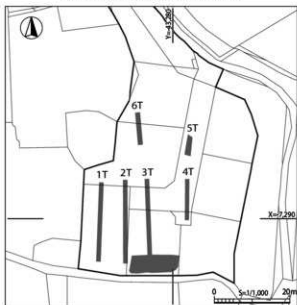
S01 は、溝状遺構と想定されるが、遺構上半部及び南西側を削平により消失しているため全体形は判断できない。残存部で約 9 m、幅 3.2 m、深さ約 0.7 m を測る。

遺構埋土は、1～4 層に分けられ、2・3 層から特に遺物が多く出土した。遺物は、弥生時代後期の土器片が多く、下層になるほど破片が大きい状況であった。

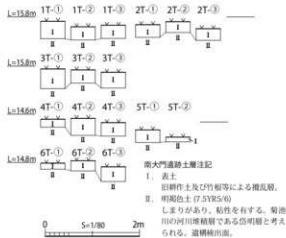
造成では切土が予定されているが、遺構が確認された一部の範囲においては、調査を行い遺構は完掘していることから、慎重工事となった。



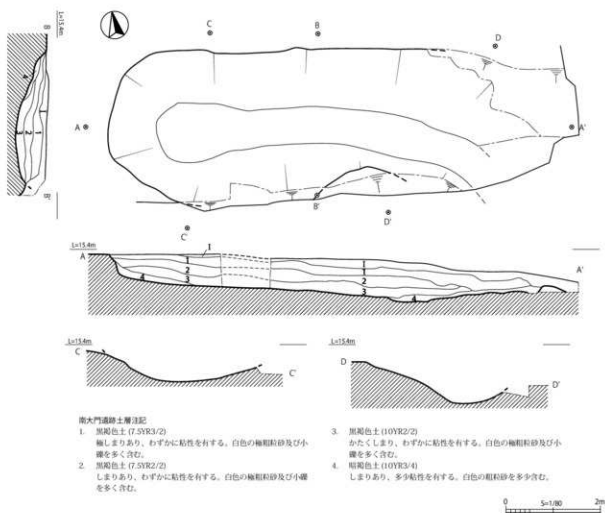
第 16 図 南大門遺跡群調査地位置図



第 17 図 南大門遺跡群トレンチ配置図



第 18 図 南大門遺跡群土層柱状図



第19図 南大門遺跡群 S01 実測図

写真9 南大門遺跡群調査状況



調査前状況1 (南から)



調査前状況2 (南東から)

写真10 南大門遺跡群調査状況



1トレンチ全景（北から）



4トレンチ全景（北から）



S01土層堆積状況（東から）



S01完掘状況（東から）



S01完掘状況（西から）



S01完掘状況（北から）

6 山下木佐貫遺跡

所在地：岱明町山下 451-1,452-2

調査原因：共同住宅

対象面積：1,439.67㎡

調査期間：平成26年10月1日～3日、11月6日

担当者：蘆父雅史

調査地は、境川右岸の台地末端部に位置し、標高は13m程の地点である。以前は畑として利用されていた場所である。

掘削が予定されている範囲を中心に、11箇所のトレンチを設定して調査した結果、1～3トレンチにおいて弥生時代終末期と考えられる竪穴遺構を3基検出した。6～8トレンチでも、同じく2～3基分と、土坑状遺構を1基検出した。

いずれも約20cmの表土（耕作土）直下から遺構が確認でき、その他、ピットなども多数検出したが、9～11トレンチにおいて遺構は確認できなかった。

特に北東側の10.11トレンチ付近は、切土後の埋め立てであった。

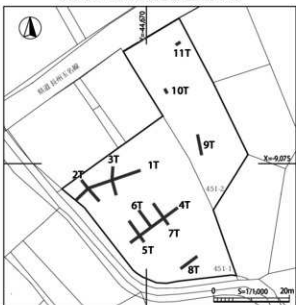
竪穴遺構の深さは15～20cmで、土器片から弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられる。

工事の内容は、共同住宅2棟の新築である。基礎の掘削は最大で約50cmであり、その深さまでは建物全体の地盤改良、進入路部分は北西側の一部を市道の高さまで掘削するという計画であった。確認調査の結果から、遺構が検出された西側の建物1棟部分と進入路部分については埋蔵文化財に影響が及ぶ為、協議の結果、発掘調査を実施することとなった。

なお、発掘調査の結果は、本報告書の最終章に掲載している。よって、本稿では本調査の対象外となった範囲で遺構が確認された8トレンチのみを掲載している。



第20図 山下木佐貫遺跡調査地位置図



第21図 山下木佐貫遺跡トレンチ配置図



第22図 山下木佐貫遺跡8トレンチ実測図



写真11 山下木佐貫遺跡確認調査状況

7 鳥井原遺跡 (A地点)

所在地：立願寺字鳥井原 257-1

調査原因：宅地造成

対象面積：2,117.00㎡

調査期間：平成 26 年 10 月 28 日～ 30 日

担当者：中村安宏

調査地は、小岱山から南側に広がる低丘陵上に位置する、標高約 27m の地点である。東側にかけては谷となり、現在は溜池がある。敷地北側に接する東西方向に延びる市道は、古代から中世まで遡る可能性がある道路跡と考えられている。

調査地の現況は畑地となっており、周辺はすでに宅地化された部分が多い。

当該地で宅地造成の計画があり、調査依頼を受けて確認調査を実施した。敷地内に 6 本のトレンチを設けて埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、耕作土（約 30cm）の下に暗褐色粘性土があり、主に弥生土器片含む包含層が確認され、その下位の褐色粘性土で弥生時代の住居跡と考えられる遺構など多数の遺構を検出した。

弥生時代の集落跡であると考えられ、対象地のほぼ全域に埋蔵文化財が存在している可能性がある。

計画は、分譲地の宅地造成であり、隣接する市道而まで切土という内容であった。高低差は最大で約 2 m あり、掘削する場合は遺構検出面に及ぶことから、協議となった。協議後、計画は保留となっている。



第 23 図 鳥井原遺跡調査地位位置図

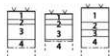


第 24 図 鳥井原遺跡トレンチ配置図

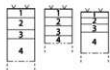


写真 12 鳥井原遺跡調査状況 (北・南から)

1T
L=30.0m 東 中 西 ———



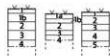
2T
L=30.0m 東 中 西 ———



2T 平面図



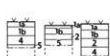
3T
L=30.0m 東 中 西 ———



4T
L=30.0m 東 中 西 ———



5T
L=30.0m 東 中 西 ———



- 1T
- 1a. 灰褐色土 (7.5YR4/2)
しまりなく、粘性なし。規耕作土。
 2. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、やや粘性あり。二次耕作土。大きめの土器片を含む。2cm 大の炭化物含む。
 3. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりが強く、やや粘性あり。1mm 大の白色、オレンジ色石粒、全体的に含む。
 4. 褐色土 (7.5YR4/4)
しまりが強く、粘性強い。地土。

- 2T
- 1a. 表土
 2. 灰褐色土 (7.5YR4/2)
0.5mm ~ 5mm 大の白色オレンジ粒含む。ややしまり、粘性なし。3層が耕作により攪拌され、白く濁っている。二次耕作土。
 3. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
5mm, 1cm, 2cm 大の土器細片含む。1mm 大の炭化物含む。ややしまり。やや粘性あり。
 4. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
ややしまり、粘性ややあり。1cm ~ 5cm 大の弥生土器片を含む。2mm ~ 2cm 大の炭化物を含む。

- 3T
- 1b. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

第 25 図 鳥井原道跡トレンチ実測図



第 26 図 鳥井原道跡出土遺物実測図

8 高瀬御蔵跡

所在地：永徳寺出口 413

調査原因：調査依頼（共同住宅）

対象面積：654.00㎡

調査期間：平成 26 年 11 月 20 日～11 月 27 日

担当者：末永 崇

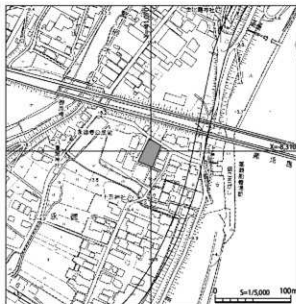
1. 概要

高瀬御茶屋及び御蔵跡の敷地は、高瀬の市街地の南側に隣接し、東西約 200m、南北約 230m ほどの台形を呈する敷地である。ほぼ中央を JR 鹿兒島本線が東西に敷設されている。敷地内は北側が御茶屋、南側が御蔵の敷地として利用されていた。敷地の南側では、隣接する水田面とは 1～2m ほどの高低差があり、敷地全体が盛土されているとみられる。

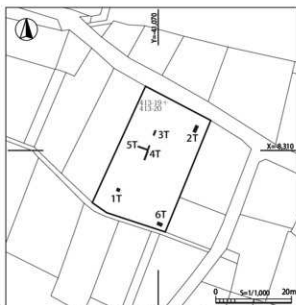
敷地の東側で菊池川に面し、船着場の遺構が残存する。かつて高瀬裏川が菊池川と合流する地点であったが、裏川は閉鎖されて樋門が設けられている。北側（上流側）は旧渡頭と呼ばれ、階段状の揚場と依ころがしが 1 基ずつ残存する。南側（下流側）は新渡頭と呼ばれ、依ころがし 1 基が所在する。天保 12 年（1841）には、敷地南側に御米山床（米俵を野積みする場所）が整備されており、機能拡張が図られた。現在の 2 基の依ころがしは、それぞれ旧渡頭と新渡頭と呼ばれていることから、下流側の 1 基はこの山床整備の時点で一括して築造された可能性が高い。

高瀬御蔵跡の敷地は、市道八日町・永徳寺線から南側に想定されている。状況がわかる資料は、永青文庫蔵の高瀬御茶屋絵図、嘉永 7 年の高瀬町絵図、昭和 3 年の高瀬町実測平面図などがある。

この地には当初、永徳寺が所在し、加藤清正が移転するため解体したと伝えられ、その後に細川藩が高瀬御茶屋及び御蔵として整備したとされる。『肥後国誌』の永徳寺村の項には、米蔵四棟とある。永青文庫蔵の「高瀬御茶屋絵図」には、10 棟ほどの米蔵とみられる建物が記載される。御茶屋及び御蔵は、明治 10 年の西南戦争時に焼失して機能を停止



第 27 図 高瀬御蔵跡調査地位位置図



第 28 図 高瀬御蔵跡トレンチ配置図

した。その後の敷地の所有は民間に渡り、住宅地として利用されて現代に至る。昭和 3 年の高瀬町実測平面図や、国土地理院所有の航空写真には、御蔵跡の敷地内に民家が建設され、幾度かの建て替えがあったことが判明する。

永青文庫蔵の高瀬御茶屋絵図では、御蔵範囲西半分の敷地に、5 棟の細長い建物が描かれている。最も西側に南北に細長い建物を配置し、東西に細長い建物 4 棟を配置し、中央部を御米山床とする構造である。北東の建物は、「鳥島御蔵三間梁拾六間」とあり、板葺きで桁行約 5.4m、梁行約 28m の規

模の米蔵であったと思われる。

2. 対象地の現状と調査状況

調査敷地には、現状で礎石列が1ヶ所確認される。南北方向に西から5個、4個、1個が並んでいる。

西側の5個は、4個が1.1m～1.5m間隔で概ね均等に並んでいるが、最南端の1個は南側から2個目の石に近い位置に並び、石の規模も突出して大きい。4個並ぶ一列も北側の1個がないのみで、5個の列と同様な配置である。また、敷地西側には、並ぶかどうか判断できないもの、同じく礎石とみられる石が3個確認される。

今回の調査では、敷地内に6ヶ所トレンチを設定し、人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。対象敷地は、南北に長い長方形を呈する。1トレンチを南西側、2トレンチを北東側、6トレンチを南東側に設定した。3～5トレンチは現況で確認できる礎石部分に設定し、3、4トレンチを南北方向、5トレンチを東西方向に設定し、それぞれ掘削した。

1、6トレンチでは、表土層の直下に炭化物、焼土を少量含む層が検出され、そのさらに下には砂質土を主体とする層が検出された。御蔵敷地の造成層と判断される。2トレンチでは、表土の下に焼米塊、焼土、近世の瓦片を多量に含む層を検出した。炭化物、焼土を含む層は、西南戦争時に御蔵が焼失したこと由来する層とみられる。2トレンチの周囲にテストピット(P1～P3)で層位を確認したところ、2トレンチのような焼土等集中層は検出されなかったため、2トレンチで確認された焼土等集中層は、焼失材などを整理して遺棄した部分とみられる。

3～5トレンチでは、礎石の状況を確認するため、礎石の配置方向に沿って掘削した。建物の基礎構築に相当する礎石及びその下の層位の状況は、山砂(4層)の上に固く締まる赤褐色粘性土(3層)を床土として礎石を据え付けてある状況であった。西側列南側のもっとも大きな礎石の下には、根固石とみられる石も確認される。礎石の北、南、西側にはそれぞれカクラン坑があり、礎石の撤去痕と判断され、本来の建物の範囲は現状より拡大する。現状で確認される礎石自体は、動かされた形跡はなく、当初に

据え付けられた状況を保っている。焼土、炭化物を含む層は、赤褐色粘性土(3層)より上位に位置する。

永青文庫蔵の高瀬御茶屋絵図に記載される建物と照合すると、今回の調査敷地の地点は、絵図内の米蔵の位置とほぼ一致し、礎石はその米蔵のものである可能性が極めて高い。御蔵の焼失後、近代以降の測量図や航空写真などで御蔵焼失後、新たに建物が建設されているのが確認されるが、礎石はそのまま使用され、現状で残置されている礎石以外は必要に応じて移設されたと考えられる。

※付近住民の証言

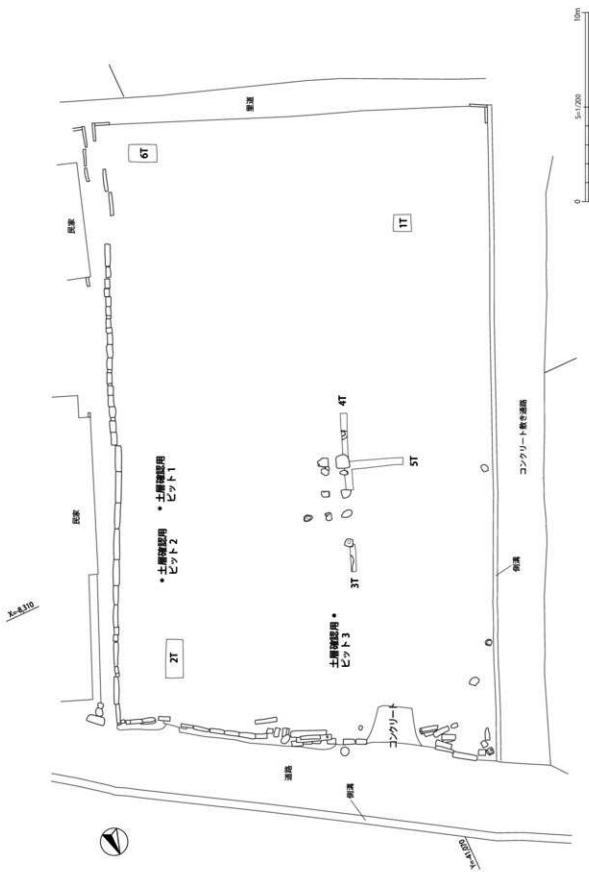
- ・この地権者は昔から永徳寺村の地主で、立派な屋敷があった。門もあった。
- ・現在残っている礎石は、建物の端の部分で、緑側があったと記憶する。
- ・公共下水道が来たのが永徳寺は玉名市では早いほうだった。その工事の時も焼米の塊が出た。
- ・もともとあった礎石は隣の家の(敷地東側)の緑の下に転用されている。

<参考文献>

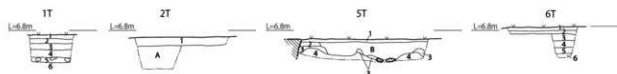
- 玉名市役所・秘書企画課 1987 『高瀬湊関係歴史資料調査報告書(一)』玉名市歴史資料集成第一集
- 玉名市役所・秘書企画課 2005 『玉名市史—通史篇上巻』第四章・高瀬町の展開と高瀬御蔵



写真13 高瀬御蔵跡調査地点(北東から)



第29図 高瀬御碕跡調査地測量図



1T 土層注記

1. 表土
砕石混じる。
2. オリーブ黒色土 (SY3/1)
ややしまり、粘性なし。砂・砕石・炭化物・
焼土混入。
3. 灰オリーブ色土 (SY4/2)
あまりしまらず。やや粘性有。焼土・炭化
物少量混入。
4. 灰オリーブ色土 (SY4/2)
あまりしまらず。粘性なし。砂質のみ。焼土・
炭化物少量混入。
5. 褐色土 (SYR4/4)
しまり、粘性有。転圧されたように、固く
しまる。粘土ブロックを含む。近世瓦片出土。
6. 褐色土 (OYR4/4)
あまりしまらず。粘性なし。褐色粘性土をブ
ロック状に含む。

2T-ST 土層注記

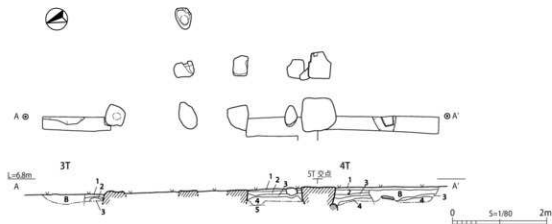
1. 表土
砕石混じる。
 2. オリーブ黒色土 (SY3/1)
しまり、粘性なし。焼土・炭化物少量含む。
 3. 褐色褐色土 (SY3/3)
灰褐色 (SYR6/2) 粘性土ブロック混入。強く
しまる。粘性土。
 4. 砂層
粘がそっており、負荷を洗い砂のよう。
 5. 3層と同様の粘質土。
- A. 焼土、焼土、瓦片集中
B. 焼土、炭化物、瓦片集中

6T 土層注記

1. 表土
砕石混じる
2. 砕石層

3. 灰オリーブ色土 (SY4/2)
あまりしまらず。粘性少ない。焼土・炭化物
少量含む。
4. 灰オリーブ色土 (SY4/2)
あまりしまらず。粘性少ない。灰オリーブ色
の粘性土をブロック状に含む。焼土・炭化物
少量含む。
5. オリーブ褐色土 (SYR4/4)
あまりしまらず。粘性少ない。砂質土、炭化物
少量含む。砂混入。
6. オリーブ褐色土 (2SYR4/4)
あまりしまらず。粘性なし。砂質土、褐色粘
性土をブロック状に含む。

※6 トレンチは 1 トレンチの 5 層のような固く
しまる層はない。他は、おおむね同様な層。
1～6 層まですべて追底層。



第 30 図 高瀬御蔵跡トレンチ及び礎石実測図

写真 14 高瀬御蔵跡調査状況



3・4・5 トレンチ掘削状況 (北から)



4 トレンチ礎石検出状況

9 立願寺廃寺

所在地：立願寺字塔ノ尾 1211-1 他 5 筆
 調査原因：共同住宅
 対象面積：1,097.97㎡
 調査期間：平成 26 年 12 月 15 日～24 日日
 担当者：末永 崇

当該地は、小岱山から南側に広がる低丘陵上に位置する、標高約 35m の地点である。遺跡は古代寺院跡として周知され、過去に確認調査及び発掘調査が行われている。

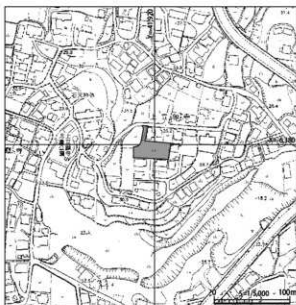
平成 3 年度～5 年度に実施された玉名市史編纂に伴う発掘調査では、玉名郡衙に関連すると推定される群家、倉院、郡衙道、大湊と共に寺院跡も調査されている。

古代における玉名郡の郡司は、玉名郡菊水町から出土した銅版などから日置氏であったとされているが、出土遺物・遺構から初期の寺院は、金堂一宇が創建されたと考えられ、その後取り壊されて観世音寺式の伽藍配置に建替えられたと考えられている。これまでに大宰府の影響を受けたとされる都府楼式鬼面文鬼瓦も出土している。

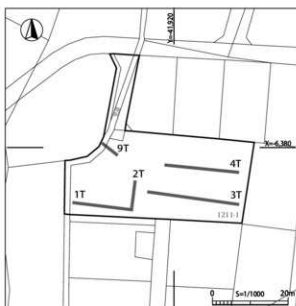
過去の調査で寺院に伴っていたと考えられる礎石は出土しているものの、中世期の土坑などに廃棄されたような状態で出土している。このようなことから寺院跡の詳細については検証が必要である。

調査では、敷地内の 5ヶ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。敷地西側に設定した 1、2、5 トレンチでは、表土及び耕作に伴う層（Ⅰ、Ⅱ層）と、無遺物層と判断されるローム層（Ⅲ層）を確認した。このうち 1 トレンチのⅢ層上面でピット及び土坑を検出した。建物部分に設定した 3、4 トレンチでは、多量の古代瓦と礎石を含む掘り込み（S-01～04）を検出した。青磁片が出土しており、中世における破産遺構と判断される。

1 トレンチは、敷地西側から東西方向に設定したトレンチで、表土及び耕作に伴う層（Ⅰ、Ⅱ層）と、無遺物層と判断されるローム層（Ⅲ層）を確認した。このうち 1 トレンチのⅢ層上面でピット及び土坑



第 31 図 立願寺廃寺調査地位位置図



第 32 図 立願寺廃寺トレンチ配置図

を検出した。平成 4 年度の市史編纂事業に伴う発掘調査で想定されている、寺院区画の西側築地塀の延長に相当する部分であるが、その痕跡は確認されなかった。

2 トレンチは、1 トレンチと接続して L 字型に設置したトレンチで、基本層位は 1 トレンチと同様であり、Ⅲ層上面では特に遺構は確認されなかった。

3 トレンチは、建物部分に東西方向に設定したトレンチで、東側で 1、Ⅱ層の下位で遺物包含層に相当する A 層を確認し、A 層上面で S-01、02、03 を確認した。S-02 が S-03 に切られている。いずれも遺構内から多量の古代瓦が出土しており、S-02

から青磁片が出土した。S-01 で埋土中から礎石とみられる石が出土した。

4 トレンチは、3 トレンチに並行して北側に設定したトレンチで、基本層位は 3 トレンチと同様であるが、西側のⅢ層は、やや赤みを帯びるローム層であり、Ⅲ'層とした。A 層上面及びⅢ層上面で S-04 を検出した。多量の古代瓦と、礎石とみられる石を 2 個確認した。

3、4 トレンチの状況から、S-01 から S-04 は、中世の段階での造成に伴う瓦等の破棄遺構と判断される。切り合いがあり、ある程度の期間で造成されたと考えられる。3 トレンチで 1 個、4 トレンチで 2 個の建物の礎石が確認された。いずれも花崗岩製であり、これまでの調査で確認されている礎石と同様である。

5 トレンチは、1 トレンチの側に設定したトレンチで、層位は 1、2 トレンチと同様である。Ⅲ層上面では特に遺構は確認されなかった。

写真 15 立願寺廃寺調査状況



確認調査状況



1 トレンチ遺構検出状況



3 トレンチ全景



4 トレンチ全景

<参考文献>

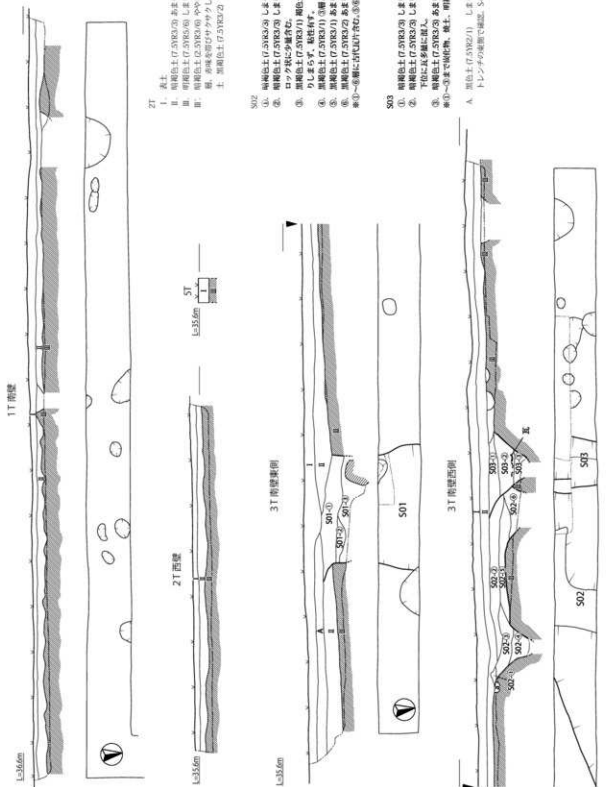
玉名市役所秘書企画課 1994『玉名郡衙』「第一編 寺院（立願寺廃寺）」玉名市歴史資料集成第 12 集

玉名市教育委員会 2002『玉名市内遺跡調査報告書 I 一平成 11・12 年度の調査一』玉名市文化財調査報告第 11 集

玉名市教育委員会 2006『玉名市内遺跡調査報告書 III 一平成 15・16 年度の調査一』玉名市文化財調査報告第 15 集

玉名市教育委員会 2008『玉名市内遺跡調査報告書 IV 一平成 17・18 年度の調査一』玉名市文化財調査報告第 17 集

玉名市教育委員会 2002『玉名市内遺跡調査報告書 V 一平成 19 年度の調査一』玉名市文化財調査報告第 18 集



第33図 立願寺塔寺トレンチ実測図①

2T

1. 表土
 II. 黒褐色土(75YR5/2) あまりしません、やや軟性有す。細片土。
 III. 黒褐色土(75YR5/6) しまり、粘性を有す。ローム層、黒褐色物。
 IV. 黒褐色土(75YR5/6) ややしまり、粘性なし、灰層に相当するローム層。
 V. 赤褐色のピサカクした土質、赤褐色土層で抽出されるピサカク土。
 VI. 黒褐色土(75YR5/2) しまり、軟性有す。灰化物を含む。

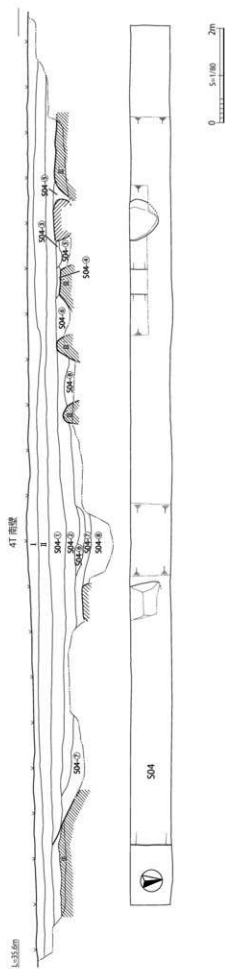
302

- ①. 黒褐色土(75YR5/2) しまり、粘性有す。
 ②. 黒褐色土(75YR5/2) しまり、粘性有す。黒褐色土(75YR5/6)をプロット状に少量含む。
 ③. 黒褐色土(75YR5/1) 黒褐色土(75YR5/6)をプロット状に含む。あまりしません、粘性有す。
 ④. 黒褐色土(75YR5/1) ③層とはほぼ同様でしまりが少くなる。
 ⑤. 黒褐色土(75YR5/1) あまりしません、粘性なし。
 ⑥. 黒褐色土(75YR5/2) あまりしません、粘性なし。
 ⑦. ①～⑥層に交代して片含む。③⑥が特に多い。⑦層から青褐色片土。

303

- ①. 黒褐色土(75YR5/2) しまり、粘性有す。
 ②. 黒褐色土(75YR5/2) しまり、粘性有す。①に近接するが、やや細い。下に灰砂層に接し、
 ③. 黒褐色土(75YR5/2) あまりしません、粘性なし。灰片含む。
 ④. ①～③までで輪化層。粘土。黒褐色土(75YR5/6)を少量含む。

- A. 黒褐色土(75YR5/2) しまり、粘性有す。灰化物でくまら含む。3.4トレンチの東端で掘削。5.0x5.04に切り替わる。



第34図 立願寺廃寺トレンチ実測図2

写真16 立願寺廃寺調査状況



4トレンチ東側破石出土状況



4トレンチ西側破石出土状況

10 扇崎野中遺跡

所在地：岱明町扇崎 26-1

調査原因：専用住宅

対象面積：380.25㎡

調査期間：平成 27 年 1 月 27 日

担当者：齋父雅史

調査地は、友田川砂岸の低丘陵上に所在する、標高約 1.4 m の地点にあたる。

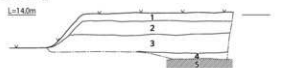
駐車場部分に関しては市道の高さまで切土が行われるため確認調査を実施した。

その結果、表土の下は以前の耕作土が厚く堆積している状況であった。

現代の耕作土の下は、近代の耕作土、その下位が、遺物混入の状況などから近世の耕作土と考えられる。

それら耕作土の下位に、黒褐色粘性土層が約 10 cm あるが、遺物はほとんど含まない。その下が黄褐色粘性土層（無遺物層）であり、2 トレンチにおいてはその上面でピットを 1 基確認したが、遺物を含まないため時期も不明であり、根穴の可能性も考えられる。

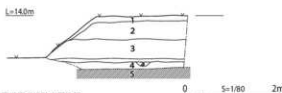
切土される深度は、遺構検出面よりも上位であり埋蔵文化財に対する影響はないことから、慎重工事となった。



第 35 図 扇崎野中遺跡調査地位位置図



第 36 図 扇崎野中遺跡トレンチ配置図



扇崎野中遺跡土層注記

1. 表土（現代の耕作土）
2. に近い黄褐色土（10YR4/3）耕作土（近世）。しまりはなく、粘性強い、やや砂質土を含む。
3. 灰黄褐色土（10YR4/2）耕作土（近世か）。しまりはなく、粘性強い、細砂片を含む。
4. 黒色土（10YR2/1）しまり弱く、粘性なし。遺物はほとんど含まない。
5. 褐色土（10YR4/4）ローム土層。しまり弱く、やや粘性あり。無遺物層。
- a. しまりのない褐色土。遺物は全く含まず、根穴の可能性。

第 37 図 扇崎野中遺跡トレンチ実測図



写真 17 扇崎野中遺跡調査状況（南東から）

11 高瀬藩邸跡 (A地点)

所在地：岩崎字南岩原 1129-2

調査原因：老人ホーム

対象面積：801.62㎡

調査期間：平成27年2月20日～24日

担当者：釐父雅史

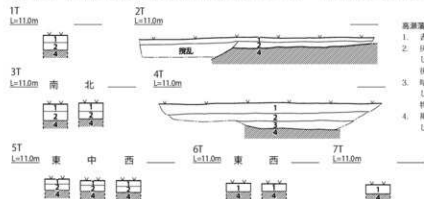
調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する、標高約11mの地点である。周辺一帯は、幕末から明治時代初頭にかけて高瀬藩用地として造成されている。

敷地は、明治2年の『高瀬藩図』によると、「米野覚(右衛門)」の屋敷となっており、昭和後期に屋敷は解体されたという。調査前は井戸のみが残存し、更地となっていた。

この井戸も絵図の同位置に描かれ、米野覚右衛門は、9～10代藩主の頃に筆頭家老を務めた人物とされている(『高瀬藩関係資料調査報告書』2000参照)。

調査では、建物予定地を中心に7本のトレンチを設定して重機掘削により埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、地表から約20cm下までは、表土及び以前の建物の解体整地層であり、その下はローム(無遺物)層であった。4トレンチにおいては、屋敷を造成する前と考えられる整地層が確認された。旧建物の礎石などは確認できず、その他の遺構も検出できなかった。一部において解体した時の瓦などが廃棄された痕跡があった。その他、遺物は表採によって、幕末～近代の陶磁器片数点を確認したのみである。



第40図 岩崎野中遺跡トレンチ実測図



第38図 高瀬藩邸跡調査地位置図



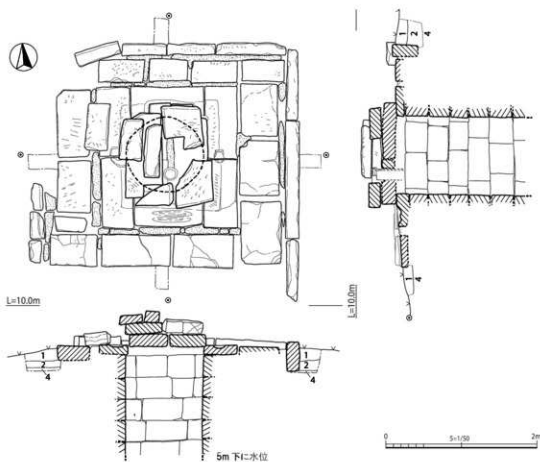
第39図 高瀬藩邸跡トレンチ配置図

る。また、井戸跡については解体されることから、記録保存の対象とした。

井戸跡を調査するにあたり、藩邸跡(家臣団屋敷群)でその他に井戸が残存しているか踏査を行った。『高瀬藩図』には井戸のマークが描かれており、当地はその絵図のとおり井戸が残存していた。藩邸跡の区割りは現在の地割りとほとんど一致するた

め、絵図の正確性が伺える。

第42図は、絵図を南北反転してトレースしたものであるが、井戸の印が35か所ある。この配置からみると、小区画に対して1~2基ずつあったようである。



第41図 高瀬藩邸跡井戸実測図

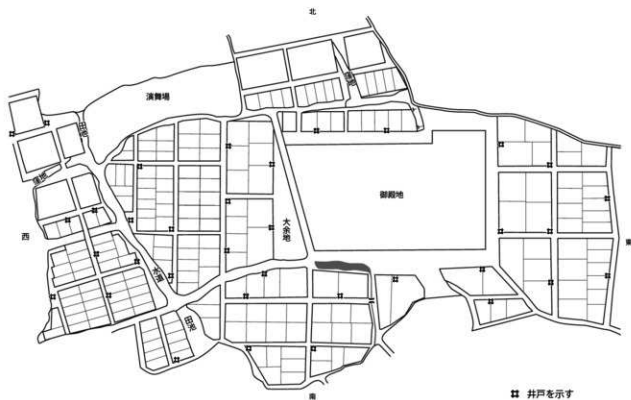
写真18 高瀬藩邸跡調査状況1



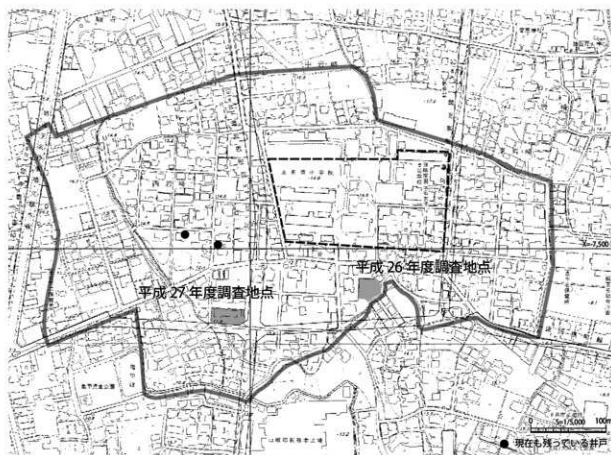
高瀬藩邸跡井戸跡の調査前状況(西から)



5mトレンチ調査状況(西から)



第42図『高瀬藩園』(180°回転してトレース)



第43図 高瀬藩跡現況図と井戸跡の調査地点

写真 19 高瀬藩邸跡調査状況 2



井戸跡の調査前状況 (西から)



井戸跡の検出状況 (西から)



井戸跡の解体状況



井戸跡の内部状況

敷地面積が広い役職(家老等)の土地に掘られていたとは限らず、基本的には共同井戸であったものと考えられる。

当調査地の井戸は、凝灰岩の切石を円形に組み合わせて築造されており、深さは正確でないがスタッフを差し込んで測ったところ、約5m以上下が底部と推測される。現況で5m下まで水位があった。上部の井戸枠自体は撤去されたか、後世に改修されたものと考えられる。中央やや南側に土管が残存していたことから、手押しポンプが近年まで設置されていたものと推測される。井戸枠の周囲には約3m四方の敷石が組まれており、目地には漆喰が詰め込まれていた。この漆喰は後世の補修の可能性もある。また井戸枠の東西2か所には、凝灰岩敷石を円形に削り貫いた痕跡があった。深さは直径10～15cm程度であり、浅いため柱を立てていたとは

考え難いが、釣瓶落としの支柱か覆屋の痕跡とみられる。井戸枠の上部は調査後に撤去されたが、下部は山砂で埋められた。工事後は建物の床下となったが、遺構自体は現地に保存されている。

なお、調査に伴って高瀬藩邸跡における他の井戸の残存状況を踏査した。その結果、全35か所の井戸のうち、現在も確実に残存し、確認することができたのはわずかに2基であった。その他は、住宅建て替えの際に撤去されたか、埋め戻されたものとみられる。残存している2基は、井戸枠の上部構造も残っていることから当時の状況がわかる好例である。

12 東南大門遺跡 (A地点)

所在地：築地2103-3

調査原因：宅地造成

対象面積：1116.61㎡

調査期間：平成27年2月18日、3月4日

担当者：蟹父雅史

調査地は、境川右岸に位置しており、台地上の標高12m前後の地点にあたる。東側隣接地は、平成2年度に市営住宅建設に伴い発掘調査を実施しており、弥生時代中期の甕棺墓群、弥生時代終末期～古墳時代初頭にかけての木棺墓、大型溝が確認されている。

敷地内は、以前から竹藪であったが、近年になって抜根され、宅地分譲地として整地されていた。聞き取りによれば、少なくとも平成2年以前から、ある程度の切土が行われていたようで、现阶段の整地は、竹を抜根した程度ということがわかり、遺構等の残存の可能性もあったため、確認調査を実施した。

既に切土が行われ、その断面によって土層が確認できる東側と南側の法面に4ヶ所、整地されている平坦面に11ヶ所、計15ヶ所のトレンチを設定し、人力及び重機掘削により埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、いずれのトレンチでも、無遺物層（岱明層）まで削平されていることがわかり、断面でも遺構は確認できなかった。竹の抜根時に伴う攪乱や、ゴミの廃棄等による攪乱が著しく、遺物の散布も確認できなかった。平成2年度調査区（東側隣接地）で甕棺が出土しているレベルと比較したところ、甕棺墓の最深部の深さ以上に切土されているようである。工事内容は、専用住宅の分譲地であるが、埋蔵文化財が残存している可能性は低く、敷地全体の切土は行われないことから慎重工事となった。



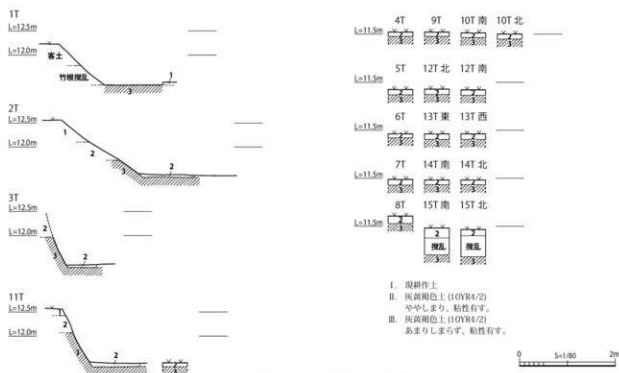
第44図 東南大門遺跡A地点調査地位位置図



第45図 東南大門遺跡トレンチ配置図



写真20 東南大門遺跡A地点遺跡調査地点（北から）



第46図 東南大門トレンチ実測図および柱状図

写真21 東南大門遺跡A地点遺跡調査状況



遺跡調査前状況 (西から)



重機掘削状況 (北から)



13トレンチ調査状況 (西から)



12トレンチ付近調査状況 (東から)

13 東南大門遺跡(B地点)

所在地：岱明町野口北尾崎 126 番地他 2 筆

調査原因：宅地造成

対象面積：2043.95㎡

調査期間：平成27年3月5日～6日

担当者：蟹父雅史

調査地は、境川右岸の台地上に位置し、標高約12mの地点にあたる。西側は以前から畑だったが、近年は雑木が生い茂り、荒地となっていたため、工事前に伐採された。東側は、一部が畑となっている。

今回の工事で、西側の市道から進入路が造成されることから、確認調査を実施し、重機掘削により埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、基本土層は、I層が現代の耕作土、II層が旧耕作土（少量であるが近世までの遺物小片を含む）、III層は黒褐色土層（遺物はほとんど含まずローリングを受けた土器小片が少量混入する程度）、その下位がIV層の無遺物層であった。

進入路部分に設定した1～3トレンチにおいては、雑木の根穴のみで明確な遺構は確認できなかった。

4～6トレンチにおいては、小ピット数基を検出し、一部掘下げて確認したが、遺物も含まず、時期は不明である。7トレンチにおいては、住居跡と考えられる竪穴遺構を1基とピット数基を検出した。

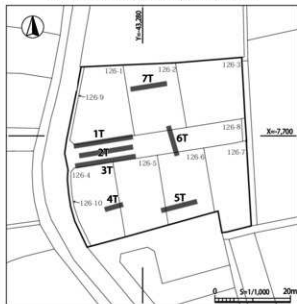
調査では最小限にしかトレンチが設定できなかったが、敷地は遺跡の最西端に位置しており、西側の谷に向かって傾斜している状況であることがわかった。さらに北東側にかけては住居跡(集落)が広がっている可能性がある。

工事内容は、宅地分譲地の造成であり、切土が発生する部分については工事立会となった。

その後、掘削時に立会いを行った結果、埋蔵文化財は確認されなかった。



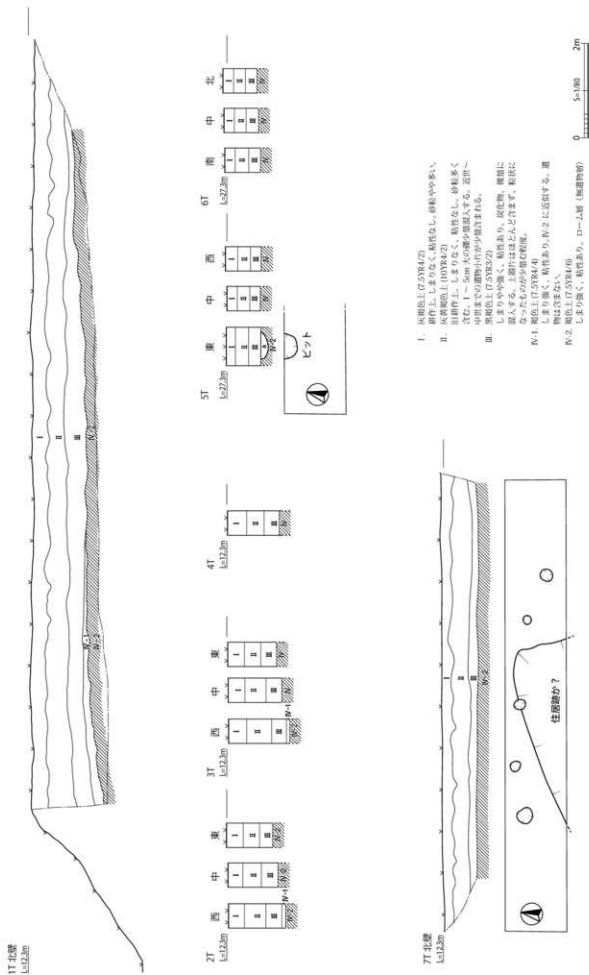
第47図 東南大門遺跡B地点調査位置図



第48図 東南大門遺跡B地点トレンチ配置図



写真22 東南大門遺跡B地点調査前状況(南から)



第49図 東南大門遺跡B地点トレンチ調査図

写真23 東南大門遺跡B 地点遺跡調査状況



調査地現況（北から）



1トレンチ調査状況（南から）



3トレンチ調査状況（東から）



5トレンチ調査状況（東から）



5トレンチビット検出状況（南から）



7トレンチ遺構検出状況（東から）

14 高岡原遺跡

所在地：山田字高岡原 1944-1 の一部

調査原因：共同住宅

対象面積：1782.08㎡

調査期間：平成 27 年 3 月 17 日

担当者：齋父雅史

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置し、標高約 27 m の地点である。

平成 4 年度に遺跡内を東西に貫く都市計画道路（築地立願寺線）の工事に伴い発掘調査が行われ、弥生時代後期の住居跡が 24 基確認されている。

住居跡からは、小型仿製鏡 1 点、破鏡（後漢鏡）1 点が出土している。その後、周辺では開発が多くなり調査例が増加した。

他の調査区では、同様の住居跡の他に石蓋土坑墓なども確認され、勾玉、鑄造鉄斧、ヤリガンナなども出土している。これまでに約 70 基の住居跡が確認されていることなどから大規模集落であったと考えられる。

また、古代と中世の遺構も分布していることがわかっている。古代は、北東側が玉名郡衙の中心部と考えられ、中世においては西側が大野氏に関連する「高岡居屋敷」と推定されており、平成 28 年度の調査では、掘立柱建物が 8 棟検出された。

建物に並行して溝も確認され、時期は出土遺物から 14～16 世紀までの幅があり、居館の存続時期を示すものと考えられる。

当地は、敷地南側の一部が遺跡範囲に含まれている。現状はミカン畑となっており、南側は以前から段状に切土が行われていた。

工事で掘削が行われる部分を中心に 8 本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、土層はⅠ層が表土、Ⅱ層が旧耕作土、Ⅲ層は 5・6 トレンチのみで確認でき、褐色を呈した層でしまりが強く、遺物をほとんど含まない。その下位がⅢ層（無遺物）層であった。

1・3 トレンチにおいて、Ⅲ層上面から土坑状の遺構を 2 基検出したが、いずれも上部が耕作等により削平されているとみられ浅く、遺物を含まな



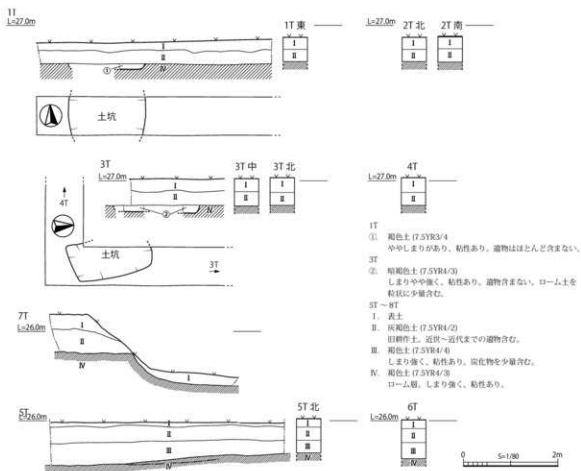
第 50 図 高岡原遺跡調査地位位置図



第 51 図 高岡原遺跡トレンチ配置図

め時期が不明である。3 トレンチの遺構は長方形を呈し、形状から土坑墓の可能性もあるが明確ではない。その他のトレンチでは埋蔵文化財は確認できなかった。

共同住宅の計画であり、一部において遺構が確認されたが、工事による掘削は検出面まで及ばないため、その後の処置は慎重工事となった。



第52図 高岡原遺跡トレンチ実測図

写真24 高岡原遺跡調査状況



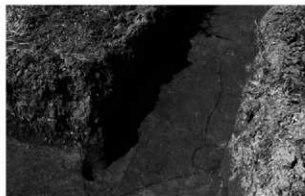
調査前状況 (東から)



重機掘削状況 (南から)



1・2トレンチ調査状況 (東から)



3・4トレンチ遺構検出状況 (南から)

Ⅲ. 平成 27 年度の調査

1 鳥井原遺跡 (B地点)

所在地：立願寺343-1

調査原因：専用住宅

対象面積：25,141㎡

調査期間：平成27年5月28日

担当者：釐父雅史

調査地は、小岱山から南側に広がる低丘陵上に位置する、標高約28mの地点である。現況は更地となっており、周辺はすでに宅地化された部分が多い。

周辺では、西側約500m先に弥生時代後期の集落とみられる高岡原遺跡、南側には玉名高校校庭遺跡が広がっている。北側約600m先には玉名郡衙の関連施設と推定される郡家跡、東側300m先に郡倉跡などが分布している。

当遺跡範囲では、敷地北側が古代から中世まで遡る可能性がある道路跡の一部にも含まれている。

この道路跡は、山田方面にも延びており、現在は市道として利用されている部分もあるが、一部において幅約6～7mの舗装もされていない里道が残っている(写真参照)。

当地の北側部分はこの延長線上にあるが、里道がカーブするように張り出している。これは、南側に池があり以前から谷状に落ち込むことから里道も北側へ曲がっていた可能性も考えられる。現状で里道と当敷地との境界に約20cmの段差があったことから、道路状遺構の名残りであることも想定されたため確認調査を実施した。

段差部分に、3ヶ所と南側に1ヶ所の計4ヶ所のトレンチを設定して調査を行った。

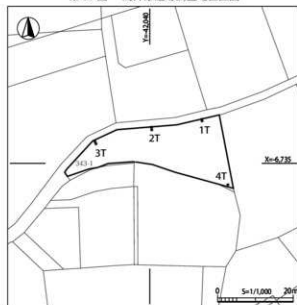
その結果、敷地が里道より低かったため山砂による盛土が行われていることがわかった。2、3トレンチにおいては、北側里道に向け最下層の赤褐色粘性土(無遺物層)上面がやや傾斜していくが、これが道路跡につながる落ちこみなのかは明確にできなかった。

土層の堆積も、上層は近世までの耕作土に近く、下層は褐色土を呈し、炭化物を微量に混入するが遺物が確認できないため時期も不明である。

4トレンチは、山砂による盛土層のみで地表より



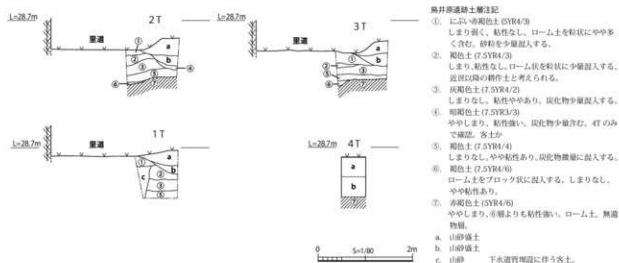
第53図 鳥井原遺跡調査位置図



第54図 鳥井原遺跡トレンチ配置図

約80cm下から、無遺物層が確認された。南側へやや傾斜しており、先は小さな谷になっていくようである。

工事の内容は、専用住宅の新築工事であるが、盛土内に収まることから慎重工事となった。



第 55 図 鳥井原道跡トレンチ土層柱状図

写真 25 鳥井原道跡調査状況



鳥井原道跡調査地状況 (西から)



1 トレンチ掘削状況 (西から)



1 トレンチ土層堆積状況 (西から)



<参考> 山田方面に残る延長先の道路跡 (東から)

2 高瀬藩邸跡 (B地点)

所在地：岩崎 1120(玉名町小学校敷地内)

調査原因：学校施設

対象面積：17,881㎡

調査期間：平成27年6月12日

担当者：萱父雅史

当該地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する、標高約15mの地点である。現在は玉名町小学校の敷地となっている。平成20年度に敷地の北側で実施した体育館・プール建設に伴う確認調査では、埋蔵文化財は確認されていない。

一带は、幕末期に高瀬藩用地として造成が行われ、家臣団屋敷などが形成された。現在も当時の地割や井戸などが残っている。明治2年の『高瀬藩図』によると、当該地は「御殿地」とあり、藩邸跡として認識されているが、廃藩置県によって藩邸の建設は中断されたため、建物が完成することはなかった。

今回、校舎が計画されている運動場内に4本のトレンチを設定して、埋蔵文化財の状況を確認した。

基本土層は、I層がグラウンドの整地層、II層が暗褐色土層、III層が明褐色粘性土層であった。

2・4トレンチにおいて、III層上面から幅30～50cmの溝を検出した。深さは15cm程度であり、東西方向に延びると想定される。この溝からは、遺物が確認できなかったため、時期の特定は困難であるが、藩邸の造営以前は、一带が耕作地であったことや、1・4トレンチの同じレベルから畑の畝が検出されたことなどから、これらの溝は近世期の畑に伴っていた可能性がある。その他、明確な遺構は確認されなかった。遺物は、II層から近世以降の瓦、陶磁器片を少量出土したのみである。

今回の工事は、小学校教室棟を新築するもので明確な埋蔵文化財が確認されなかったことから慎重工事となった。



第56図 高瀬藩邸跡B地点調査地位位置図



第57図 高瀬藩邸跡B地点トレンチ配置図



写真26 高瀬藩邸跡B地点確認調査状況(西から)

3 古閑遺跡

所在地：築地 1880(築山小学校敷地内)

調査原因：調査依頼(学校施設)

対象面積：368.23㎡

調査期間：平成 27 年 6 月 25 日

担当者：釐父雅史

調査地は、境川右岸の台地上に位置する標高 16 m 程の地点で、築山小学校の敷地内である。建物が予定されている範囲において 3 本のトレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。

敷地は、東側のグランドにかけて大きく段落しており高低差がある。1・2 トレンチの I～II 層はいずれも校地造成時の客土であると考えられ、埋蔵文化財は確認されなかった。

西側の 3 トレンチでは III・IV 層が確認された。III 層は土器片を少量含む黒褐色土層(厚さ 12 cm)であり、IV 層は黄褐色粘性土で無遺物層と判断した。

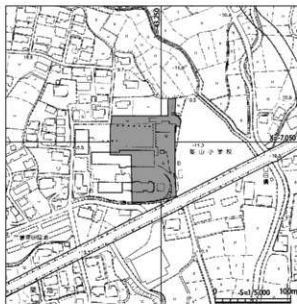
地表面から約 60 cm 下の IV 層上面で幅約 30 cm の浅い溝状遺構を検出した。東西方向に延びるものと考えられるが、時期や性格等は不明である。

平成 22 年度の学童保育施設建築に伴う確認調査地点においても弥生時代後期と考えられる遺構が検出されており、この 3 トレンチから北西側にかけては、遺構が残存している可能性がある。

今回の工事は、仮設校舎の新築であるが埋蔵文化財に対する影響はないことから慎重工事となった。



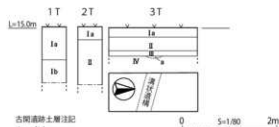
写真 28 古閑遺跡確認調査状況(南から)



第 59 図 古閑遺跡調査地位位置図



第 60 図 古閑遺跡トレンチ配置図



古閑遺跡土層注記

1a. 客土

1b. 山砂

II. に近い黄褐色土(10YR4/3)

しまり非常に強い、粘性あり、砂粒、1 cm までの礫をやや多く含む、転圧してあり固い、客土と考えられる。

III. 黒褐色土(10Y2/3)

しまり粘性強い、赤土土部を粒状に少量含む。

IV. に近い黒褐色土(10YR5/4)

ややしまり強く、粘性あり、砂粒(1～3 cm 程度)を少量含む、無遺物層。

a. 黒褐色土(10Y2/2)

III 層に近いが、ややしまり弱い、遺物未確認。(層の落ち込みになる可能性もあり)

第 61 図 古閑遺跡トレンチ実測図

4 九番開堤防

所在地：横島町横島 9193

調査原因：専用住宅

対象面積：311.42㎡

調査期間：平成 27 年 7 月 6 日

担当者：齋父雅史

調査地は、菊池川の左岸に位置し、標高約 1 m の地点にあたる。一帯は江戸時代後期の干拓地であり、旧堤防は道路や宅地となっている所が多い。

九番開の干拓は、安政 6(1859)年に地元の有吉家によって行われたとされており、南西側では築堤された当時の石積が残存している。

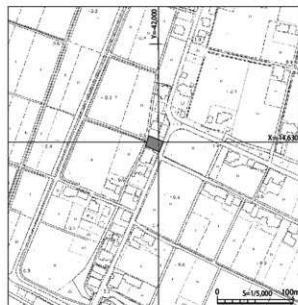
敷地東側に隣接する市道も旧堤防であり、西側も含め比較的新しい石積がある。

計画は、専用住宅の基礎工事で地盤改良のため約 1.5 m 下まで掘削されることから事前に確認調査を行った。

その結果、2ヶ所のトレンチとも、約 1.4 m 下までは客土による現代の埋立てが行われており、その下位は灰色の粘土層であった。

調査時、湧水や崩落等があり、1.6 m 下までしか確認できなかったが、この粘土層上面のレベルは、東側の水田面とほぼ同じであった。遺物等の混入も確認できず、自然堆積の貝殻片を少量含む。

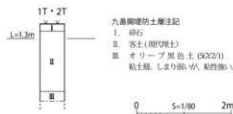
今回の工事は、専用住宅の新築であるが、地盤改良に伴う掘削深度は、地表面から 1.5 m 下までであり、埋蔵文化財及び堤防の痕跡は確認されなかったことから慎重工事となった。



第 62 図 九番開堤防調査地位位置図



第 63 図 九番開堤防トレンチ配置図



第 64 図 九番開堤防トレンチ土層柱状図



写真 29 九番開堤防確認調査状況 (西から)

5 内添遺跡

所在地：玉名字内添 1044-1

調査原因：共同住宅

対象面積：593㎡

調査期間：平成27年7月23日

担当者：釧父雅史

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置し、標高約5mの地点である。敷地内の状況は、畑地となっていた。

地盤改良が計画されていたため、建物予定地内に2ヶ所のトレンチを設定し、約1.4m下まで掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

層位は、1～8層までを確認し、1層が現代の耕作土で、2～4層までが、にぶい黄褐色を呈した砂質土層であり近世～近代の耕作土と考えられる。

その下位が5、6層で、主に褐色を呈する砂質土層であった。

7、8層は、同じように褐色及びにぶい黄褐色土層であるが、上位に比べ締りや粘性が強くなる。いずれのトレンチでも遺構は確認されず、遺物はローリングを受けた流れ込みの土器小片がわずかに確認されただけである。

全体的に粒子の細かい砂質土層であり、平成25年度に実施した北側の確認調査地でも同じような土層が確認されている。

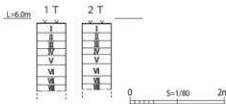
工事の内容は、共同住宅の新築工事である。埋蔵文化財は確認されなかったため慎重工事となった。



第65図 内添遺跡調査地位置図



第66図 内添遺跡トレンチ配置図



内添遺跡土層注記

- | | |
|---|--|
| <p>① 現代耕作土</p> <p>② 褐色土 (10YR3/4)
自然耕作土。しまりなく、粘性あり、微砂粒少量混入。</p> <p>③ にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
ややしまる。粘性弱い。炭化物微量、マンガシ少量混入。</p> <p>④ にぶい黄褐色土 (10YR5/3)
はねよりしまり弱。粘性弱い。土器・陶磁器小片混入。炭化物・マンガシ微量に混入。</p> <p>⑤ オリーブ褐色土 (10YR4/3)
しまり弱い。粘性は非常に強い。</p> | <p>⑥ 炭化物・土器片を粉砕し少量混入する。</p> <p>⑦ にぶい黄褐色土 (2.5YR5/4)
ややしまり強い。粘性弱い。シルト質。この土層にマンガシを多く含む。全体的にもマンガシ含む。砂質の割合が多い。</p> <p>⑧ にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
しまり強い。やや粘性。マンガシをやや多く含む。古代か。</p> <p>⑨ 褐色土 (10YR4/4)
しまり強い。土層より粘性強い。マンガシを多く含む。</p> |
|---|--|

第67図 内添遺跡トレンチ土層柱状図



写真30 内添遺跡確認調査状況（南東から）

6 山田神社門前遺跡群

所在地：山田上馬場 181

調査原因：専用住宅

対象面積：637.74㎡

調査期間：平成 27 年 8 月 19 日

担当者：齋父雅史

調査地は、小岱山南麓の低丘陵上に位置する標高約 25 m の地点である。以前から宅地となっており、敷地の北東側には、山田白山宮十二坊の一つである覚満坊があり、石造物（笠塔婆）が祀られている。

敷地に 7 本のトレンチを設定して確認調査を行った。その結果、全体的にⅠ～Ⅲ層が確認でき、Ⅰ層が住宅解体時の整地層、Ⅱ層がそれ以前の整地層と考えられ、近世～近代の瓦礫等を含む。Ⅲ層は無遺物層であり、Ⅲ a 層が、砂質で礫を含み、Ⅲ b 層が粘質土である。1～6 トレンチでは現代の攪乱のみで、遺構は確認できなかつた。7 トレンチ付近のみⅢ b 層が確認でき土坑 2 基の切り合いが検出された。先行する土坑内からは弥生時代の土器片が 1 点出土した。これを切る遺構は、炭化物・焼土を少量含むが時期は不明である。遺物はほとんど確認されず、表探で土師皿片 1 点、中世と考えられる裏、瓦片等を採集した。坊が営まれていた時期の面がどの層上に相当するかは明確にはできなかつたが、隣接する神社へ延びる道路（現市道）は馬場と呼ばれる旧参道であり両側宅地のレベルも中世の坊跡からあまり改変されていないものと考えられる。しかし、当敷地内の西側は、道路と覚満坊の祠がある高さからすると、約 30 cm 低くなっており段差がある。Ⅱ層の遺物等から近世～近代に宅地として造成され、西側の大半は無遺物層まで削平を受けているものと考えられる。

調査の結果、遺構が確認された 7 トレンチは、建物予定地外で掘削を受けないことから、慎重工事となった。



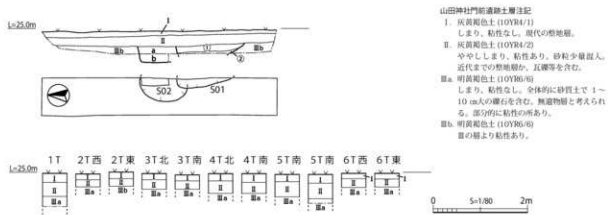
第 68 図 山田神社門前遺跡調査地位置図



第 69 図 山田神社門前遺跡トレンチ配置図



写真 31 山田神社門前遺跡確認調査状況（南から）



第 70 図 山田神社門前遺跡トレンチ実測図

写真 32 山田神社門前遺跡確認調査状況



2 トレンチ全景 (東から)



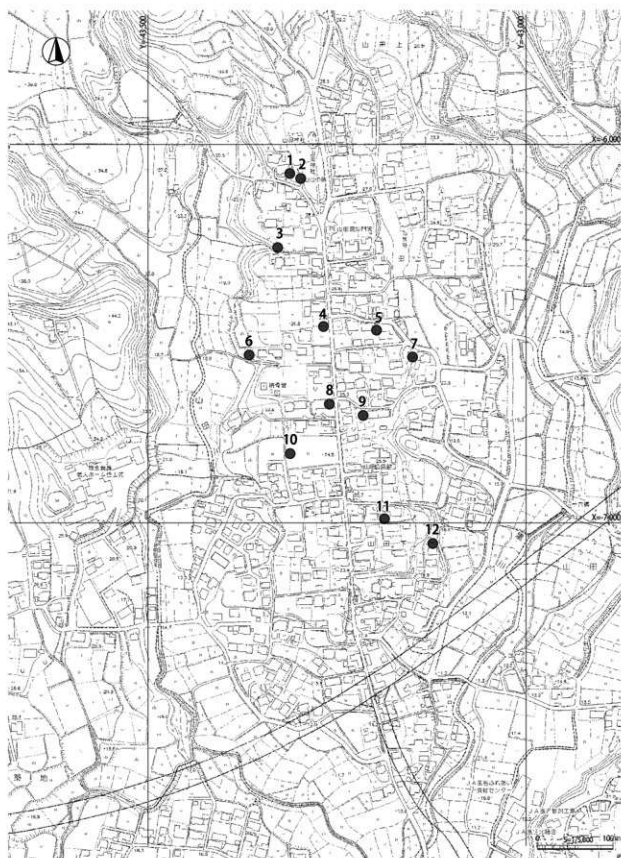
7 トレンチの遺構と覚満坊 (南西から)



7 トレンチ遺構検出状況 (南西から)



敷地内に残る現在の覚満坊 (南から)



- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1 円藏坊 | 4 徳藏坊 | 7 西林坊 | 10 俊教坊 |
| 2 境之坊 | 5 万葉坊 | 8 覺満坊 | 11 大力坊 |
| 3 徳仁坊 | 6 宮司坊 | 9 宝泉坊 | 12 宝寿坊 |

第71図 山田白山宮十二坊塔碑位置図 (※1・2・12は元位置から移動されている)

7 今見堂遺跡

所在地：岱明町下前原221～築地329

調査原因：調査依頼（店舗）

対象面積：4,360.00㎡

調査期間：平成27年8月27・28日

担当者：釐父雅史

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置しており、標高約17mの地点にあたる。当遺跡は、昭和30年頃に五輪塔や土葬人骨、古銭などが出土し、主に古代～中世の包蔵地とされている。平成9年度の発掘調査地点（築地立願寺線用地）においては、弥生時代後期の土坑5基が検出されている。

敷地全体のうち、主に掘削が生じる部分を中心に、計12ヶ所トレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。

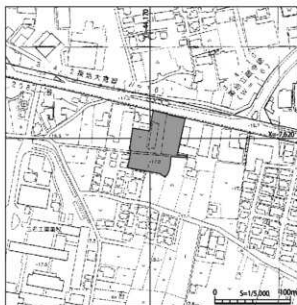
その結果、基本土層はⅠ層が表土、Ⅱ層が灰褐色土層（近世以降の耕作土）、Ⅲ層が黄褐色粘性土（無遺物層）であり、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は確認されなかった。

埋蔵文化財は確認されなかったことから慎重工事となった。

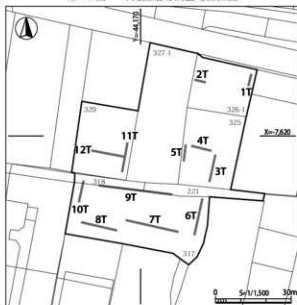
<参考文献>

玉名市文化財調査報告第7集『浄光寺跡寺域確認調査』1989

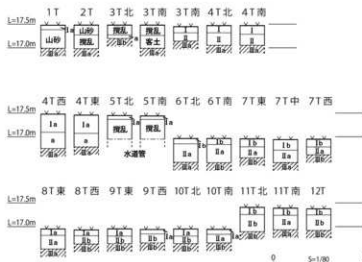
玉名市文化財調査報告第10集『今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡』2002



第72図 今見堂遺跡調査地位置図



第73図 今見堂遺跡トレンチ配置図



第74図 今見堂遺跡トレンチ実測図

今見堂遺跡土層注記

- Ⅰ a. 表土
以前建物の解体層、敷地層。
- Ⅱ b. 灰褐色土 (10YR3/4)
表土。しまり弱く、粘性あり。早稲
- Ⅲ a. 灰黄褐色土 (10YR4/2)
しまり弱く、粘性あり。田耕作土。近世以降か。
- Ⅲ b. 褐色土 (10YR4/4)
しまり弱く、やや粘性あり。現代耕作土。
- Ⅳ a. 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり強く、粘性あり。ローム土。無遺物層。
- Ⅳ b. しまり弱褐色土 (10YR5/4)
しまり強く、粘性あり。ローム土。無遺物層。
- a. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
しまり強く、粘性あり。近世までの耕作土か

写真 33 今見堂遺跡調査状況



確認調査状況 (北から)



1トレンチ全景 (南から)



4トレンチ全景 (西から)



7トレンチ遠景 (北から)



9トレンチ調査状況 (東から)



11・12トレンチ全景 (東から)

8 吉丸前遺跡

所在地：寺田字吉丸前 1340-1, 1342-1, 1364-1

調査原因：宅地造成（調査依頼）

対象面積：1,475.00㎡

調査期間：平成27年9月3日～4日

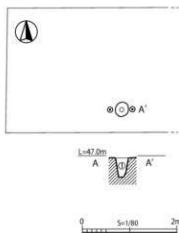
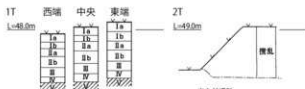
担当者：釐父雅史

調査地は、菊池川左岸の台地上に位置し、標高約40mの地点である。当該地では、調査依頼に基づいて、平成24年度に確認調査（計9トレンチ）を実施しているが、その後、進入路の計画変更が行われたため、再度、確認調査を実施した。

基本土層は、Ⅰ・Ⅱ層が耕作土、Ⅲ層が黒褐色粘性土、Ⅳ層が暗黄褐色粘性土、Ⅴ層が無遺物層である。

今回の工事は、4区二分の宅地造成である。主な掘削は、北西側に計画されている進入路部分であるが、平成27年度に設定したトレンチ内においては、ピット1基のみしか検出されなかったため完掘を行った。進入路はスロープ状に高くなり、南東側の掘削はほとんど行われなため、工事立会となった。

立会の結果、埋蔵文化財は確認されなかった。



第77図 吉丸前遺跡トレンチ実測図

- 吉丸前遺跡
- Ⅰ. 耕作土
 - Ⅱ. 灰褐色土 (10YR4/2) 中～しまり、粘性有。
 - Ⅲ. 灰褐色土 (10YR4/2) あまりしまらず、粘性有。炭化鉄粒・マンガン粒含む。まぜより中～細。
 - Ⅳ. 暗灰色土 (10YR4/1) あまりしまらず、粘性有。炭化鉄粒・マンガン粒少量含む。
 - Ⅴ. 灰色土 (5Y4/1) しまりなく、強い粘性有。器人物無く、非常に硬い粘土層。
 - Ⅵ. 暗灰色土 (5Y4/1) しまりなく、強い粘性有。Ⅴ層より更に硬い粘土層。4Tでは深か40cm程度入る。
 - Ⅶ. 灰 (N4/7) しまりなく、粘性なし。砂質土。丸礫少量含む。
 - Ⅷ. 灰 (N4/7) しまりなく、粘性なし。砂質土。丸礫少量含む。



第75図 吉丸前遺跡調査地位置図



第76図 吉丸前遺跡トレンチ配置図



写真34 吉丸前遺跡確認調査状況（北から）

9 前畑遺跡

所在地：築地字前畑 1169-1
 調査原因：共同住宅
 対象面積：1,043.00㎡
 調査期間：平成 27 年 9 月 11 日
 担当者：齋父雅史

調査地は、小倍山から南に延びる低丘陵上に位置する、標高 22 m ほどの地点である。現況は宅地となっており、以前は 6 棟の住宅が建っていたが、現在は解体されて更地となっている。

敷地内に計 14 本のトレンチを設定し確認調査を行った。その結果、1・6 トレンチの北側においては、約 1.5 m の深さまで盛土であった。

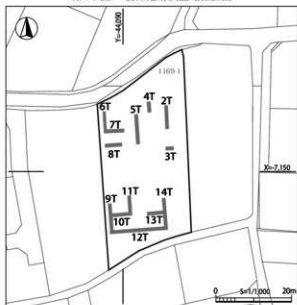
その他のトレンチにおいては、いずれもⅠ層（表土及び造成層）の直下はⅡ層（黄褐色粘質土層）であった。このⅡ層は、現地表面の約 15～20cm 下から検出され、遺構・遺物とも確認できなかった。宅地とする段階で全体的に削平を受けているものと考えられ、北側の低い方へ盛土されている状況であった。遺物は、1 層内からローリングを受けた弥生土器片が少量出土するのみである。

工事の内容は、共同住宅 2 棟の新築工事である。建物部分は現地表面から 80cm 下まで地盤改良が行われる予定である。また、北側の進入路は現在のものが拡張され、擁壁工事も行われる。

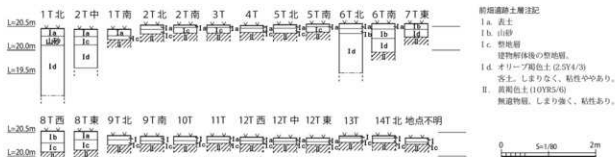
調査の結果、進入路及び擁壁工事で掘削される範囲は、現代の盛土である。建物部分についても、以上のような状況であり、埋蔵文化財は残存していないものと判断されることから慎重工事となった。



第 78 図 前畑遺跡調査地位位置図



第 79 図 前畑遺跡トレンチ配置図



第 80 図 前畑遺跡トレンチ実測図

写真 35 前畑遺跡調査状況



前畑遺跡調査地点 (北から)



2 トレンチ全景 (南から)



6 トレンチ調査状況 (東から)



9 トレンチ調査状況 (南から)



10・11 トレンチ調査状況 (南東から)



12・14 トレンチ調査状況 (南から)

10 岩崎原遺跡

所在地：岩崎西原原 1265-1

調査原因：宅地造成（調査依頼）

対象面積：584.00㎡

調査期間：平成27年9月15日

担当者：齋父雅史

当該地は、繁根木川右岸の台地上に位置し、標高約12mの地点に当たる。以前は畑として利用されていたが、調査前は樹木が生い茂っている状況であった。

明治2年の「高瀬藩図」によると、敷地は家臣団屋敷の範囲内であり、「中山鑄吉」の屋敷と書かれた位置にあたる。絵図の色分けから「御知行取」であったとされる。

敷地内に計5本のトレンチを設定して確認調査を行った。その結果、Ⅰ層が耕作土、Ⅱ層が灰黄褐色砂質土、Ⅲ層が黒褐色土、Ⅳ層が暗褐色土、Ⅴ層が黄褐色粘質土であった。Ⅱ層は、近世～近代までの陶磁器片を少量含み、Ⅲ層は粒状の土器片を少量混入する程度であった。また、いずれのトレンチにおいても、遺構は確認できなかった。

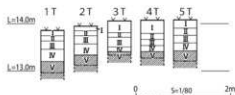
工事は、専用住宅2棟分の宅地造成である。東側と南側にそれぞれ駐車場が設けられるため、市道と同じ高さまで切土が行われる。また、市道に面してL字擁壁が施されるため工事立会となった。立会の結果、埋蔵文化財は確認されなかった。



第81図 岩崎原遺跡調査地位置図



第82図 岩崎原遺跡トレンチ配置図



岩崎原遺跡土層土記

- I. 耕作土
- II. 灰黄褐色土 (10YR5/2)
ややしるすが、粘性なし。砂粒多く混入。粗末期の
造成層と考えられる。
- III. 黒褐色土 (10YR3/2)
しるす弱い。粘性やや強い。炭化物少量。土器片を
粒状に少量混入する。
- IV. 褐色土 (10YR4/6)
しるすやや強い。粘性あり。砂粒を少量混入する。
- V. 濃い黄褐色土 (10YR5/4)
しるす。粘性ともIV層より強い。無遺物層。

第83図 岩崎原遺跡トレンチ土層柱状図



写真36 岩崎原遺跡調査状況

11 玉名平野遺跡群 (A 地点)

所在地：玉名字上徳 876 番外 15 筆

調査原因：学校施設（調査依頼）

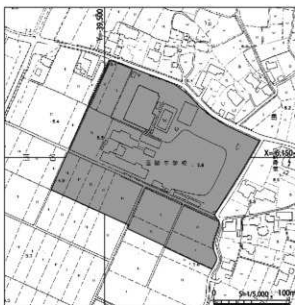
対象面積：16,929.00㎡

調査期間：平成 27 年 10 月 28 日～11 月 12 日

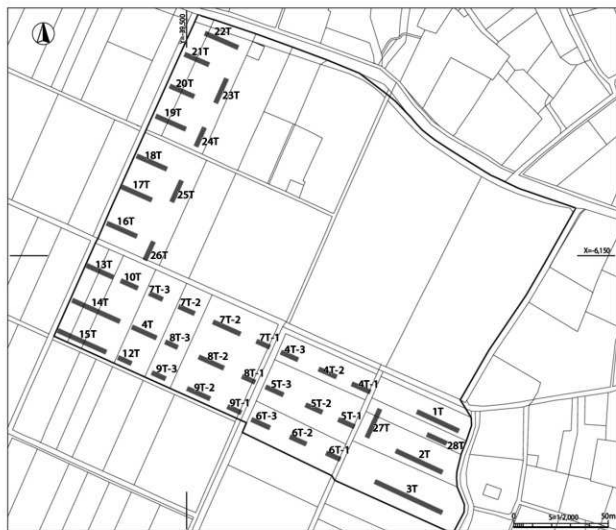
担当者：釐父雅史

調査地は、菊池川の右岸に位置し、標高約 6 m の地点にあたる。玉陵中学校の南西側に新たな学校施設の計画があり、調査依頼に伴って確認調査を実施した。

事業予定地内に計 28 か所のトレンチを設定し調査した結果、基本土層としてⅠ～Ⅴ層を確認した。遺物が少ないことから、土層の時期特定が困難であるが、おおむねⅠ層が現代の耕作土、Ⅱ層が近代、



第 84 図 玉名平野遺跡群 A 地点調査地位位置図



第 85 図 玉名平野遺跡群 A 地点トレンチ配置図

Ⅲ層が近世、Ⅳ層が古代～中世、Ⅴ層が古墳時代以前と考えられる。周辺の土層状況からも弥生時代以降、水田などとして土地利用が続いていたものと考えられるが、1トレンチで遺構の可能性のある落ちこみを1か所確認したほかは、いずれのトレンチにおいても畦畔や水路などの明確な遺構は確認されなかった。遺物は、弥生時代以降の土器片が全体で

約20点出土したが、ほとんどが小片であり、土器器皿片の割合が多かった。いずれも周辺からの流入によるものと考えられる。

工事の内容は、小学校施設新築工事である。確認調査の結果、明確な遺構は確認されなかったことから慎重工事となった。

写真 37 玉名平野遺跡群 A 地点調査状況



調査前状況 (東から)



重機掘削状況 (南から)



13トレンチ調査状況 (西から)



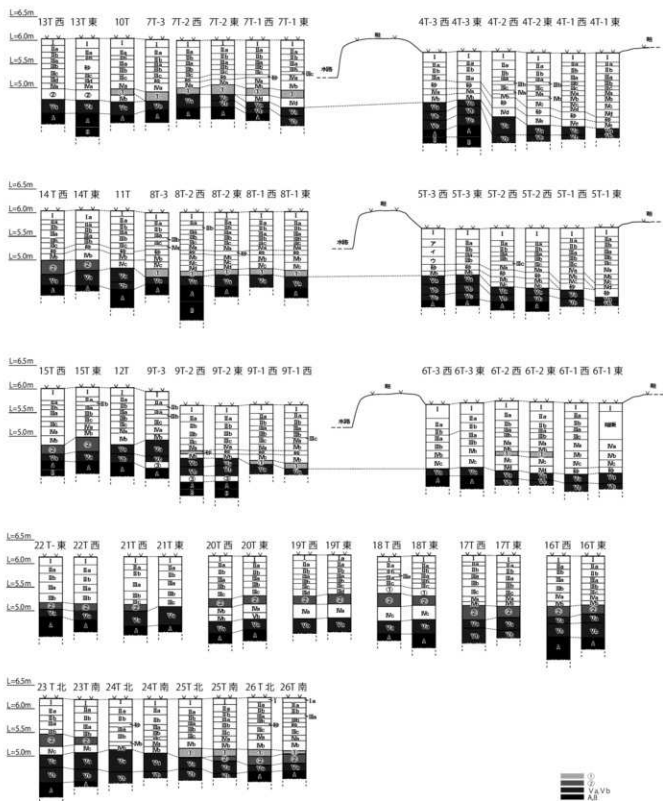
3トレンチ土層堆積状況 (東から)



5トレンチ調査状況 (南東から)



11トレンチ調査状況 (南から)



第 87 図 玉名平野遺跡群 A 地点トレンチ柱状図 2

写真 38 玉名平野遺跡群 A 地点調査状況



13 トレンチ全景 (西から)



15 トレンチ調査状況 (南東から)



16 トレンチ調査状況 (西から)



22 トレンチ調査状況 (東から)



21 トレンチ調査状況 (西から)



26 トレンチ調査状況 (南西から)

12 年の神道跡 (A地点)

所在地：岱明町野口2798-7

調査原因：送電線鉄塔

対象面積：168 m²

調査期間：平成27年10月21日～11月20日

担当者：末永 崇

調査地は、小岱山から南側に広がる低丘陵上に位置する、標高約18mの地点である。遺跡周辺は、昭和40年代に開田と呼ばれる大規模な農地造成工事が行われ、弥生時代中心の遺構、遺物が多く確認された。

南側隣接地の市道では、改良工事に伴い平成19年に確認調査を実施しており、弥生時代中期の土器片が出土している。

調査では、対象地に3ヶ所試掘トレンチを設定し、重機及び人力で掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。

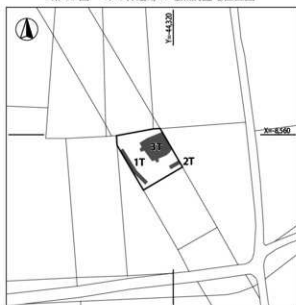
層位はI層からVI層までを確認した。I層は現代の耕作土、II層は暗褐色を呈する水田床土、III層はやや粘性を有する暗褐色土、IV層は黒褐色を呈する粘性土、V層は暗褐色土を呈する粘性土で、下位の部分はしまりが弱く、V aとV bに区分される。

遺物は、ローリングを受けた土器片がI層からV層まで検出され、特にIV層とV層からは甕棺片が多く出土した。VI層は褐色を呈するローム層で、無遺物層と判断される。堆積の状況や遺物の出土状況などから、I層からV層まで全体的に攪拌された層と判断される。

工事の内容は、送電線鉄塔の移設工事である。現地表面から全体的に約2.2m掘削し、コンクリート基礎が構築される内容であった。掘削部分は、過去の造成で本来の層位は保っておらず、遺構が存在する可能性は低いが、皆無とはいえないため工事立会となった。その後の工事立会の結果、遺構は確認されなかった。



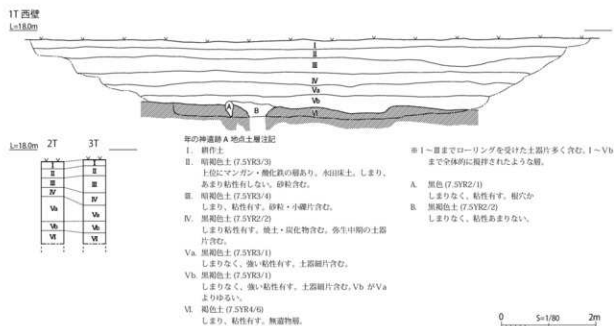
第88図 年の神道跡A地点調査位置図



第89図 年の神道跡A地点トレンチ配置図



写真39 年の神道跡A地点調査地状況(南から)



第 90 図 年の神遺跡 A 地点トレンチ土層断面図

写真 40 年の神遺跡 A 地点調査状況



1 トレンチ全景 (北から)



トレンチ掘削状況 (西から)



2 トレンチ土層堆積状況 (北から)



3 トレンチ全景 (西から)

13 玉名平野遺跡群 (B地点)

所在地：岩崎 88-5

調査原因：市民会館 (調査依頼)

対象面積：3740㎡

調査期間：平成 27 年 12 月 8 日

担当者：齋父雅史

調査地は、繁根木川左岸に接した河川氾濫原に位置する標高約 5 m の地点である。

現在は市民広場となっているが、以前は蓮根畑や水田として利用されていた。

事業予定地内に計 4 か所のトレンチを設定して調査した結果、現在の地表面から 1.6 ~ 1.8 m 下までは山砂による埋土層で、その下位が旧水田面であった。約 3 m 下まで掘削して確認したが、埋蔵文化財は確認されなかった。

4 トレンチは約 1.5 m から水が多量に出たため、掘削を中断して埋戻しを行った。

北側に所在する合同庁舎や市福祉センターの建設に伴う事前の確認調査でも河川氾濫に伴う砂が厚く堆積している状況であり、埋蔵文化財は確認されていない。



第 93 図 玉名平野遺跡群 B 地点トレンチ柱状図



第 91 図 玉名平野遺跡群 B 地点調査地位置図



第 92 図 玉名平野遺跡群 B 地点トレンチ配置図



写真 41 玉名平野遺跡群 B 地点確認調査状況 (南西から)

14 年の神遺跡 (B地点)

所在地：岱明町野口2465

調査原因：福祉施設

対象面積：2043.95㎡

調査期間：平成27年12月7日

担当者：釐父雅史

調査地は、小岱山から南側に延びる低丘陵上に位置する、標高16mほどの地点である。遺跡を含む丘陵一帯は、昭和40年代から「開田」と呼ばれる造成に伴って多くの遺物、甕棺墓などが出土している。

西側隣接地は、平成25年度に確認調査を行い数基の土坑等、多量の弥生土器が出土している。

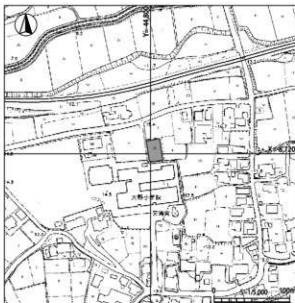
敷地内の現況は畑であり、今回、増築建物の基礎部分を掘削して1～4トレンチとし、埋蔵文化財の状況を確認した。全体の層位は、I層が耕作土、II層が開田時造成層、III層が黒褐色土の遺物包含層であり、IV層が無遺物層と判断した。いずれのトレンチにおいてもIV層上面で土坑、小穴など数基を検出した。遺物は、弥生時代中期の土器片を検出した。

平成25年度の調査範囲東側で確認されていた落ち込みは、古写真等から旧里道と考えられ、今回調査区のトレンチ西端で立ち上がってくる。

建物基礎部分に合わせてトレンチを設定して確認調査を実施したところ、弥生時代中期から後期にかけての土坑、ピットなどが全体的に多く検出されたうちカキ殻が多量に廃棄された土坑が2基あり、西側隣接地の調査区(H25年度調査)と同様の遺構が広がっている可能性が考えられる。

工事の内容は、福祉施設の増築工事である。基礎工事で、独立基礎と地中梁の部分が遺構のみで掘削される。よって、埋蔵文化財に対して影響が及ぶ範囲については発掘調査を実施することとなった。

発掘調査の結果については、本稿の最終章に掲載している。本稿では、確認調査時のトレンチ位置のみ掲載している。土層は本調査と同様である。



第94図 年の神遺跡B地点調査地位位置図



第95図 年の神遺跡B地点トレンチ配置図



写真42 年の神遺跡B地点確認調査状況(西から)

15 中尾川原遺跡

所在地：中宇春日出 1257-1,1258-2

調査原因：共同住宅

対象面積：592㎡

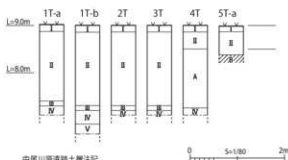
調査期間：平成 27 年 12 月 24 日

担当者：末永 崇

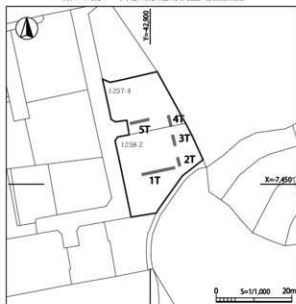
調査地は、境川左岸の低湿地に位置する、標高約 8 m の地点である。河川の氾濫原であり、建設予定地は盛土して造成されている。

調査では、建物予定地に 5ヶ所トレンチを掘削し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、盛土及び客土層（Ⅰ～Ⅲ、A、B 層）が地表から約 1.8m の範囲で確認された。Ⅳ層は黒色を呈する粘性土で旧表土層とみられる。Ⅴ層は暗緑灰色を呈する粘性土で砂を含む層であった。遺構、遺物は特に確認されなかった。

工事の内容は、既存住宅の解体後に共同住宅を新築するものである。調査の状況から、埋蔵文化財に対して影響ないと判断されることから慎重工事となった。



第 96 図 中尾川原遺跡調査地位置図



第 97 図 中尾川原遺跡トレンチ配置図

- 中尾川原遺跡土層注記
- I. 建物解体後の整地層
 - II. 砂層
 - III. 砂層の層下層で、還元して青灰色になった部分。
 - A. 褐色粘性土で、現代の瓦片・コンクリート片などを多く含む。
 - B. セメントで固まっている部分。
 - IV. 黒色土 (N1.5) しまりなく、強い粘性有す。砂粒含む。
 - V. 暗緑灰色 (G3/1) しまりなく、粘性有す。砂粒含む。

※Ⅰ～Ⅲ、A、Bは盛土層及客土層
※遺構、遺物確認されず。

第 98 図 中尾川原遺跡トレンチ柱状図



写真 43 中尾川原遺跡調査状況

16 玉名高校校庭遺跡 (A地点)

所在地：中宇堀内 1905-1, 1905-6

調査原因：店舗

対象面積：1782.08㎡

調査期間：平成28年1月7日

担当者：釐父雅史

調査地は、菊池川右岸の玉名台地上に位置し、標高約15mの地点にあたる。敷地内は、以前から店舗等が建っており、調査時は解体され駐車場として利用されていた。事業予定地内に3か所のトレンチを設定し確認調査を行った。

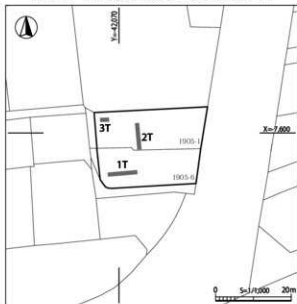
その結果、I層～V層を確認した。I層は碎石層、II層は以前の建物解体後の整地層で転圧されている。III層は、暗褐色粘性土で粒状になった土器片を微量に含む程度である。IV層は褐色土で炭化物、砂粒を微量に混入する。V層が褐色粘性土で無遺物層と判断した。1、3トレンチで確認したA層は、攪乱層であり、以前の建物に伴うタイルやコンクリート片が混入する。

いずれのトレンチにおいても遺物、遺構は確認できなかった。

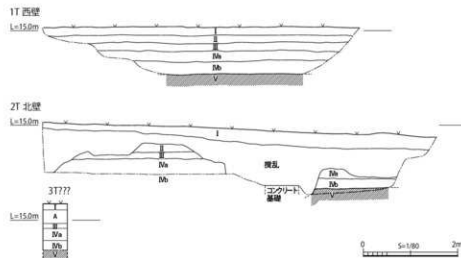
当工事に関しては、確認調査の結果から慎重工事となった。



第99図 玉名高校校庭遺跡A地点調査地位置図



第100図 玉名高校校庭遺跡A地点トレンチ配置図



第101図 玉名高校校庭遺跡A地点トレンチ土層柱状図

17 庄山中ノ尾遺跡

所在地：岱明町庄山中ノ尾 634-1

調査原因：店舗

対象面積：4704㎡

調査期間：平成 28 年 1 月 19 日

担当者：齋父雅史

調査地は、今泉川左岸の丘陵上に位置し、標高約 15 m の地点にあたる。

事業予定地内は平成 20 年度に試掘調査を行っているが、埋蔵文化財は確認されていなかった。しかし、別筆の東側においては古墳時代の住居跡が検出されており、遺構が残存している範囲が不明確であった。今回は遺跡の有無を調査する試掘であり、トレンチ設定が不足していたため、改めて 3 か所のトレンチを追加して確認調査を実施した。

その結果、耕作土の下位は、にぶい黄褐色粘性土（無遺物層）であり、いずれも埋蔵文化財は確認されなかった。3 トレンチにおいては客土層があり埋め立てが行われている状況であった。

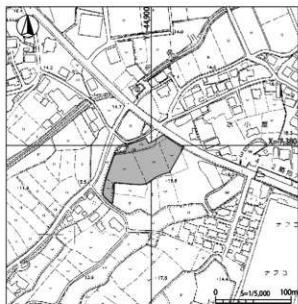
なお、東側で以前確認されていた古墳時代の遺構残存部分は店舗建設に伴い平成 27 年度に発掘調査を実施している。

<参考文献>

玉名市教育委員会 2009「玉名市内遺跡調査報告書VI」

玉名市文化財調査報告第 21 集

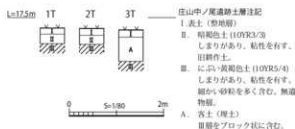
玉名市教育委員会 2017「庄山中ノ尾遺跡」玉名市文化財調査報告第 32 集



第 102 図 庄山中ノ尾遺跡調査地位位置図



第 103 図 庄山中ノ尾遺跡トレンチ配置図



第 104 図 庄山中ノ尾遺跡トレンチ土層柱状図



写真 44 庄山中ノ尾遺跡確認調査状況 (南から)

18 旧菊池川堤防

所在地：北牟田字居屋敷 15-1.15-2

調査原因：JA 集荷場

対象面積：2,982㎡

調査期間：平成28年1月20日

担当者：萱父雅史

調査地は、菊池川左岸の低湿地帯に位置する、標高約1mの地点である。中世以前の菊池川の流路と想定されている付近であるが、近現代の農地造成などで旧来の地形は残っていない。

西側隣接地で昨年度に確認調査を行っており、埋蔵文化財は確認されていない。

今回、主に掘削が発生する調整池及び防火水槽予定地付近の2ヶ所にトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。防火水槽については、予定地に井戸があり一帯はコンクリートが貼ってあったため、掘削が可能な東側にトレンチを設定した。

土層は、I～VII層までを確認した。I～IV層までは耕作に伴う層で、酸化鉄と二酸化マンガンの粒を含む。V・VI層は暗灰色粘性土、VII層は灰色砂質土であった。遺構、遺物は検出されず、西側隣接地と同様に堤防及び河川流路等の痕跡も確認されなかった。

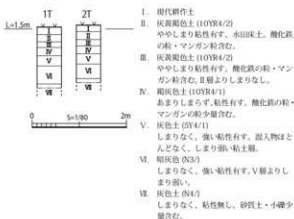
確認調査の結果から慎重工事となった。



第105図 旧菊池川堤防調査地位置図



第106図 旧菊池川堤防トレンチ配置図



第107図 旧菊池川堤防トレンチ土層柱状図



写真45 旧菊池川堤防調査地点 (東から)

19 東中土遺跡

所在地：岱明町中土天神木 1171

調査原因：公園施設

対象面積：431㎡

調査期間：平成 28 年 1 月 22 日

担当者：齋父雅史

調査地は、友田川左岸の低丘陵上に位置しており、標高約 12 m の地点にあたる。現在は岱明中央公園の敷地内となっている。当公園は昭和 45 年、旧岱明町によって整備され、球場を兼ねた競技場、テニスコートなどがある。

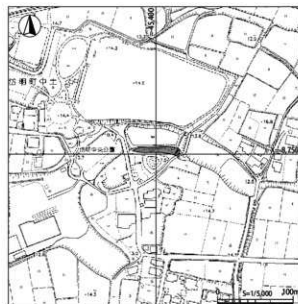
工事箇所は、公園東側にある調整池と展望広場の中間にあたり、既存の東屋 3 基とベンチ 4 基がある。

周辺の状況から、調整池付近は、元々浅い谷部であったと考えられ、緩やかな傾斜地を公園の園路及び休憩所として整備されている。

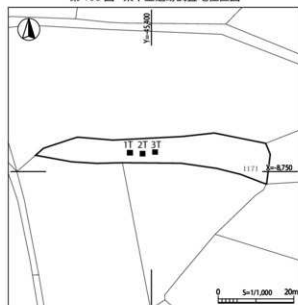
今回、東屋が建っていた 3 か所をトレンチとして設定し、解体後に確認調査を行った。

調査の結果、いずれのトレンチも現況の地表面から約 1.2 m 下まで盛土が行われており、埋蔵文化財は確認されなかった。

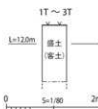
基礎部分が約 1.15 m 掘削される予定であるが、盛土内に取まることから、慎重工事となった。



第 108 図 東中土遺跡調査地位位置図



第 109 図 東中土遺跡トレンチ配置図



第 110 図 東中土遺跡トレンチ土層柱状図



写真 46 東中土遺跡確認調査状況 (西から)

20 幸長寺遺跡 (B地点)

所在地：岱明町浜田東原 85

調査原因：専用住宅

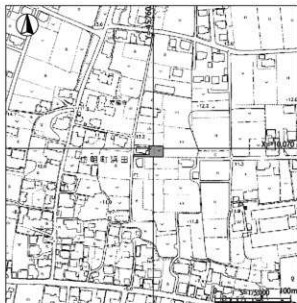
対象面積：574.09㎡

調査期間：平成28年2月9日

担当者：末永 崇

調査地は、小岱山から南側に広がる低丘陵上に位置する、標高約13mの地点である。調査では、敷地内の建物部分に2ヶ所トレンチを設定した。層位は、I層からVIII層までを確認した。I層が表土、II、III層が暗褐色を呈する粘性土、IV、V層は極暗褐色から黒色を呈する粘性土で、中世の土器片を少量確認した。VI層は黒褐色土の層で、VII層はVIII層への漸移層、VIII層にはふい褐色を呈する層で、VIII層上面でピットを検出した。VI～VIII層では土器片は確認されていない。

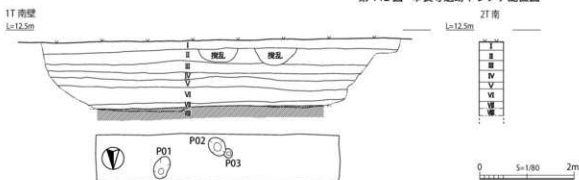
工事の内容は、個人による専用住宅新築工事である。基礎工事の掘削は埋蔵文化財に対して影響はない。柱状改良杭については、遺構面まで達するものの、杭径が20cmで狭小であり、遺構の密度も低いことから、埋蔵文化財に対して大きな影響は及ぼさないことから慎重工事となった。



第111図 幸長寺遺跡調査地位位置図



第112図 幸長寺遺跡トレンチ配置図



- I. 表土
- II. 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり、粘性有す。
- III. 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり、粘性有す。II層より粘性有り。
- IV. 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまり、粘性有す。丸礫片・炭化物少量含む。説人物多、履跡されたような層。

- V. 極暗褐色土 (7.5YR2/3) ややしまり、強い粘性有す。丸礫片・炭化物多く含む。土器片含む。説人物多、履跡されたような層。
- VI. 黒色土 (7.5YR2/1) あまりしまらず。粘性なし。説人物なく、ササヤクした土質。遺物確認されず。
- VII. 黒褐色土 (7.5YR3/2) あまりしまらず。粘性なし。VI～VIIへの漸移層。遺物確認されず。

- VIII. 高い褐色土 (7.5YR5/3) ややしまり。あまり粘性有しない。無遺物層。上面でピット検出。
- P1 黒色土 (7.5YR2/1) 円礫と炭化物の混入層。
- P2 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり粘性有す。
- P3 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり粘性有す。

第113図 幸長寺遺跡トレンチ実測図

21 玉名高校校庭遺跡 (B地点)

所在地：中1908-1、岩崎1210-2

調査原因：保育園 (調査依頼)

対象面積：2169.69㎡

調査期間：平成28年3月1日

担当者：齋父雅史

調査地は、菊池川右岸の台地上に位置し、標高約15mの地点にあたる。敷地の北側に保育園舎が建っており、南側が運動場となっていた。

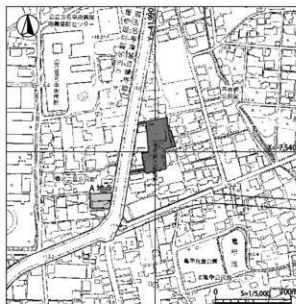
平成27年度に、県道西側で実施している確認調査では、埋蔵文化財は確認されていない。

当該地は、調査依頼に基づき、建物が計画されている運動場内の3か所において埋蔵文化財の状況を確認した。土層は、I層が運動場の整地層、II層は客土、III層が暗褐色粘性土、IV層が褐色粘性土、V層が明褐色粘性土(無遺物層)であった。いずれのトレンチにおいても遺構は確認されず、遺物は、III層内にローリングを受けた土器細片がわずかに混入する程度であった。旧地形は、西から東側へかけて緩やかに傾斜しており、敷地の東側は浅い谷となっている。ローリングを受けた遺物は周辺からの流れ込みと考えられる。

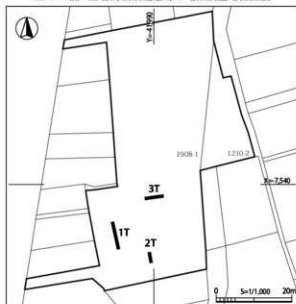
今回の工事は、保育園を新築するものである。掘削は基礎部で約1.4m、直径約45cmの杭も入る計画であるが、確認調査の結果及び近辺の調査例などから埋蔵文化財が存在する可能性は低いことから慎重工事となった。



第116図 玉名高校校庭遺跡B地点トレンチ断面図



第114図 玉名高校校庭遺跡B地点調査地位置図



第115図 玉名高校校庭遺跡B地点トレンチ配置図



写真47 玉名高校校庭遺跡B地点調査状況 (南東から)

22 伊倉年の神道跡

所在地：伊倉北方年の神 1691-1
 調査原因：不動産売買（調査依頼）
 対象面積：1,380㎡
 調査期間：平成28年3月10日
 担当者：釐父雅史

調査地は、菊池川左岸の丘陵上に位置する、標高約32mの地点である。現況は畑となっていた。

当遺跡は中世の包蔵地となっており、過去に瓦器や土師器が採集されている。

北西側には「岩井口横穴群」が所在している。台地の北側は凝灰岩の崖面となっており、現状で3基の横穴が確認できる。しかし、竹がかなり繁茂しており本格的な調査も行われていないため詳細は不明である。

東側の280m先には、主体部が舟形石棺とされる「垣塚古墳」が所在している。

当該地は、調査依頼に基づいて確認調査を実施した。敷地全体で5本のトレンチを設定して調査した結果、いずれのトレンチにおいても、耕作土（約20cm）の直下は、黄褐色粘性土であり、埋蔵文化財は確認されなかった。

畑や周辺にも遺物の散布は認められず、耕作地であった頃から無遺物層まで削平を受けていたものとみられ、埋蔵文化財が存在している可能性は低いものと考えられる。

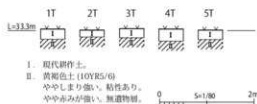
工事の内容は、専用住宅の予定であるが確認調査の結果から、慎重工事を指示することとなった。



第117図 伊倉年の神道跡調査地位置図



第118図 伊倉年の神道跡トレンチ配置図



第119図 伊倉年の神道跡トレンチ土層柱状図



写真48 伊倉年の神道跡調査地点（北から）

23 高瀬藩邸跡 (C地点)

所在地：岩崎 1158

調査原因：宅地造成 (調査依頼)

対象面積：1,049.4㎡

調査期間：平成 28 年 3 月 15 日～16 日

担当者：齋父雅史

調査地は、繁根木川右岸の台地上に位置しており、標高約 11 m の地点である。一帯は、幕末から明治初頭にかけて高瀬藩邸とそれを囲むように家臣団の屋敷群があったとされており、当該地は範囲の中で南西側に位置している。

明治 2 年の「高瀬藩図」によると、敷地内は当時 8 区画に区割りされており、8 件分の家臣屋敷が建っていたものと想定される。絵図の色分けから「御知行取」であったと考えられる。

事業予定地内に計 7 か所のトレンチを設定し確認調査を実施した結果、北西側において石組みの井戸跡を 1 基検出した。

井戸は凝灰岩製の切石を円形に積み上げた構造であり、平成 26 年度の近隣調査区で出土した井戸と同様の構造であった。しかし、周囲の敷石はなく、素掘りの掘方が検出されたのみであった。

その他のトレンチは以前の建物基礎や攪乱が多かったが、1・5 トレンチにおいては中世の土師器を含むピットを検出した。検出面は、1 トレンチが表土の 20cm 下から、5 トレンチは 80cm 下からであった。5 トレンチでは整地層と包含層が間に堆積している状況であった。

その他、当時の屋敷区割りを示した痕跡は確認できなかったが、井戸は屋敷に伴ったものと考えられる。しかし、前項で述べたように「高瀬藩図」には井戸の位置を示してあるが、当位置には井戸の印はなかった。記載もれなのか、描かれた明治 2 年の頃にはなく、前後した時期に掘られたのかは明確でない。また、井戸枠に対して掘方の形状は楕円形に近く、中心部からずれて石組みがあることから、梯子などを設置し井戸を掘る際に上り下りできるようにしていたものと考えられる。

その後、当該地での開発行為は行われていない。



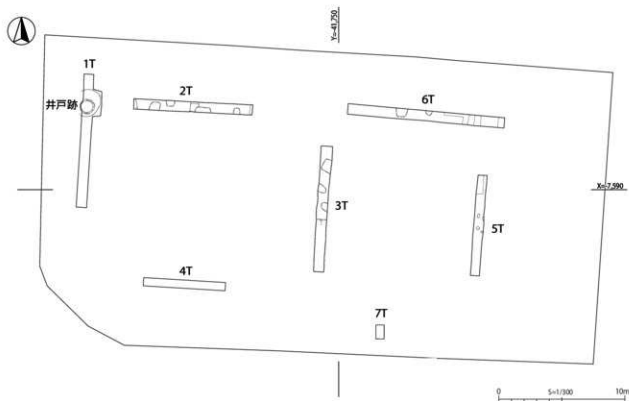
第 120 図 高瀬藩邸跡 C 地点調査地位置図



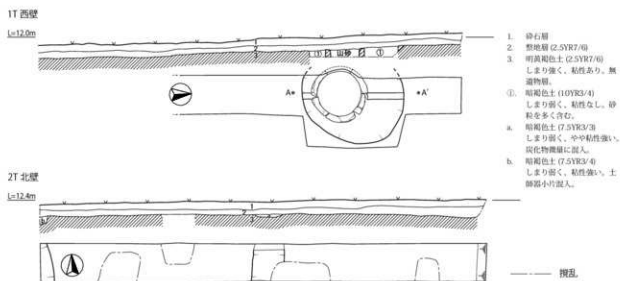
第 121 図 高瀬藩邸跡 C 地点トレンチ配置図



写真 49 高瀬藩邸跡 C 地点調査地点 (西から)



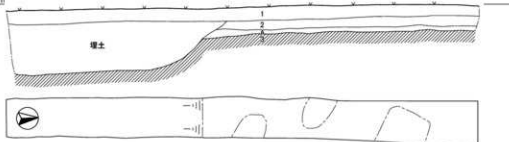
第 122 図 高瀬藩邸跡 B 地点遺構配置図



第 123 図 高瀬藩邸跡 B 地点トレンチ実測図 1

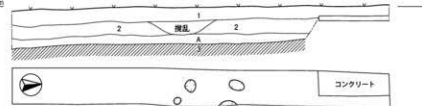
3T 西壁

L=12.4m



5T 西壁

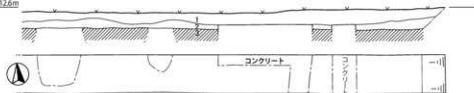
L=12.4m



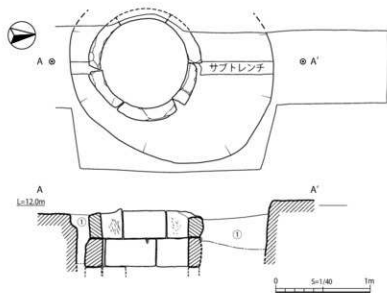
1. 砕石層
2. 整地層 (2.5YR7/6)
3. 明瓦褐色土 (2.5YR7/6)
しまり強く、粘性あり。無
遺物群。
- A. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまり弱く、粘性あり。炭
化物少量混入。土師器片を
粒状に少量含む。

6T 北壁

L=12.6m



第124図 高瀬藩邸跡B地点トレンチ実測図2



第125図 高瀬藩邸跡B地点井戸跡実測図

写真 50 高瀬藩邸跡 B 地点調査地点調査状況



1 トレンチ井戸跡検出状況 (南から)



1 トレンチ全景 (矢印が井戸跡)



2 トレンチ全景 (西から)



2 トレンチ検出遺構 (南から)



5 トレンチ検出遺構 (南から)

24 後田古墳

所在地：石貫 2946 地先

調査原因：現地踏査

調査期間：平成 28 年 3 月 29 日

担当者：齋父雅史

当古墳は、小岱山南麓に広がる低丘陵上に位置し、標高約 45 m の地点にあたる。同丘陵の東側は凝灰岩の崖面となっており、国指定史跡である石貫ナギノ横穴群が所在する。南北約 280 m にわたって 48 基の横穴が確認されているこの丘陵上には以前熊野座神社があったが、昭和初期の火災によって焼失、その後南東側の繁根木川沿いに再建され、鳥居なども移築されている。

現在、跡地は竹がかなり生い茂っており、痕跡を探るのは困難であったが、測量図をみると旧境内の状況がよくわかる。丘陵下の南北方向に延びる里道もかつての参道であり、急な崖面を登るとさらに約 130 m の参道跡がある。少し開けてくると、灯籠などの石造物が倒壊して点在する状況となる。

旧境内の範囲は、約 1 m 低く削平後に整地されているものと考えられ、北側の本殿跡西側あたりに竹に覆われた状態で、わずかに凝灰岩の石材が確認できる。竹の枯葉にも隠れているため、石棺の全容は清掃しないと観察できなかった。

現地の状況、測量図からも墳丘の痕跡は明確ではないが、わずかに楕円形に高まりがある部分があり、石棺の位置とほぼ重なることから、墳丘の名残である可能性がある。

当古墳は、昭和 25 年頃に玉名高校考古学部によって調査されており、石棺内から鉄剣片、刀子片などが出土しているが、現物が不明であり確認できない。

そのため、以前調査時の石棺実測図と出土遺物実測図を参考程度に転載している。

今回は、市内遺跡の現状確認のための踏査であり、掘削を伴う調査は行っていない。石棺も埋没していたため、実測は行わなかった。

石棺は舟形石棺であり、高木恭二氏の分類では北肥後 1 型にあたる。同類は玉名地域で多く分布しており、特に溝上周辺に集中している。青木には凝灰

岩の断崖もみられる。このようなことから菊池川下流右岸の溝上・青木周辺が北肥後 1 型舟形石棺の製作地と推定されている（高木 2012）。

当石棺の蓋は全体が確認でき、全長 1.56 m、やや長めの縄掛突起が両端に付く。高木氏の集成編年によると 3 期にあたり、同じ下流域では前方後円墳である山下古墳の舟形石棺とほぼ同時期とされている。系譜としては、院塚古墳 2 号石棺（岱明）から宮ノ後古墳石棺（溝上）へ、その後真福寺古墳石棺（溝上）及び小路古墳石棺へとつながっていく。

<参考文献>

- ① 田邊哲夫 1991 「玉名の歴史 第 5 回—舟形石棺のふるさと玉名」『歴史玉名』第 5 号 玉名歴史研究会
- ② 高木恭二 2012 「菊池川流域の古墳」国立歴史民俗博物館研究報告第 173 集
- ③ 佐藤夕香 2018 「石貫の後田古墳を訪ねて」『歴史玉名』第 79 号 玉名歴史研究会

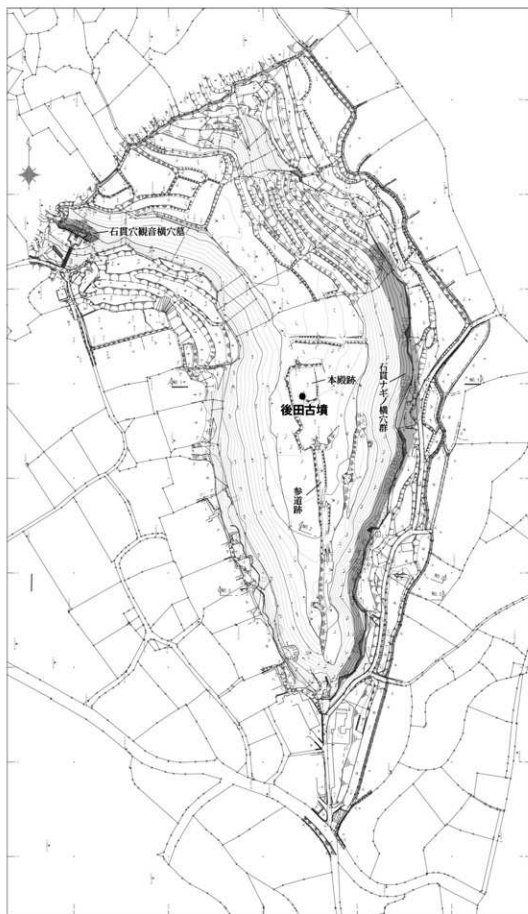
写真 51 後田古墳調査状況



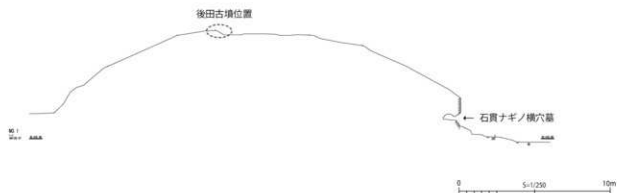
後田古墳がある丘陵遠景（南から）



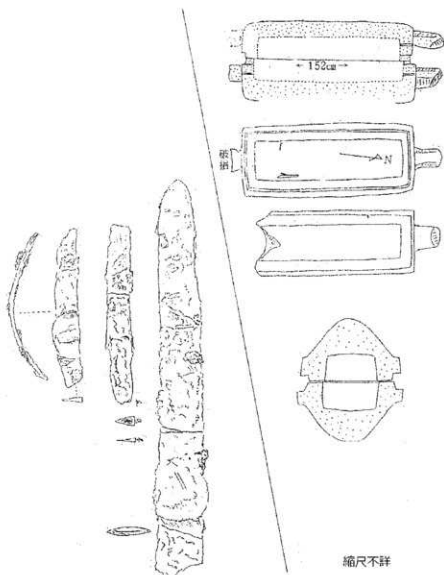
旧熊野座神社参道跡（南から）



第 126 図 後田古墳位置図および周辺地形測量図 (S=1/2,000)



第127図 後田古墳付近の横断面



第128図 後田古墳石棺実測図および出土物実測図（文献①より転載）

写真 52 後田古墳調査状況



石棺確認状況 (東から)



石棺清掃後 (西から)



石棺蓋 (東から)



石棺蓋端掛突起部 (北から)



石棺検出状況 (東から)

IV. 発掘調査

1 山下木佐貫遺跡

所在地：岱明町山下 451-1.452-1

調査原因：共同住宅

調査面積：497㎡

調査期間：平成 26 年 11 月 4 日～ 12 月 15 日

1. 調査に至る経緯

主体者から平成 26 年 9 月 19 日付で文化財保護法第 93 条による届出がなされた。建物基礎部分及び駐車場部分の掘削が生じる内容であったため、確認調査を実施した（前章 18 頁参照）。調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため協議を実施。

平成 26 年 10 月 10 日付教文第 2065 号で熊本県教育長から工事の影響を受ける範囲に関しては発掘調査を実施するよう通知を受けた。玉名市教育委員会から平成 26 年 10 月 29 日付玉市教文第 239 号にて文化財保護法第 99 条による発掘調査の通知をし、平成 26 年 10 月 31 日付で玉名市と主体者で契約書及び協定書を交わし、調査に着手した。

2. 調査体制（平成 26 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一

調査総括 教育部長 伊子裕幸

文化課長 中山富雄

課長補佐 竹田宏司

文化財係長 小山 博

庶務担当 参事 西島涼子

調査担当 参事 田中康雄

発掘作業員 中島明子 森辰興 坂口國広

中島義直 橋本雄一 吉田成文

3. 遺跡の位置及び周辺

当遺跡は、境川と友田川に挟まれた標高約 8～15m の低丘陵上に位置しており、東側の崖下は旧海岸であったと考えられる。北側の同丘陵上には年の神遺跡、塚原遺跡など弥生時代中後期から古墳時代中期までの遺跡が続いている。さらに北側には木船西遺跡、大原遺跡、東南大門遺跡といった大規模



第 129 図 山下木佐貫遺跡調査地位置図および周辺遺跡分布図

たと考えられる。

S 0 8 (竪穴住居：弥生時代後期)【第 133 図】

北東側は調査区外であり、削平も受けているため、全体の形状は不明であるが短辺は約 2.7 m を測る。ベッド状遺構もほぼ消失しており、壁周溝が残る。炉は楕円形であり、炉跡及び西側のピット周辺に硬化面が認められた。明確な柱穴は確認できなかった。

S 1 0 (竪穴住居：弥生時代後期)【第 134 図】

調査区内において、唯一全体の形状が明確で残存率が良好であった遺構である。長辺が 5.8 m、短辺が 4 m を測る。両側にベッド状遺構を有し、南側に土坑が付く。他の遺構にはみられなかったが、ベッド状遺構部分を除いて、床面すべてが硬化面と化している。中央部に方形の炉があり、付近に炭化物が残存していた。炉跡を挟み東西に 2 本の柱穴を有する。南側の土坑内からは完形の長頸壺、付近から高環が出土した。

S 1 3 (竪穴住居：弥生時代後期)【第 135 図】

北側は調査区外のため、全体の形状は不明であるが、長辺約 5.5 m、短辺 3.6 m の規模を測る。壁周溝がめぐり、両側にそれぞれ L 字型のベッド状遺構があるものと想定される。中央部に方形の炉があり、おそらく南北方向に 2 本の柱穴があったと考えられる。

S 1 4 (竪穴住居：弥生時代後期)【第 136 図】

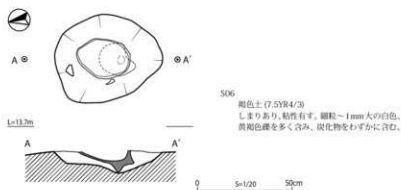
調査区の西端にあたり、南側は攪乱を受けているため全体の形状が明確でない。東側にベッド状遺構、一部に壁周溝がある。南側に土坑がある。

ベッド状遺構の下段付近に深いピットがあるため、柱穴であれば 2 本柱であった可能性がある。

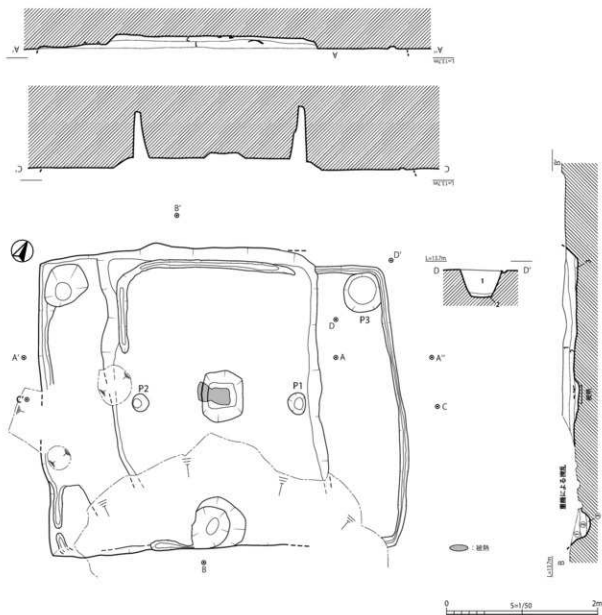
S 1 5 (竪穴住居：弥生時代後期)【第 137 図】

調査区内で最も残存度が低い住居跡である。ベッド状遺構なども削平され、一部の壁周溝や炉跡、ピット、土坑のみが残存する。周溝の痕跡から南北方向の短辺は 4 m と想定される。

中央部に不整形な炉があり、これを挟むように柱穴があることから、2 本柱であったと考えられる。



第 131 図 S06 実測図



S04

1. 暗褐色土 (7.5YR3/2)

ややしまりあり。粘性強い。5mm程度の白色砂粒、地山由来の黄褐色土をわずかに含む。

2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

しまりは弱く、粘性を有す。5～10mm大の白色砂粒、黄褐色土をわずかに含む。

3. 黒褐色土 (7.5YR3/2)

しまりは弱く、粘性を有す。10mm大の黄褐色土をやや多く含む。住居以前の樹木痕?

4. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

しまりは弱く、粘性も強い。炭化物、下位の焼土をまばらに含む。伊藤層土。

5. 赤褐色土 (2.5YR4/6)

しまりは弱く、粘性はない。焼熱により赤変した伊藤の層。

①. 暗褐色土 (7.5YR3/4)

ややしまる。粘性弱い。白色砂粒、黄褐色土をまばらに含む。

②. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

しまりは弱く、粘性を有す。白色砂粒、黄褐色土をわずかに含む。

③. 暗褐色土 (7.5YR3/4)

しまりは弱く、粘性有す。黄褐色土をブロック状にまばらに含む。

P1. 暗褐色土 (7.5YR3/4)

しまりは強い。粘性を有す。細粒～10mm大の黄褐色土、黄褐色土、白色暗褐色の砂粒、炭をまばらに、炭化物をわずかに含む。

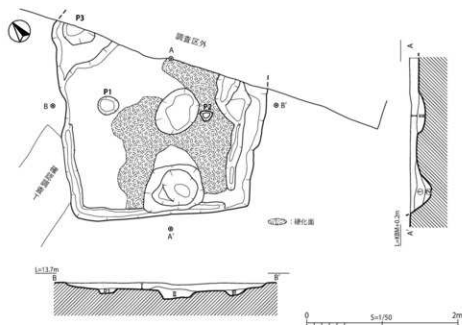
P2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

しまりは強い。粘性を有す。細粒～5mm大の黄褐色土、炭化物をまばらに、焼土をわずかに含む。

伊藤層

暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりは強い。粘性弱いがある。10mm大の黄褐色土。細かい炭化物をまばらに含む。

第 132 図 S04 実測図



S08

- I. 黒褐色土 (10YR3/2)
しまりがあり、多少粘性を有する。白色砂粒、焼土粒、炭化物粒を含む。
- II. 黒褐色土 (10YR2/3)
ややしまりがあり、粘性を有する。焼土粒、炭化物粒を多く含む。砂跡と思われる。
- III. 暗褐色土 (10YR3/4)
ややしまりがあり、粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。壁期溝か。
- ①. 暗褐色土 (10YR3/3)
しまりがあり、多少粘性を有する。白色砂粒、焼土粒、炭化物粒を多少含む。
- ②. 暗褐色土 (10YR3/4)
ややしまりがあり、粘性を有する。炭化物粒を多少含む。

P1.P2.

- 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりがあり、多少粘性を有する。地山(褐色7.5YR4/6)を粒状に含む。小礫、白色砂粒をわずかに含む。

P3.

- 暗褐色土 (7.5YR3/2)
ややしまりがあり、粘性を有する。白色砂粒、炭化物粒、焼土粒を含む。柱穴か。

第 133 図 S08 実測図

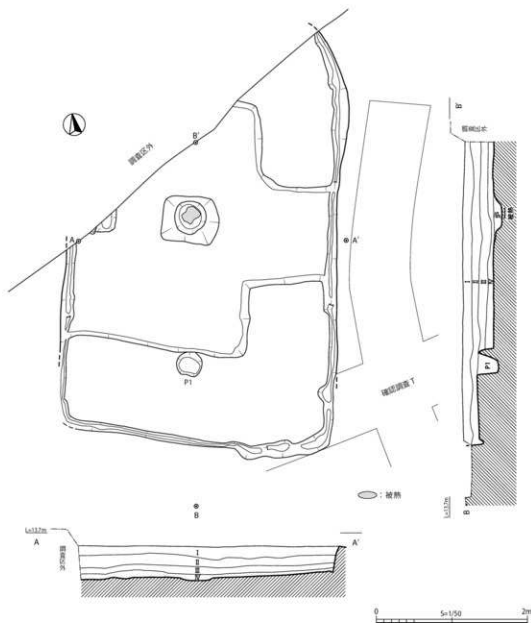
S01 (竪穴住居：古墳時代初頭)【第 138 図】

東側は調査区外に及ぶため全体の形状は不明であるが、長辺は 4.7 m を測る。遺構は全体的に約 40 年前の造成によって大半が削平されたものと考えられる。西側にコの字型と考えられるベッド状遺構及び壁周溝を有する。床面直上で弥生時代終末期から古墳時代初頭の甕、坏、器台等が出土し、特に甕は口縁部を下にした状態で検出されたため、土器祭祀の可能性も考えられる。調査区内の住居跡では最も多く土器が出土し、出土地点も床面上でまとまって検出されたことから時期の特定がほぼ可能である。

<まとめ>

当遺跡は昭和 40 年代に玉名高校考古学部などによって発掘調査されたが、造成中の緊急的な一部調査であり、住居跡が確認されていたものの、遺跡の性格などは不明確であった。今回の本調査によって、残存率は低いが 7 基の竪穴住居跡が検出されたことにより、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落が当該地にも広がっていたことが改めて確認された。また、小児棺であった可能性もあるが、甕棺墓が 1 基確認されたことにより、弥生時代中期から遺跡が営まれていたことが伺える。

住居跡も削平を受けていたものの、ある程度の構造がわかった。形状が長方形に近く、そのほとんどが中央部に柱があり、ベッド状遺構、壁周溝が認め



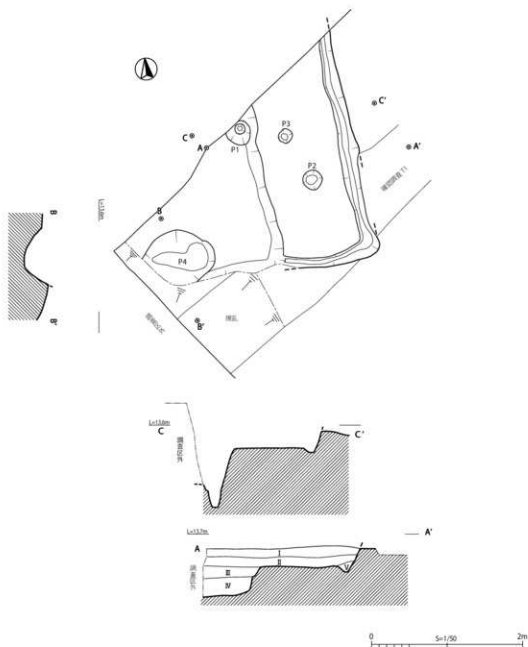
S13

- I. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりがあり、粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。焼土粒、炭化物粒を含む。
- II. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。焼土粒、炭化物粒を多少含む。
- III. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。焼土、炭化物を含む。
- IV. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。焼土、炭化物を含む。炭化物が土硬化したものか。
- V. 褐色土 (10YR4/6)
任意鉄、床面。ほぼ大平が硬化している。(地山が硬化)。ベッド状遺構部では部分的に硬化面が赤化し、土器状になっている。

9号 黒色土 (7.5YR2/1)

- ややしまりがあり、強い粘性を有する。炭化物、焼土含む。
- P1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ややしまる。粘性は弱い。焼土質褐色土、白色鉄、炭化物をわずかに含む。
- P2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ややしまる。粘性強い。焼土、白色鉄、炭化物を含む。

第 135 図 S13 実測図

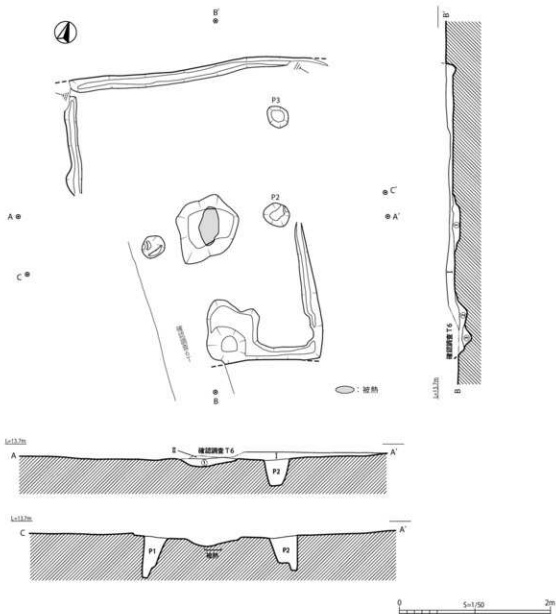


S14

- I. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりがあり、粘性を有する。白色砂粒を多く含む。
- II. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒を多く含む。
炭化物粒を多少含む。
- III. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりがあり、多少粘性を有する。白色砂粒を多く含む。炭化物粒を多少含む。
- IV. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒を多く含む。
炭化物を多少含む。
- V. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ややしまりがあり、粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。
- VI. 褐色土 (10YR4/6)
柱状跡床面。1～5cm 大程の小礫を多く含む。(地山。) ペッド状露頭部は硬化が強い。それ以外は硬化する。

- P1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりがなく、強い粘性を有する。1～3cm 大の小礫を含む。
- P2. 暗褐色土
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒を含む。
- P3. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ややしまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒を含む。
- P4. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりがなく、強い粘性を有する。1～5cm 大の小礫を多く含む。

第 136 図 S14 実測図



S15

1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

①. 黒褐色土 (7.5YR2/2)

②. 暗褐色土 (7.5YR3/4)

③. 暗褐色土 (7.5YR3/3)

P1. 黒褐色土 (7.5YR3/2)

P2.

P3. 黒褐色土 (7.5YR2/2)

しまりがあり、ほとんど粘性を有しない。白色砂粒を多く含む。

あまりしまりがなく、強い粘性を有する。多量の燧土、炭化物を含む。非熟内覆土。

しまりがあり、粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。

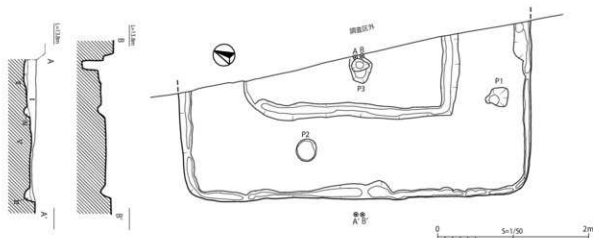
しまりがあり、強い粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。

ややしまりがあり、強い粘性を有する。燧土、炭化物を含む。

P1 と同層と思われるが、燧土、炭化物がやや少ない。

ややしまりがあり、粘性を有する。白色砂粒を含む。

第137図 S15実測図



S01

- I. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりがあり、わずかに粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む。
- II. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
ややしまりがあり、粘性を有する。炭化物の粒をわずかに含む。砂粒が。
- III. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
ややしまりがあり、粘性を有する。早期溝内層土。
- IV. 褐色土 (7.5YR4/3)
ベッド状遺構より内側の溝壁土。ややしまりがあり、粘性を有す。地山由来の黄色、白色砂粒をわずかに含む。

- V. 褐色土 (7.5YR4/4)
しまりがあり、強い粘性を有する。仍別層相当層と考えられる。地山。
- P1. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりは弱く、粘性を有する。褐色粒をわずかに含む。
- P2. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
ややしまりあり、粘性を有する。白色、褐色砂粒をわずかに含む。
- P3. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまり弱い。粘性を有する。西側には目録が入っていた浅いくぼみがある。土柱穴か。

第138図 S01実測図

られ、2本柱であった。このような構造は、玉名地域では弥生時代後期からあり、周辺では山田に所在する高岡原遺跡なども認められる。また、弥生時代後期の住居跡が8基、古墳時代前期の住居跡が14基確認された塚原遺跡でも同様の構造をしており、同遺跡でも古墳時代になって変化がないことがわかった。

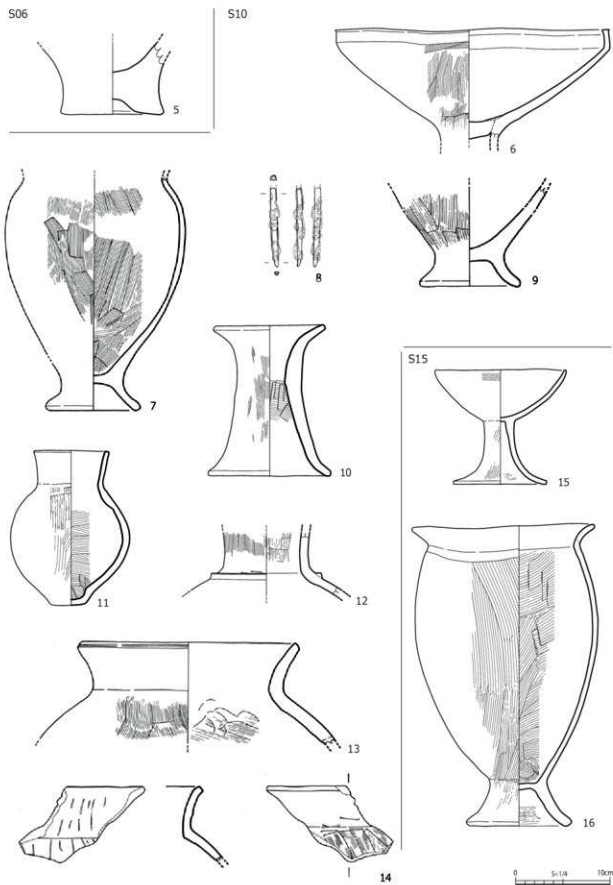
竈穴住居は、出土遺物からS01のみが古墳時代初頭と考えられ、他は弥生時代後期と考えられる。

遺物の5は、S06の甕棺墓から出土した甕の底部である。7は、脚付甕であるが胴部の最大径が上部にくるタイプである。11は、ほぼ完形の壺である。口縁部は長く立ち上がりやや外反する。底部はやや丸みを帯びる。16は、S15出土の脚付甕で、やや長胴気味である。口縁部は外反し、全体的に歪みが見られる。17・18は、S13出土の甕上半部であるが、肩が張り、頸部に横方向のナデが見られる。

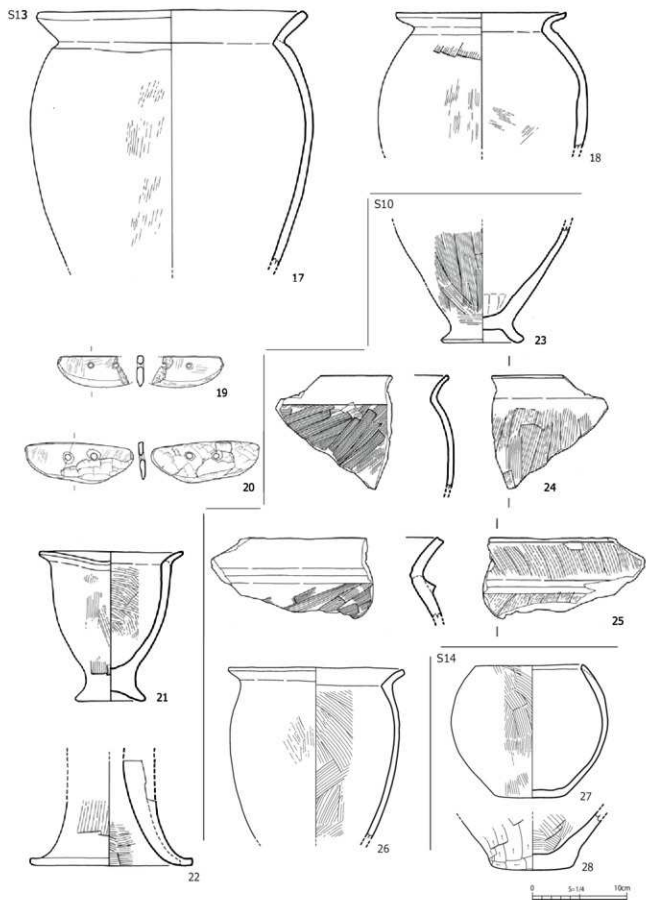
21は、S13出土の小型脚付甕で、胴部・脚部共に短い。27は、S14出土の鉢型土器で、胴部は球形に近い丸みを帯び、平底となる。28は、壺の底部とみられ、平底であるがやや丸みを帯びるところは、S10出土の11と共通する。

これ以下はS01出土の遺物である。29は、甕の上半部で、頸部のくびれが弱く、胴部にはタキが明瞭に残る。32は、甕であるがやや長胴気味で、頸部のくびれが弱い。タキ後にナデ調整している。

35は、布留系の甕で口縁部は外反し、胴部中に最大径がくる。底部はやや尖り気味である。39は、同じく甕で口縁部は外反しながらも、先端部は内湾する。40・43は、器台であり脚部が高く、特に43は丸みを帯びながら広がり穿孔がある。

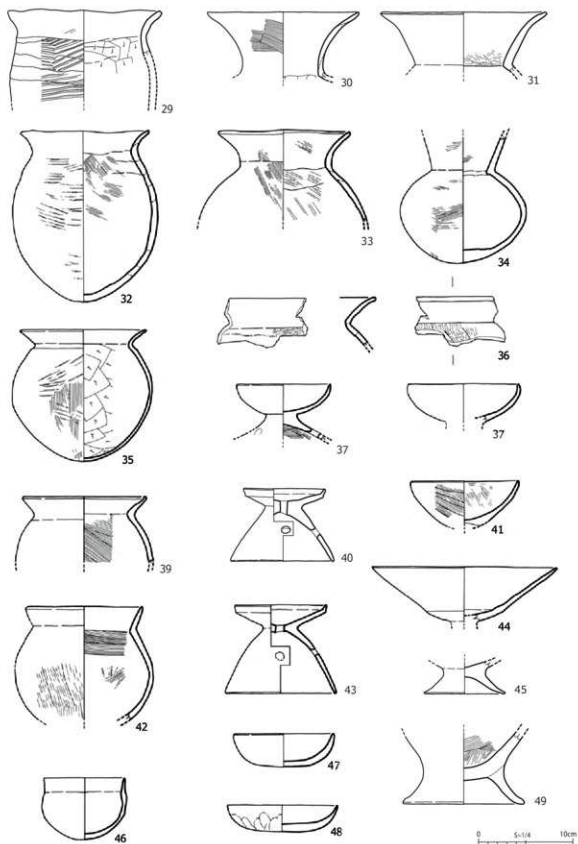


第139図 山下木佐貫遺跡遺物実測図1



第 140 図 山下水佐貫遺跡遺物実測図 2

S01



第 141 図 山下水佐貫遺跡出土遺物実測図 3

写真 53 山下水佐貫遺跡調査状況 1



調査風景
(東から)



S10 遺物出土状況
(南東から)



S10 完掘状況
(南東から)

写真 54 山下水佐貫遺跡調査状況 2



S13 遺物出土状況
(東から)



S14 遺物出土状況
(東から)

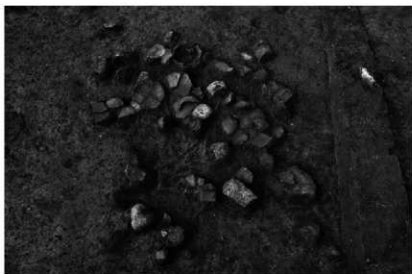


S15 完掘状況
(南から)

写真 55 山下水佐貫遺跡調査状況 3



501 遺物出土状況
全景（西から）



501 遺物出土状況
（南から）



501 発掘状況
（西から）

2 年の神遺跡

所在地：岱明町野口 2465

調査原因：福祉施設

調査面積：120㎡

調査期間：平成 28 年 1 月 6 日～1 月 29 日

1. 調査に至る経緯

主体者から平成 27 年 11 月 19 日付で文化財保護法第 93 条による届出がなされた。基礎が地中梁構造であったため、確認調査を実施した（前項 66 頁参照）。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため協議を実施。届出を達達し、平成 28 年 1 月 5 日付教文第 1913 号で熊本県教育長から工事の影響を受ける範囲に関しては発掘調査を実施するよう通知を受けた。玉名市教育委員会から平成 28 年 1 月 5 日付玉市教文第 355 号にて文化財保護法第 99 条による発掘調査の通知をし、平成 28 年 1 月 5 日付で玉名市と主体者で契約書及び協定書を交わし、調査に着手した。

2. 調査体制（平成 27 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一

調査総括 教育部長 伊子裕幸

文化課長 中山富雄

課長補佐兼文化財係長 竹田宏司

庶務担当 参事 西島涼子

調査担当 参事 田中康雄、主任 中村安宏

発掘作業員 主地本 敦、中川幸一、尾崎延枝、

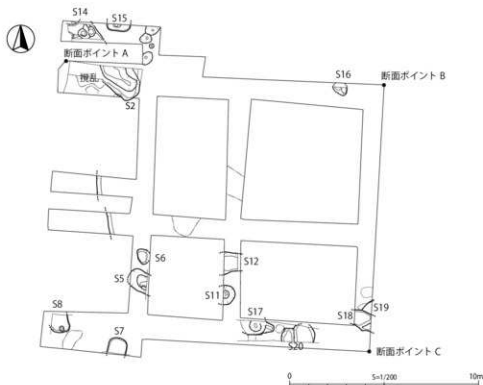
古賀武子、福田まき

3. 遺跡の概要

当遺跡は、前項の山下木佐貫遺跡の北東側に位置している。昭和 40 年代における広範囲な造成時に遺物が出土したため緊急的な発掘が実施された。中でも支石墓に伴う甕棺内からゴホウラ貝製の腕輪が 7 点出土した他、細型銅矛片などが採集されている。特に甕棺墓は多く確認されており、近年の調査例では、甕棺内から石剣片が検出された。これらの分布から、東西方向の丘陵に沿った広域な墓地群が形成されていた可能性が考えられる。



第 142 図 年の神遺跡 B 地点調査位置図および周辺遺跡分布図



第 143 図 年の神道跡遺構全体図

当地の西側隣接地は、現在福祉施設が建っているが、その基礎部分は平成 25 年度に調査を実施している。弥生時代中期の土坑、ピットが多数確認されており、中にはやや大型の円形土坑などがあり、遺物としても全面赤彩や暗文、線刻のある壺など祭祀的要素がある遺物が出土している。

なお、明確な住居跡は確認されておらず、貝殻を多量に含む廃棄土坑などが確認されている。

<参考文献>

玉名市教育委員会 2017「玉名市内遺跡調査報告書IX」
玉名市文化財調査報告第 33 集

4. 調査の方法

確認調査後の協議結果、遺構が検出され工事の影響を受ける範囲（地中梁が入る基礎部分のみ）の計 120㎡を調査対象とした。よって、トレンチ状の調査区となった。遺構の可能性のあるものは順次番号を付して掘り下げを行った。なお、この調査区以外の遺構は現状保存されている。

5. 遺構と遺物

S 0 2

トレンチ状の調査区であるため全体の形状は不明であるが、幅約 1.5 m の楕円形に近い土坑とみられる。形状から北側の S 14 とつながり同遺構となることも考えられる。

S 0 5

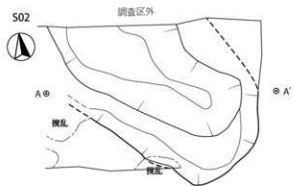
全体の形状は不明であるが、幅約 1 m の方形に近い土坑とみられる。検出面からの深さは 0.5 m で、4 層から貝殻が出土している。

出土遺物及び出土状況から、遺構の性格は、廃棄土坑であったと考えられる。

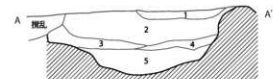
S 0 7

南側が調査区外のため、全体の形状は不明であるが、幅約 1 m の楕円形に近い土坑とみられる。検出面からの深さは 0.4 m で、下層から貝殻が多量に出土している。貝殻はカキを中心としており、他にハイガイなどが検出されている。

出土遺物及び出土状況から、遺構の性格は、廃棄



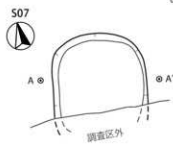
L=16.0m



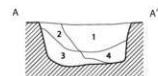
S02

1. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、やや粘性強い。1～2mm 大のオレンジ石含む。1～2mm 大の炭化物含む。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりが強く、粘性強い。2～5mm 大のオレンジ石含む。1mm 大の炭化物含む。
3. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
ややしまり、粘性強い。1～3mm 大のオレンジ石含む。
4. 明褐色土 (7.5YR5/6)
しまりが強く、粘性強い。ほとんどが、S1 の 3 層の無遺物層の土をブロック状に含む。
5. 明褐色土 (7.5YR3/3)
ややしまり、粘性強い。1mm～1cm 大のオレンジ白石含む。
6. 仿明褐色。ガジガジで砂っぽい。無遺物層。

0 S=1/40 1m

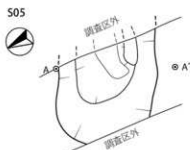


L=16.0m

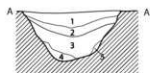


S07

1. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、粘性弱い。1～3mm 大のオレンジ粒 (地山の土) 含む。1mm 大の炭化物を含む。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりが強く、粘性弱い。1mm～1cm 大 (ブロック状) のオレンジ粒含む。1mm 大の炭化物を含む。3よりも黒く、地山の土が小さい。
3. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
しまりが強く、粘性弱い。5mm～2cm 大の地山の土をブロック状に含む。1～2mm 大の炭化物を含む。2よりも黄色で地山の土が大きい。
4. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、粘性強い。1cm 大の炭化物含む。目録多量混入し、フカフカしており、水分を多く含む。

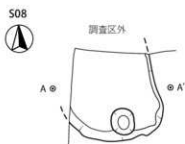


L=16.0m



S05

1. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、粘性弱い。1～3mm 大のオレンジ粒 (地山の土) 含む。1mm 大の炭化物を含む。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
しまりが強く、粘性弱い。1mm～1cm 大 (ブロック状) のオレンジ粒含む。1mm 大の炭化物を含む。3よりも黒く、地山の土が小さい。
3. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
しまりが強く、粘性強い。5mm～2cm 大の地山の土をブロック状に含む。1～2mm 大の炭化物を含む。2よりも黄色で地山の土が大きい。
4. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、粘性強い。1cm 大の炭化物含む。目録多量混入し、フカフカしており、水分を多く含む。



L=16.0m

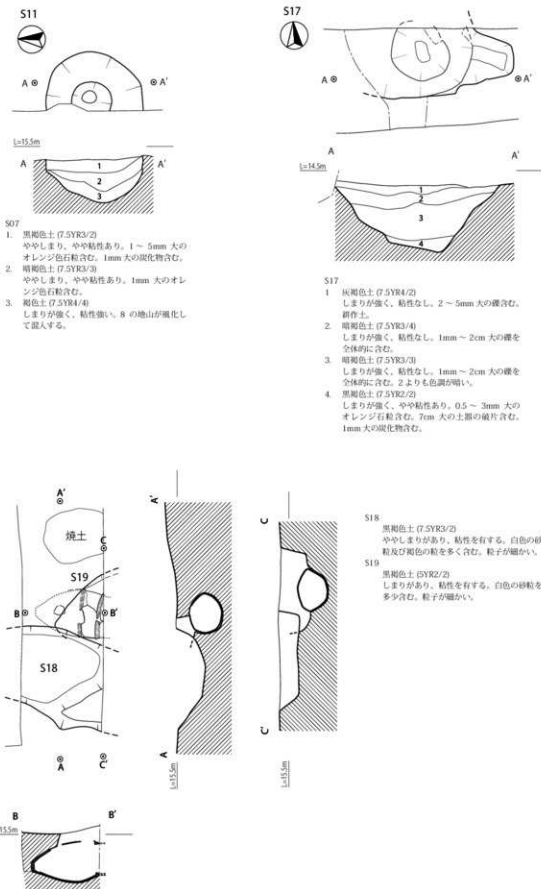


S08

1. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりが強く、粘性弱い。2mm～10mm 大の炭化物含む。1～3mm 大の地山の土含む。

0 S=1/40 1m

第 145 図 年の神道跡 S02,05,07,08 実測図



第 146 図 年の神遺跡 S11,17,18,19 実測図

土坑であったと考えられる。

S08

北西側が調査区外のため、全体の形状は不明であるが、幅約1mの方形に近い土坑とみられる。削平を受けており、深さは約0.2mしか残存していない。

S11

全体の形状は不明であるが、直径約1mの円形土坑とみられる。深さは検出面から約0.5mを測る。遺構の性格は不明である。

S17

全体の形状は不明であるが、土坑とみられる。深さは検出面から約0.7mを測る。貝殻が多量に出土していることから、廃棄土坑とみられる。

S19

全体の形状は不明であるが、裏棺墓である。S18と切り合っており、深さは検出面から約0.5mを測る。調査区内では下襲のみ検出し、上襲は工事の影響を受ける可能性もあったため、抜き取り後に接合復元した。

下襲の埋納状況はほぼ水平であり、墓坑の検出プランに対して1/3程度は西側へ入り込んでいた。中型の合口裏棺とみられ、下襲の口縁部を意図的に打ち欠き、上襲と合わせている。下襲は胴部の上位に最大径があり、断面M字の突帯が付く。なお、突帯部分の剥離面を観察したところ、1条の沈線が並行して残ることがわかった。突帯を張り付ける以前の割付線と考えられる。上襲は口縁部直下に突帯が付く。上襲は、近辺の塚原遺跡でも同型があり、下襲はのタイプは、東南大門遺跡に類型がある。副葬品などは確認できなかった。

<まとめ>

年の神道跡は、過去の緊急的な調査例はあったものの、近年の発掘調査例はほとんどなく、不明な点が多かった。平成17年度の調査で、1基の裏棺墓が出土し、遺跡範囲の東端まで広がっていたことが

わかった。さらに塚原遺跡の発掘調査によって裏棺墓が21基（うち墓坑のみ8基）確認されたことにより、さらに西側へも広がっていることが推測される。

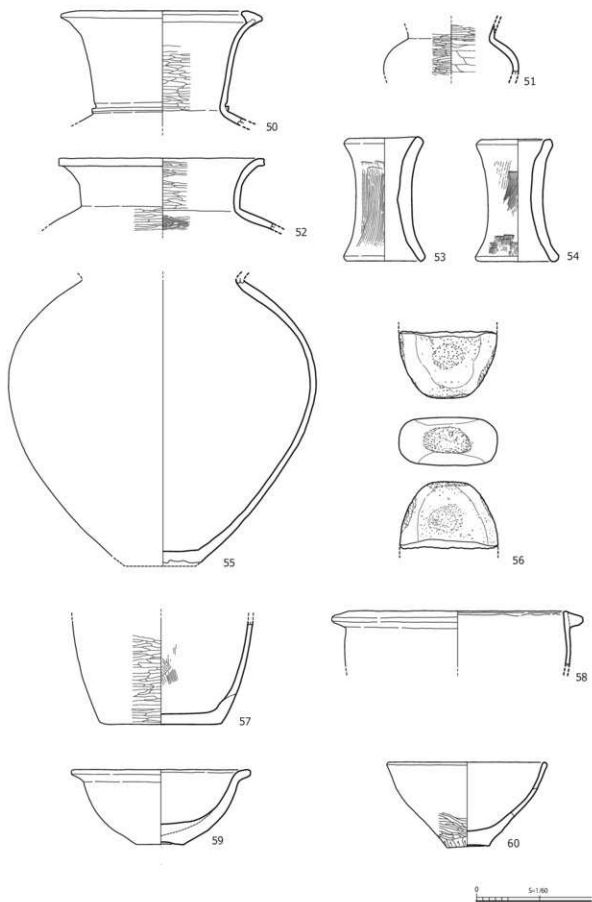
当遺跡の隣接地（平成25年度の調査区）と今回の調査区を合わせて検討すると、明確な住居跡は確認されず、裏棺墓や廃棄土坑、祭祀的要素がある土器などが出土している。廃棄土坑としている2基の土坑から多量の貝殻等が出土しており、今後も遺構の性格の検討が必要と考えられる。この2基の土坑内出土の自然遺物の詳細はまだ調査中であるが、概要を報告したい。

<年の神道跡出土の動植物遺存体について>

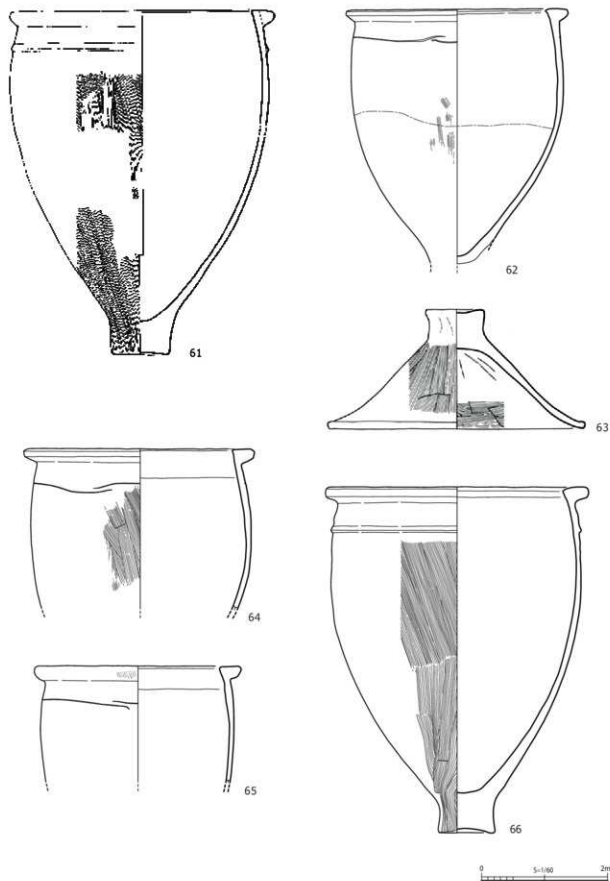
土坑であるS07とS17では貝層が検出された。S07からは0.86㎡、S17からは0.03㎡の貝層土壌を採取し、ハンドピッキングで大型の遺依体を抽出した後にウォーターセパレーションにて細かい遺物等の抽出を行った。抽出された遺存体はそのほとんどが食用二枚貝のマガキである。遺存体では貝類が非常に多く、少量の脊椎動物を含み、炭化した植物遺存体もみられた。他に剥片等の遺物が出土した。

貝類の約9割はマガキであり、二枚貝のハイガイ、ヤマトシジミ、オオノガイが多く、淡水のタニシ類、干潟のウミナナ類やヘナタリ類、そして内湾砂底のアカニシなどの巻貝も多い。出土貝類の生息域は淡水、汽水、内湾泥底、内湾砂底、岩礁と幅広いが、貝類採集はマガキの生息する潮間帯から汽水が中心であったとみられる。また少量ではあるが、マルタニシは乾湿を繰り返す乾田の存在を暗示する。脊椎動物は魚類、鳥類、哺乳類としてはクマネズミ、モグラ、シカ、イノシシがみられ、植物は炭化したもののみで、炭化米等が少量みられた。

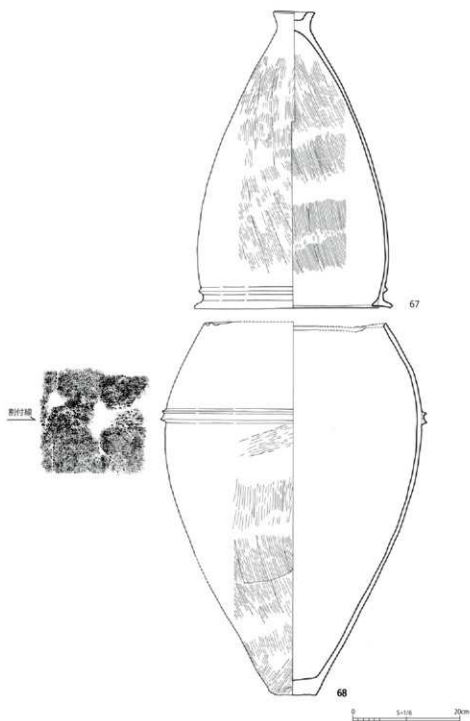
遺物は土器細片、安山岩・黒曜石の剥片等が出土し、加えて、骨角器の端材とみられる切断されたシカの中足骨片も出土した。<菊土直樹>



第147図 年の神遺跡遺物実測図1



第 148 図 年の神道跡出土遺物実測図 2



第 149 図 年の神道跡出土遺物実測図 3

写真 56 年の神道跡調査状況 1



発掘調査地全景
(南西から)

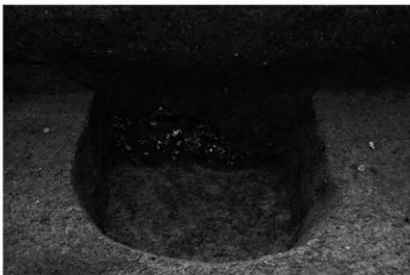


発掘調査区全景
(南西から)



S02・S14 付近発掘
状況 (北から)

写真 57 年の神遺跡調査状況 2



S07 発掘状況
(北から)



S19 墓棺墓出土状況
(南から)



S19 墓棺墓出土状況
(南から)

第2表 平成26・27年度出土遺物総覧表(土器類) 1

調査番号	遺物名	出土地点	類別	器種	部位	口径	高さ	重量	口縁	底径	底面	外面	内面	土質	構成	備考
14	1	豊島寺遺跡	3トレンチ501	中部陶器	鉢	耳付～口縁	-	-	-	-	にぶい黄褐色 5YR6/3	にぶい黄褐色 5YR6/3	にぶい黄褐色 5YR6/3	1～3mmの長石・チャート・磁石(磁石類)を含む	良	深縁鉢片か
14	2	豊島寺遺跡	502	須恵焼	片蓋	耳付～口縁	(13.8)	4.6	-	-	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	1～2mmの長石・磁石を含む	良		
26	3	高井谷遺跡	3トレンチ4	弥生土器	高杯	-	-	-	-	-	褐色 2.5YR7/6	褐色 2.5YR7/6	1～2mmの石灰・磁石を含む	不良		
26	4	豊島寺遺跡	5トレンチ部上中	弥生土器	鉢	-	-	-	-	-	暗黒褐色 10YR2/4	暗黒褐色 10YR2/4	1～2mmの長石・石灰・磁石を含む	良		
139	5	山下水汲遺跡	506	弥生土器	高杯	底面	10.9	-	-	-	黒褐色 7.5YR8/4	黒褐色 7.5YR8/4	1～2mmの石灰・磁石・銅を含む	不良		
139	6	山下水汲遺跡	510	弥生土器	高杯	杯底部	20.5	-	-	-	褐色 2.5YR6/6	褐色 2.5YR6/6	1～2mmの長石・磁石・銅を含む	良		
139	7	山下水汲遺跡	510 I層	弥生土器	鉢	口縁～底面	10.2	(24.8)	-	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	黒褐色～2mmの長石・磁石を含む	普通	胴部中央に黒点か	
139	9	山下水汲遺跡	510 II層	弥生土器	鉢	底面	-	(10.8)	-	-	にぶい褐色 2.5YR6/4	にぶい褐色 2.5YR6/4	1mmの長石・磁石・角閃石を含む	普通	内面皿・片欠	
139	10	山下水汲遺跡	513 III層	弥生土器	鉢	胴下位～底面	-	8.8	(12.4)	-	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	黒褐色～1mmの長石・磁石を含む	普通		
139	11	山下水汲遺跡	510	弥生土器	器	口縁部	8.0	3.8	17.1	-	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	黒褐色～1mmの長石・磁石・角閃石を含む	良		
139	12	山下水汲遺跡	510 I層	弥生土器	器	口縁～底面	-	-	(8.7)	-	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	黒褐色～1mmの長石・角閃石を含む	良		
139	13	山下水汲遺跡	510 II層	弥生土器	器	口縁～底面	(15.6)	-	(7.1)	-	黒褐色 7.5YR8/4	黒褐色 7.5YR8/4	1mmの長石・磁石・角閃石を含む	良		
139	14	山下水汲遺跡	510 I層	弥生土器	器	口縁～底面	-	-	(8.0)	-	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mmの長石・磁石・角閃石を含む	普通		
139	15	山下水汲遺跡	515	弥生土器	高杯	口縁部	14.0	9.9	32.3	-	黒褐色 10YR8/3	黒褐色 10YR8/3	1mmの石灰を含む	良	胴部平野(黒点)	
139	16	山下水汲遺跡	515	弥生土器	餅付羹	口縁部	(19.4)	11.2	32.0	-	にぶい褐色 2.5YR6/4	にぶい褐色 2.5YR6/4	1～3mmの長石・石灰・金銅粉を含む	良		
140	17	山下水汲遺跡	513	弥生土器	鉢	口縁部	(28.8)	-	-	-	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	1～5mmの長石・石灰・金銅粉を含む	良		
140	18	山下水汲遺跡	513	弥生土器	鉢	口縁部	18.1	-	-	-	黒褐色 10YR8/3	黒褐色 10YR8/3	1～5mmの長石・石灰・金銅粉(くろく)を含む	良		
140	21	山下水汲遺跡	513	弥生土器	鉢	口縁部	(15.2)	(7.4)	(15.9)	-	黒褐色 10YR8/3	黒褐色 10YR8/3	1～5mmの長石・石灰・金銅粉を含む	良		
140	22	山下水汲遺跡	513	弥生土器	餅付	口縁部	-	-	(17.2)	-	黒褐色 10YR8/3	黒褐色 10YR8/3	1～2mmの長石・石灰を含む	良		
140	23	山下水汲遺跡	510	弥生土器	餅付	口縁部	11.9	13.0	36.0	-	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	1mmの長石・石灰・金銅粉を含む	良		
140	24	山下水汲遺跡	513 III層	弥生土器	鉢	口縁部	-	-	(12.0)	-	にぶい褐色 2.5YR7/6	にぶい褐色 2.5YR7/6	黒い石灰・磁石・角閃石を含む	普通	一部黒点か	

第2表 平成26・27年度出土遺物総覧表(土器類) 2

調査 番号	遺物名	出土地点	類別	器種	部位	口径	底径	高さ	器底位置		器底形状		色調		出土	備考	
									外周	内周	外周	内周	外周	内周			外周
140	25	山下水産調査跡	513 田原	弥生土器	鉢	口縁一部	-	-	(8.5)	ハバメ ハバメ残片	ハバメ ハバメ	淡褐色 10YR8/4	淡褐色 10YR8/3	褐色～2cmの石莖を多く含む	良		
	26	山下水産調査跡	514	弥生土器	脚付鉢	口縁一部	18.7	-	-	ハバメ残片	ハバメ残片	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 7.5YR7/6	1～5cm程度の石莖・石莖・角片を含む	良		
	27	山下水産調査跡	514	弥生土器	鉢	口縁一部	(11.4)	7.5	34.1	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	淡褐色 10YR7/4	にぶい淡褐色 10YR7/4	1～3cm程度の石莖・石莖・角片を含む	良	黒縁あり	
	28	山下水産調査跡	514	弥生土器	鉢	口縁	-	8.6	-	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	赤褐色 10YR6/8	褐色 2.5YR6/2	1～2cmの石莖・角片を含む	良		
	29	山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	16.3	-	-	口：ナリ 胴：ハバメ	口：ナリ 胴：ハバメ	黄：にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 7.5YR6/6	褐色の石莖を多く含む	良		
	30	山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	16.0	-	-	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	1cm程度の石莖・石莖・角片を含む	良		
	31	山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	鉢	口縁部	(17.6)	-	(6.4)	ナリ	ナリ	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR6/6	褐色の石莖・角片・角片・角片を多く含む	良		
	32	山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	(13.6)	-	18.2	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	褐色 2.5YR6/6	にぶい淡褐色 10YR7/4	1～2cm程度の石莖を多く含む	良		
	33	山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	(14.0)	-	-	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	褐色 5YR6/6	にぶい淡褐色 10YR6/4	1～2cm程度の石莖・石莖・角片を含む	良		
	34	山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	-	-	-	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	褐色 2.5YR6/6	淡褐色 10YR8/3	1cm程度の石莖・石莖・角片を含む	良		
	35	山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	13.4	-	14.0	9.9 ハバメ	ハバメ ハバメ	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 2.5YR7/4	褐色の石莖・石莖・角片を含む	良		
	36	山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	鉢	口縁一部	-	-	(5.2)	ナリ ハバメ	ナリ ハバメ	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色の石莖・石莖・角片を多く含む	普通		
	141	37	山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	脚付鉢	口縁部	10.0	-	(5.9)	ナリ	ナリ	褐色 5YR7/6	褐色 2.5YR7/6	褐色の石莖・石莖・角片を多く含む	良	
		38	山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	脚付鉢	口縁部	12.0	-	(4.1)	ナリ	ナリ	褐色 2.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色の石莖・石莖・角片を多く含む	普通	
39		山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁一部	(13.2)	-	-	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	赤褐色 2.5YR6/8	にぶい淡褐色 10YR7/3	褐色の石莖・石莖・角片を含む	良	赤縁あり	
40		山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	鉢	口縁部	8.7	11.2	7.7	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	赤褐色 2.5YR6/8	褐色 5YR6/6	褐色の石莖・石莖・角片を含む	良	赤縁あり	
41		山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	鉢	口縁部	11.5	-	(4.8)	ハバメ ハバメ	ハバメ ハバメ	褐色 5YR6/6	赤褐色 5YR6/6	褐色の石莖・石莖・角片を含む	良	赤縁あり	
42		山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	鉢	口縁一部	(12.4)	-	(12.1)	ナリ ハバメ	ナリ ハバメ	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色の石莖・角片を多く含む	普通		
43		山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	鉢	口縁一部	(9.8)	(11.8)	9.4	不明	不明	淡褐色 2.5YR8/4	淡褐色 7.5YR6/6	1cm程度の石莖・長石を含む	良	赤縁あり	
44		山下水産調査跡	501	土師器	高坪	口縁部	(19.6)	-	(5.9)	不明 (ナリ)	不明 (ナリ)	褐色 2.5YR7/6	褐色 2.5YR6/6	褐色の石莖・石莖・角片を含む	普通		
45		山下水産調査跡	501 藤下層(伊達遺上)	土師器	脚付鉢	口縁部	-	(8.6)	(3.4)	ナリ	ナリ	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色の石莖・石莖を多く含む	良		
46		山下水産調査跡	501	弥生土器	鉢	口縁部	8.5	-	6.6	ナリ	ナリ	淡褐色 10YR8/4	淡褐色 10YR8/4	1～3cm程度の石莖・角片を含む	不良		

第2表 平成26・27年度出土遺物調査表(土器類) 3

調査 番号	遺物名	出土地点	種別	群體	部位	寸法(cm)		数量		色調		土質	備考							
						口径	高さ	外周	内周	外周	内周			表面	内面					
141	山下水産資源跡	501 最下層 (浮遊層上)	土師器	鉢	口縁～ 底	106	-	3.5	ナナ	ナナ	赤色: 磁土褐色 2.5YR6/6 3.4	黒～2cmの灰赤く 黒い層・角閃石多 く含む 1～2cmの 赤褐色の頁石・石炭 を含む	良							
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	黒褐色 ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
														底～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 2.5YR6/6	良
147	泉の神楽池跡B地塊	517	赤生土器	蓋	口縁～ 胴部	-	-	-	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	黒褐色の頁石・石炭・ 石・磁土・炭屑を含む	良							
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
														口縁～ 胴部	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR7/3	良
148	泉の神楽池跡B地塊	517	赤生土器	鉢	口縁～ 底	126	27.2	-	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	黒褐色の頁石・石炭・ 石・磁土・炭屑を含む	良							
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/2	良
149	泉の神楽池跡B地塊	519 上層(1層)	赤生土器	蓋(1枚)	口縁～ 底	34.0	9.0	64.8	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	黒褐色の頁石・石炭・ 石・磁土・炭屑を含む	良							
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良
														口縁～ 底	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	赤褐色 10YR5/3	良

第3表 平成26・27年度出土遺物取附表（石器類、金属器類）

遺物 番号	遺物名	出土地点	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
139	8 山下水佐原遺跡	510	鉋頭?	18.41	10.7	0.3	8	-	
140	19 山下水佐原遺跡	513	石筥丁	3.3	7.5	0.7	23	板岩質?	灰色 (10P85/1)
147	20 山下水佐原遺跡	513	石筥丁	4.1	11.4	0.6	35	板岩質	褐色 (8B6/1) にふく褐色 (75P85/3)
147	56 田の沖遺跡B 地区		(礫石・粗末石配用) 打石	?	10.4	5.1	-	安山岩	6重利用

玉名市文化財調査報告 第37集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅹ

— 平成26・27年度の調査 —

平成30年3月15日印刷

平成30年3月23日発行

編集発行 玉名市教育委員会

〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163

TEL 0968-75-1136・FAX 0968-75-1138

印刷 株式会社 有明印刷

〒865-0022 熊本県玉名市寺田123-1

TEL 0968-73-2055・FAX 0968-72-3504